10周年記念誌

10年のあゆみ

～札幌の人づくりをめざして～

財団法人札幌市青少年婦人活動協会

「１０周年の歩み」正誤表

１０周年記念誌の中に誤りがございましので、謹んで訂正させていただきます。

ページ・行	誤	正
13・右下説明	丘珠たから児童会館にて	婦人文化センター（スポーツ講座）
30・左2 行目	昭和53年3月。	昭和53年5月。
34・右罫線内 9 行目 12行目	 ・子どもの冬の遊び ―挿入―	 ・子どもの冬の外遊び 発行年月　昭和62年12月
35・左27行目	健全育成を阻外する	健全育成を阻害する
36・左罫線内 11行目	 熱い姿勢から生れる	 熱い姿勢から生まれる
40・左9 行目	有勧活用と推進をはかる	有効活用と推進をはかる
42・左37行目	方針も決り職員も	方針も決まり職員も
43・左19行目	昭和54年４月１日	昭和53年４月１日
48・10行目 27行目	「遊学塾リトルキャンプ」 「ハレー慧星と流星群・・」	「遊習塾リトルキャンプ」 「ハレー彗星と流星群・・」
49・41行目	野外活動検討会委員	野外活動検討委員会委員
60・左9 行目	人と人とが助け会い、	人と人とが助け合い、
62・右7 行目	昭和61年度から初まった	昭和61年度から始まった
69・右下表内 S59年度内容	 「札幌に暮らした女」PART1~3	 「札幌に暮らした女」PART1~3
86・左12行目 網タイトル （以下同じ）	 MASSAGE	 MESSAGE
94・左11行目下 13行目	―挿入― 岸本（松坂）朱美	円山勤労青少年ホーム勤務 岸本（松坂）朱実
103・タイトル	2000年	20XX年

財団法人　札幌市青少年婦人活動協会

T I O 周年の歩み1　正誤表

10周年記念誌の中に誤りがございました。謹んで訂正させていただきます。

ページ・行	誤	正
13・右下段側	正乗丘から児童会館にて	婦人文化センター（太平ーシ講座）
30・左2 行目	昭和53年3月。	昭和53年5月。
34・右囲編内 9 行目 12行目	・子どもの会の誕生 —神人—	・子どもの会の会誕生 発行年月　昭和62年12月
35・左27行目	幾全育成を目的とする	幾全育成を目指す
36・左囲編内 11行目	熱い要請から生まれる	熱い要請から生まれる
40・左8 行目	有効活用と機能を拡かる	有効活用と機能を拡かる
42・左37行目	方針も改め職員も	方針も改め職員も
43・左19行目	昭和54年4月1日	昭和53年4月1日
48・10行目 27行目	「遊学塾リトルキャンプ」 「ハンー雪原と流星群…」	「冬雪塾リトルキャンプ」 「ハンー雪原と流星群…」
49・41行目	野外活動強行会委員	野外活動強行委員会委員
50・左3 行目	人と人と活動行会い。	人と人と活動行会い。
52・右7 行目	昭和61年度から別まった	昭和61年度から強まった
59・右下余白 559年度内容	「札幌に暮らしたお」PART1-3	「札幌に暮らしたお」PART1-3
86・左12行目 編タイトル （以下同じ）	MASSAGE	MESSAGE
94・左11行目下 13行目	—神人— 岸本（松栄）栄美	円山動物園少年ボーム動園 岸本（松栄）栄美
103・タイトル	2000年	20XX年

助成協会　札幌市青少年育成活動協会

10年のあゆみ

～札幌の人づくりをめざして～

10周年を迎えてのご挨拶

財団法人札幌市青少年婦人活動協会

理事長　浦田　久

昭和55年４月１日、札幌市のご配慮により当協会が設立されてから、ここに満10周年を経過し、この機会に改めて生成の歴史を顧みると共に将来へ向かっての新たな決意を申し述べたいと存じます。

さっぽろの青少年が伸びやかに逞しく育って欲しいという願いと共に、婦人の自立と積極的な社会参加を一層促進することを大きな目標として設立された協会ですが、当初は15名の職員を中心として活動を始めたところであります。今日では、青少年センター、婦人文化センター、２つの劇場を始め多くの施設の運営管理を受託すると共に、四季の野外キャンプ指導を始め多様な育成指導事業を広く展開しているところであります。職員も現在では９６名を数え、更に大きく発展する時代を迎えております。

こうして伸展して参ることが出来ましたことも、市長を始め市当局の積極的なご支援と、関係各位の方々のご協力によるものであり、ここに厚くお礼申し上げるところであります。

心のかよいあう札幌の街がよりよく発展する為、私たちは常に初心を忘れず、よりよい人づくりの為に精一杯の努力をすることをここにお誓い申し上げますと共に、皆様からの厳しいご指導と温かいご協力を心からお願い申し上げ、10周年記念に当たってのお礼のご挨拶といたします。

お祝いのことば

札幌市長　**板　垣　武　四**

札幌市青少年婦人活動協会の創立10周年を心からお祝い申し上げます。昭和55年４月の発足以来、青少年婦人のグループ活動の振興やリーダー養成に果たされた功績は多大であり、また、青少年センターや婦人文化センター、児童会館などの管理運営に加え、人形劇など児童文化の分野で全国的にも有数の施設である「こどもの劇場」の運営にも力を発揮され、さらには青少年や婦人各層のサークル活動の推進など、多方面にわたり大きな成果をおさめてこられましたことに対しあらためて謝意と敬意を表するものであります。

間もなく21世紀を迎えようとする今日、本市といたしましてもしっかり未来を見据え、開放的な進取の気風にあふれた札幌の良さをさらに伸ばし、国際化、高度情報化社会に的確に対応していくと共に、心豊かな市民が育ち、香り高い市民文化の街づくりを目指していかなければなりません。

このため、さまざまな行政施策を推進していくことが必要ですが、次代を担う青少年の健全育成や女性の社会的地位向上などの分野への配慮も欠くことのできない重要な課題であり、特に、多方面にわたる社会参加活動の促進は本市の活性化のため必要不可欠と考えております。

協会におかれましては、この未来につながる目標の達成に向け、これまでの貴重な体験をさらなる飛躍台として今後とも本市事業にご協力賜ると共に、益々のご発展を祈念いたしましてお祝いのことばといたします。

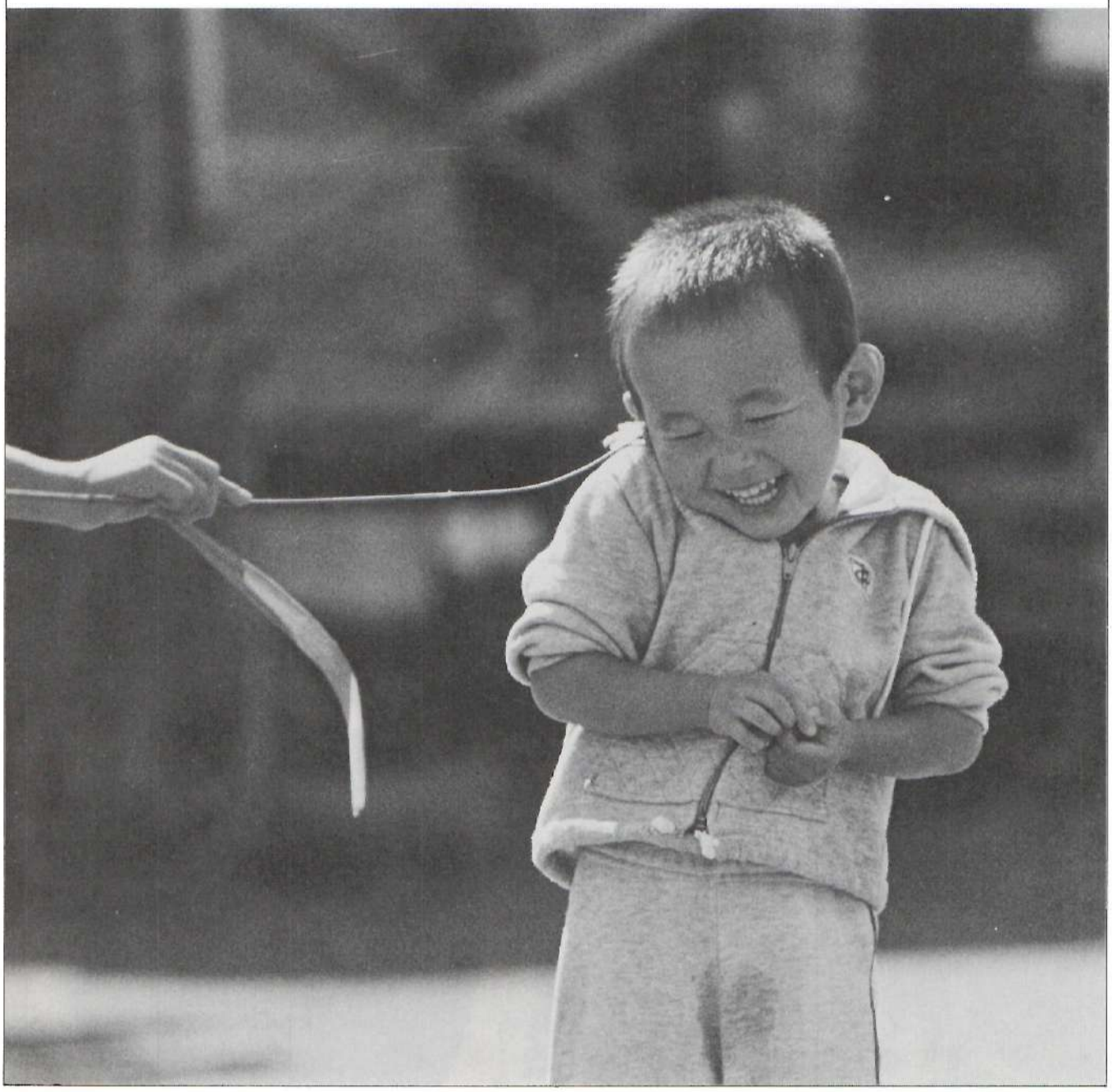
目　　次

10周年を迎えてのご挨拶 …… 理事長　浦田　久 …… 2
お祝いのことば …… 札幌市長　板垣　武四 …… 3
グラビア「協会の四季」 …… 5
協会への注文　～愛情あふれる５人の方からのアドバイス …… 17
協会発足の当時を偲んで …… 初代理事長　赤井　醇 …… 18
思い出のままに …… 理事　中村　勝美 …… 20
創立当時の精神をふり返り、新たな道を …… 評議員　細川　照市 …… 22
施設の拡充とさらなる発展を望む …… 元事務局長・青少年センター館長　藤谷　握美 …… 24
10周年を節目に一層の発展を …… 札幌市市民局青少年婦人部長　佐藤慎一郎 …… 26
コラム　活動協会歴代事務局長の趣味 …… 28
10年の歩み …… 29
活動協会略年表 …… 46
協会の事業と施設 …… 51
協会の事業活動 …… 52
〈施設紹介〉札幌市青少年センター …… 58
〈施設紹介〉札幌市婦人文化センター …… 64
〈施設紹介〉札幌市こどもの劇場やまびこ座、こども人形劇場こぐま座 …… 71
〈施設紹介〉児童会館 …… 78
〈施設紹介〉勤労青少年ホーム（レッツ） …… 83
〈施設紹介〉札幌市滝野自然学園 …… 84
〈施設紹介〉札幌市天文台 …… 84
協会によせられたたくさんのメッセージ …… 85
協会を応援してくれる方々からのメッセージ（役員、講師など） …… 86
協会を支えてくれた人たちからのメッセージ（旧職員からのことば） …… 93
コラム　小野寺さん、川島さん、佐々木さんの思い出 …… 98
職員の夢 …… 99
協会の理念「私（協会）の夢」 …… 100
協会と地域「協会のこれから・私見」 …… 101
協会と施設「青少年のための活動センター構想」 …… 102
協会の未来像「2000年…協会は今」 …… 103
あとがき …… 常務理事・事務局長　髙橋　邦臣 …… 105

協会の四季

春の芽吹き　　夏の歓声
　秋の日溜り　　冬の煌き

季節は　いろんな　顔をもっています
　人も　いろんな　顔をもっています
私たちが　出会った　顔、かお……



春

▲ 大きくなってね

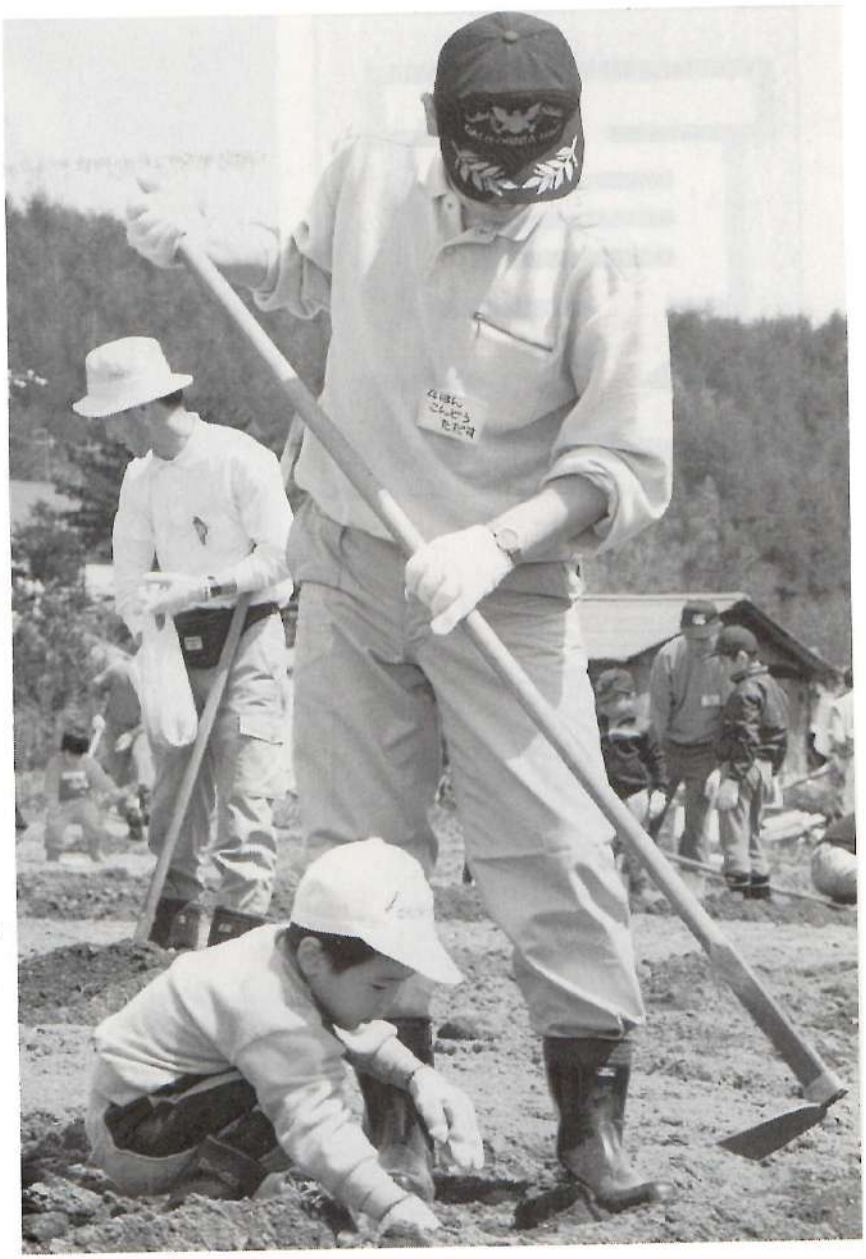
▲ 南区常盤「よい子の広場」

◀「父と子のアドベンチャースクール

▲ あけぼの児童会館にて

◀ じょうずにとべたね

▼ 「風雲やまびこ城春の陣」（やまびこ座）



▲ たきの農園「じゃがいもキャンプ」

▶ 「グループワーカー養成講座」（青少年センター）

▼ 「こいのぼりと遊ぼう」

夏

▲ ボクのだよー!!「じゃがいもキャンプ」

◀ なんでも挑戦…
「リトルキャンプ」

▲ 「道新夏休み健康村」

▼ 南の沢児童会館「すもう大会」

◀ 恵庭市ラルマナイ「アウトドア・スクール」

▲ 「みどりとあそぼう自然学園」

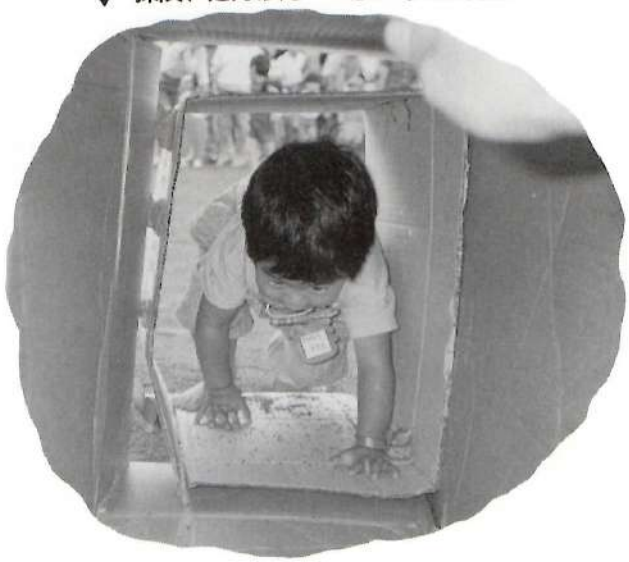
▼ いち、に。いち、に。

▲ 「母と子のあそびの学校」（婦人文化センター）

▼ ファイヤーを囲んで

▲ ルスツ高原あそびほうだいランド「道新夏休み健康村」

▼ 探険、たんけん…「よい子の広場」



◀ お父さん、もっと高く！「母と子のあそびの学校」

▼ みんな、がんばったね「リトルキャンプ」

▲「母と子のデザート作り」（婦人文化センター）

◀ バックン！「母と子のデザート作り」

▲ 昔の紙しばい（やまびこ座）

▲ 読み聞かせ（やまびこ座）

▼ ワーイ、つめたいよー「みどりとあそぼう自然学園」

秋

▲ ちいさい秋みーつけた!!

▲ じゃがいもとカエルの収穫？
「じゃがいもキャンプ」

▲ おなかすいちゃった…

▲ 婦人講演会にて
（婦人文化センター）

▼ 大雪・旭岳「レディース登山遊山塾」

▲ やまびこ座野外ステージ・猿まわし公演

▲ 人形劇祭（やまびこ座）

▲ レクリエーション実習「グループ・ワーカー養成講座」

◀ 肢体不自由児キャンプ

◀「子ども文化祭あそびの広場」高い点が出ますよーに！

▼ 丘珠たから児童会館にて

冬

▲ 滝野すずらん丘陵公園「ソリリング大会」（青少年センター）

▶ 冬でもキャンプ!?「滝野すずらん丘陵公園デイ・キャンプ」

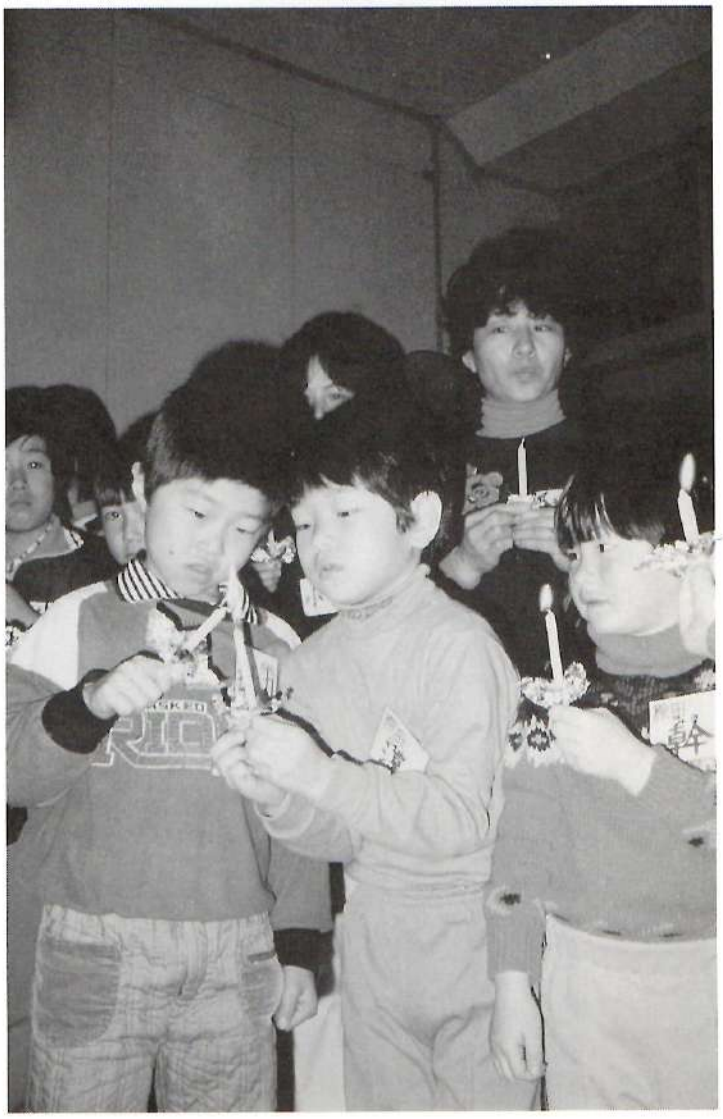
▼ 雪はともだち「リトルキャンプ」

▲ 「手づくり絵本講習会」（やまびこ座）

▲ ツアースキー（滝野自然学園）

▼ 「母と子のあそびの学校」（婦人文化センター）

▼ キャンドル・サービス「母と子のあそびの学校」



▲ ボクらの雪の城「児童会館合同雪と遊ぼう自然学園」

▲ 丘珠たわの雪像彫刻さん

▲ 寒くてもへいき

▲ 「百人一首勉強会」
（青少年センター）

◀ 麻生児童会館にて

▲ 雪像作り「雪だるまコンクール」

▶ 楽しさがとまらない!!「デイ・キャンプ」

協会への注文

—お世話になっている５人の方からの愛情あふれるアドバイス—

協会は、この10年のあいだ数えきれない多くの人たちに助けられて、ここまでくることができました。その全ての人のご意見をここにお載せしたいのですが、それはかなわないことです。

５人の方に長めの文章をお書きいただきました。初代理事長、お二人の理事・評議員の方々、２代目事務局長、そしていつも協会を一番理解して下さり、応援し続けてくれる、札幌市市民局青少年婦人部長の皆さんです。

お一人お一人の一文一文が、私たちの心をうちます。それは、皆さんが協会を愛していて、真剣に協会の将来を案じていて下さるからです。

私たちは、皆さんのお言葉を道案内として、これからの新しい道を歩いていきます。

協会発足の当時を偲んで

初代理事長（昭和55年4月1日～11月28日）
元札幌市助役・現会社社長　赤　井　　醇

10月下旬のある日、久しぶりというより珍しくと申し上げた方がよいかも知れませんが、佐々木順先生がお元気なご様子で、私の勤めている会社に訪ねて来られたのである。

以前と少しも変わらぬご様子に、ただ懐かしさ一杯でお会いした次第であった。お話によると、来年４月で協会発足10周年を迎えるということ、そして私に何か思い出等を書くようにとのことで、私もあれからもう10年も経過したのかという感慨と、何か書けといわれて、困り果てた気持ちとの錯綜であった。

と言うのも、私がともかく財団法人として協会発足当初の理事長を仰せつかったことは、間違いないのであるが、色々な事情で在任僅か８ヶ月位の短い期間にすぎず、しかもその間ただ漠然と過ごして来たような始末であり、すべてを常務理事を引き受けていただいた佐々木先生や、事務局長の関堂安司君を始め、何人かの若い職員の方々の熱心なそして頭の下がる思いをさせられた努力のお陰に外ならなかったからである。

そのころ、私は市を退職して間もないころであった。突然の協会設立の話に、大いに戸惑いを感じつつ、ともかく法人の構成を始め、寄附行為その他の規定類や、事業計画そして先ず初年度の収支予算などの作成に当たり、しかも発足日が決められていただけに、それに間に合うべく、随分頭を痛めた思いをしたことが思い出されるのである。それだけに第１回の設立のための理事会及び評議員会が予定通り終了したときの安堵感は、今なお忘れることが出来ない思い出となっている。

さて発足と共に、具体的な活動開始というわけであったが、いろいろな行事等に当たって最も悩みとなったのは、何と言っても職員不足であった。僅かの職員で、何度も計画を練り、それを確実に実施に移し目的を達成するということは、容易なものではなく、職員

の苦労は並み大抵なものではなかったと思うのである。

今日の協会の様子を伺うとき、諸事業が幅広く盛んに活動を展開していると共に、職員数も90名に及んでいると聞くにつけ今昔の感に堪えない思いである。

その頃、今でも私の記憶に残り、かつ忘れられないものの一つは、やはり各種の「キャンプ」である。青少年の健全育成等のため、グループ活動の指導についての専門的知識をもち、しかも実践活動の出来る専門指導者の確保を目指してということで設立された協会として、各種の事業の中で、自主事業、特に「キャンプ」においての実践活動が如何に大切なものであるか、しかもそれが、如何にも楽しい雰囲気の中で、自然と共に、のびのびと実施されて来た様子は、私にとっても忘れ難いものがある。

とは言え、そうした行事や事業には、どうしても、大なり小なりに危険を伴う場合が多いものである。それだけに、周到な準備と共に、実施に際して、いささかの油断も許されないという緊張感と言ったものがそれぞれの現場或は活動の中で、痛感させられたものであった。私自身も、幾度か皆さんと同行して、一緒に出掛けてみたものだったが、それは楽しいものであると同時に、大変な苦労を伴うものであることを身にしみて感じさせられたものであった。

先日佐々木先生が来られた時のお話の中で「離島キャンプ」のお話があり、その実施に当たって、私が横を向いて決裁の捺印をしたと言ったようなお話が出た—実は私にはそうした記憶がないのだが、ともかくそのキャンプはいわばテスト的な要素もあり、また相当な危険が予想されたものであったと記憶している。もし事故でもあってはと、心配である私は、必ずしも実施に、にわかには賛成しかねたように憶えている。しかし若い人たちは、何時の場合にでも、積極的であり、また極めて意気盛んである。加えて準備の周到さなどに。私はそうした職員の皆さんの努力に、何時も引きずられて参ったような次第であった。

何の場合でも同じだが、新たに事業を行う時、そして新たな協会設立をする場合などを含め、それにはそれなりの担当する者の心構えなり、心意気と言ったものが大切なことだと思う。

協会設立、そして発足時の若い職員の皆さんの心意気と、ご苦労のほどを思うとき私は今更ながら頭の下がる思いであり、そうした皆さんの努力の積み重ねがあってこそ、今日の協会の隆昌を見ることが出来たことは、いうまでもないことだと思うのである。

協会の10周年を迎え、改めて設立当時の皆さんのご苦労に、重ねて感謝申し上げると共に、今後の協会のいよいよの発展を心から祈念して止まない。

思い出のままに

協会理事（昭和55年4月1日～現在）
元札幌市教育長
現北海道スキー連盟副会長、会社役員　中村勝美

昭和55年の協会設立趣意書によると、当時札幌市は神戸市の人口を抜き、全国第６位の大都市に成長し、ますますの飛躍が期待されるが、その将来を委ねる青少年の実態は必ずしも楽観を許さない状況にある。そこで、青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加の充実促進を図るため、この協会を設けることにしたと記されている。

協会設立と同時に、そのお手伝いをすることになったが、もう10年も経過したのかと、実に流れる月日の早いのに驚いている。

この間、協会の皆さんは心を一つにして、趣意書の精神に添って、実践活動を展開し、常に旺盛な意欲と創意工夫、そして積極的な活動によって、発足当時の困難を乗り越え、今日の業務拡大に伴う多角経営に対応し、着々と成果を挙げてこられた。私は改めて関係者の皆さんの熱意とご努力に対し、心から敬意を表する次第である。

私が教育委員会の仕事にはじめてタッチしたのは昭和44年であるから、この協会の設立される10年前である。当時は教育ママという言葉が大手を振って闊歩していたころで、(現在も実態はあまり変わっていない？）勉強勉強に走りすぎ、心身の鍛錬に大きな問題が提起されていた時代でもあった。

長い人生の道のりを考える時、まずは心の健康であり、続いて身体の健康があってはじめて勉学の結果が生きてくるものだと強調していた矢先、たまたま滝野地区で広大な原野が売りに出ていることを知り、教育委員会としての意見をまとめてもらい、将来の青少年のために是非これを確保しておく必要があると、市長にお願いし、この用地を買収することができた。早速ここに青少年自然の村を造成することとして、長期の計画を作り上げた。

その後この計画は、国の公園計画に組み入れられることになり、所管も環境局に変わったが、その構想は引き継がれ、現在着々と造成が進められてい

る国営滝野すずらん丘陵公園へと発展している。

昭和48年再び教育長として委員会に戻ってからは、特に雪まみれ泥まみれ教育を提唱し、丈夫な身体と強固な意志を育てることを目標として、とにかく子供は外に出して、太陽、土、雪等自然の中で思う存分活動できるような環境づくりをしようではないかと、多くの皆さんに協力を呼びかけた。それは、この協会の精神と全く同じ気持ちからであった。

先ずその第一歩として、さきに述べた青少年自然の村を活用し、(現在の公園の疎林広場あたりと思うが？）そこに白樺キャンプ場とせせらぎキャンプ場を設け、その指導員として大学生等のボランティアを募集し協力をいただいた。その時のリーダーが後にこの協会の常務理事となられた佐々木さんであったと記憶している。この記憶に誤りがなければ、これがグループ活動に関する指導員を本格的に養成するきっかけになったのではないかと思っている。

退任後、スキー連盟の仕事をお手伝いすることになり、再び雪との共存生活にかかわることになっていたところ、たまたまこの協会の発足にあたり、理事に就任のお話があった。

当時私が喜んでお引受けすることにしたのは、以上のような雪まみれ泥まみれ教育に対するこだわりが、心の底にあったからである。青少年の活力が、その国の将来を計るバロメーターであることは論をまたない。従って青少年の健全育成は、いつの時代でも避けて通れない重要なテーマの一つであり、ゴールのない古くて新しい課題である。これからも停滞することなく、うまずたゆまず、指導し、鍛え、力を注ぎ続けて行くことが肝要であり、協会の存在意義もまたここにある。

だからこそ、この仕事に関係する皆さんの情熱と行動力が大きく期待されるわけで、それ故にやり甲斐のある仕事と言うことが出来ると思う。

今後とも、皆さんには自己満足に陥ることなく、日々新たな気持ちで、いっそうの使命感に燃え、渾身のご努力とご活躍をされるよう心から衷願し、創立10周年を祝福する感想といたしたい。

創立当時の精神をふり返り、新たな道を

協会評議員（昭和59年４月１日～現在）
札幌市子ども会連絡協議会会長　細　川　照　市

札幌市青少年婦人活動協会が創立10周年を迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。札幌市が、将来的な青少年や婦人の活動の拠点の場として協会を設立されたと思いますが、この心を大事にしながら、この日を迎えるまでの10年、職員のみなさん方のご苦労の積み重ねの数々、委託事業から自主事業、主催事業へとその幅を広げ、大きな成果をあげて来られたことに、心から敬意を表します。

社会の環境は、速度の早い変化を致しております。経済的にも世界の日本へと成長し、豊かな経済国に発展して参りましたが、心の豊かさが物の豊かさと共に広がってきたのでしょうか。

心ない人が多くなった。少子化に伴いけんかを知らない子ども、基本的生活習慣の身についていない子どもたちを見かける。今の子どもたちに対して大人たちはそう考えます。しかしながら、人間形成される基本の場は家庭である。その家庭が人に迷惑をかけない丈夫な子どもに育てたいとの願いから、いつの間にか塾通いに、習い事にと子どもたちを追い廻している。親にとって子どもはいつまでも子どもではないと言う、大事なことが忘れられている。誠に悲しい想いが致します。子どもの体、子どもの心を確と理解し、確と受け止めてくれる人が少なくなりました。

15人でスタートした当時から現在を思う時、大きな変化がたくさんあった10年と言う節目から、20年にむけての青少年婦人活動協会への私の夢を広げて見たい。

札幌の子どもの、青年の、婦人の、心の文化が創られる場、それは活動協会であってほしい。

市民のために、子どものために、婦人のためにと、オーナーである札幌市が理解していることは言をまたないが、創立された当時の精神を今一度ふり返りながら、古きを温め新しき認識をしてほしい。

今一番大切なこと、それは心である。

人の心が理解できる、相手に厳しくある時は、先ず自ら厳しくありたいこの哲学。15人から96人と職場が大きく広がりを見せ、成長をして来られた活動協会が、心の文化を育てる場であるなら、心豊かな人たちを育む場であるならば、先ず96人の職員一人ひとりの心が豊かでありたい。

子ども会のリーダーが活動協会の指導員の先生方に、尊敬からあこがれにかわり信者のようになる姿をよく見かける。両親や先生に時には心開かない彼らが、なぜ足しげく青少年センターに行き、心を開いて語るのだろう。それは彼らの心を確と受け止める人がいて、時には厳しく時には優しく心のふれ合いがあるからだろう。

でもこれは、全くわずかの子どもたちしか味わえないことである。

これからも職員は増え続けて行くことと思われるが、その職員一人ひとりがすばらしいビジョン、人生哲学を持ってほしい。グループ・ワーカー養成講座に集まって来る若者の目の輝き、あの人たちの心を確と受け止める質の高い人たちがうんと揃っていてほしい。

札幌の児童会館も、活動協会のすばらしい人たちの手で、全部管理してほしい。遠からず訪れて来る週休２日制の時に、児童会館の日曜休館もいただけないことだ。

子どもの集まるところ、婦人の集まるところ、それは活動協会に必ず声がかかる。札幌の少年団体も、又それにかかわる大人も共どもに・・・。

それには職員、指導員の方々が心を磨き、体を磨き、すべてに信頼されるようになってほしい。何をぶつけてもばしっと受け止める人がたくさん育ってほしい。

大変な夢物語になったが、色々な人がいるその時、その人に対し、弁慶のように体ばかりではなくて、牛若丸のように心でひらりひらりと飛べるやわらかな頭。正しい判断、正しい処置は、豊富な知識からしか生まれない。

20年にむけての私の生意気な夢物語になりましたが、実現してほしい夢です。

10年のすばらしい歴史に拍手を送り、20年の節目に向かって大きな飛翔をされますことを祈念してお祝いのことばといたします。

施設の拡充とさらなる発展を望む

第２代事務局長・青少年センター館長（昭和59年5月18日～61年3月31日）
現・札幌市会計室会計管理課長　藤　谷　握　美

札幌市の青少年、婦人行政の一翼を担って、その健全育成、文化教養の向上と社会参加推進のための諸事業に努力してこられた札幌市青少年婦人活動協会が創立10周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

青少年の非行化防止と健全育成が強く唱えられている昨今、全国的に類のない当活動協会が大きくクローズアップされ、その存在を確かなものにしたことは大変喜ばしいことであります。

私の場合、昭和59・60年の２年間という短い期間でしたがご一緒させていただき、ステージング・クリニック、アウトドア・スクール、子どもサミット・イン北海道、グループ・ワーカー養成講座、婦人ボランティアスクール・・etc 初めて聞く言葉に、さて何のことだろうかと、不安な出会いでした。

その後職員や多くの指導者の方々とお会いして、子どもたちのために夜も日曜も祭日もなく走り回っている姿に感心させられ私にとってはこれが「ボランティア精神」とでもいうのか、具体的な姿にふれた最初でもありました。

こんな方々に混じって、机上で考えるよりも子どもたちと一緒にまず実行（もちろん計画は十二分に練ってのことですが）という姿勢を教えられたのもこの時期でした。

種まきから中間の草とり、土かけと、親子共々汗するその喜びを分かち合いながら秋の収穫祭の一泊じゃがいもキャンプ。ドンガバ村のキャンプでは「働かざるもの食うべからず」といった掟で自然の中で実践を通して協働精神、自立精神を養うことなど。炎天下の中で職員、グループ・ワーカーの方々と汗にまみれての事業等、どれもこれも思い出深いものばかりです。

一方屋内施設を利用して行われた諸事業では、例えばコンサート、演劇、映画会、講演会等が記憶に残ります。コンサートでは若者たちがボリューム一杯でかき鳴らすエレキ・ギター、ドラム、そしてボーカルと、これも若者

ならではのエネルギー発散の場として、その役割は大きなものがあろうかと思います。

現在の青少年センターは昭和３７年の建造で、かつては札幌市婦人会館として活用していたが、昭和56年札幌市婦人文化センターのオープンと同時に譲り受けた施設であります。言うならば、「お母さんたちの心のこもったお下がり」でもあるわけです。

しかし残念なことにこの施設は音響の効果、防音装置、冷暖房といった諸設備がないため、コンサートなどでは近隣から毎々苦情があり、その都度若者の発散の場所としてご理解をいただくため奔走し、大変な苦労でした。

また青少年センター、婦人文化センター各々が主催する年一度の利用者懇談会ではいろんなご意見、要望をいただき今後の運営の指針として出来得る限りの努力はしているものの、両センターはこの種の施設としては利用率が極めて高いために、利用者側からすると思うように利用が出来ないといったご意見やら、もっと拡張して欲しいといった要望があり、当時の栃内理事長、佐々木常務共々随分苦心してお答えしていたように記憶しています。

今後の協会の課題は、委託事業、管理業務と併せて自主事業の拡大が必要であり、その自主事業に対して魅力ある要素が不可欠であり、その発掘に努力しなければならない時期にあるかと思います。私は、10周年を一つの節目とし、青少年の健全育成の場として、今一度の施設の拡張と充実を図る必要があり、その方向で協会全体を見直すことが当協会の大きな課題であり使命かと考えます。

子どもたちの幸せのために、また婦人行政のさらなる発展を願い、最大の力を発揮し積極的な実践活動の展開と21世紀に向け一歩一歩前進することを望むものであります。

札幌市青少年婦人活動協会のますます発展されることを心から念じてお祝いのことばといたします。

10周年を節目に一層の発展を

札幌市市民局　青少年婦人部長　佐　藤　慎一郎

協会創立10周年を、心からお祝い申し上げますと共に、この間の歴代役員をはじめ職員の皆様方のご労苦に深く敬意を表する次第です。

申し上げるまでもなく、札幌市の青少年・婦人に係わる施策を進めるために協会と市とは、車の両輪というよりむしろ一体となった車両そのものと言っても過言ではないと思います。

かえりみますと、昭和54年に札幌市青少年問題協議会からの建議がなされ、その中でグループ活動専門指導者の確保という提言がありました。そしてこのことが協会設立の基となったわけですが、財団法人としての協会ができましたのは、札幌ユースワーカー協会を経て札幌グループ・ワーク協会へと発展させた、当時の熱心な青少年指導員ー現在の協会幹部の方がたがおられたからこそであります。

今や100名近い陣容で、自主事業のほかに、市からの受託事業である青少年センター、婦人文化センター、こどもの劇場、児童会館などの管理運営事業や、さらに民間からの受託事業を行う重要な団体として発展して10周年を迎えたわけです。

一方、青少年や婦人をめぐる現況をみますと、先ず青少年の分野ではいわゆる「少子傾向」があります。毎年2万数千人の人口増がある我が札幌市でさえ、数年前から幼児が減少しつづけている状況です。よく「次の時代を担う青少年」と言われますが、高齢化社会に急速に近づいている中で、将来の担い手が少なくなっているということは、大変きびしく受けとめざるを得ません。それだけにすべての青少年が、心豊かにそしてたくましく立派に成長してほしいと、何人も願っていると思います。

また、女性の地位の向上あるいは社会参加の促進ということは、近年国際的な大きなうねりとなって進んでまいりました。我が国でも法制面の整備や、男女平等意識の高まりなど大きな成果

がみられますが、いわゆる男女共同参加型の社会形成という目標達成には、未だまだ多くの解決しなければならないことが残されております。

このような状況から、札幌市における青少年及び婦人に係わる行政は、市民の活動と手をとりあって更に強く推進しなければなりません。このためには活動協会の英知とそのほとばしるエネルギーに負うところ極めて大であります。

協会創立10年という節目にあたり、これまでに蓄積された力を一層充実させて、次のステップに向けて大きく飛躍されますようご期待申し上げる次第です。

コラム

活動協会・歴代事務局長の趣味

協会の事務局長は、札幌市からの派遣で、協会の全体の働きに目を光らせているばかりではなく、まだ若い人たちが多い協会職員を教え導いてくれる、いわばお父さんのような存在です。この10年の間に4人の事務局長が就任されましたが、それぞれに個性豊かな方ばかりですが、一つの共通点があります。それは仕事とは別に素人の域を越えた素晴らしい「趣味」をお持ちだということです。そんな4人のユニークな一面をここでご紹介してみましょう。

〈関堂事務局長〉

財団がスタートしたばかりで、右も左もわからない職員を相手に、根気強く協会の基礎固めをして下さいました。職員に仕事の手順を教えようと、「送りがなやコンマの付け方」から始まって、様々なマニュアルを作成し、自ら職員の手本となるように勉強していました。電気や機械にも強く、鍵のなくなった錠を開けてくれたり……。

お酒もタバコもやらず仕事一筋かと思えば、音楽に対する造詣が深く、キャンプ・ファイヤーでフルートを奏でては、子どもたちをうっとりとさせていました。

〈藤谷事務局長〉

「こんなもんでいいかな？」「まあ、飲め、食え」と独特のイントネイションで誰にでも話しかけて下さる、とても面倒身のいい方です。独身の職員には特に気にかけて下さり、「早くうまい酒を飲ませてくれや！」と、〝ハッパ〟をかけられた人も多いのでは……。

お酒も好きだけれど甘いお菓子にも目がなく、加えてカラオケもだ～い好き、愛車のカセットから自分で吹き込んだテープを流しながら出勤していました。話しっぷりがまたすばらしく、どんな小さな挨拶でも、皆さん聞きほれて思わずうなずいてしまうほどでした。

〈藤井事務局長〉

〝いかめしく〟、〝こわもて〟で近寄り難い第一印象を受けますが、優しい瞳の奥に芯の強さを秘めた方です。普段は気むずかしい顔をして席にいますが、一声出るととても明るく、お酒が入ると更に大きく……。

親和会での職員勝ち抜きジャンケンでは、もろ肌脱いで一等賞をさらっていきました。職員研修の折り、黒板の前でやおら舞扇を広げ、低くしわがれた声で能の一場面を披露して下さるほど能がお好きで、その奥深い知識に我々職員は驚かされ、感心させられました。

〈高橋事務局長〉

道内の山という山、ほとんど知らないところはないというほどの山の主。春夏秋冬の山を歩いてこられた方のお話は単に山登りにとどまらず、山名の由来、山のでき方、動植物、スキー、写真……とあらゆる物に及んでいます。その豊富な知識と経験は新事業「レディース登山・遊山塾」で発揮され、事業終了後も塾長として参加者から引っ張り出されています。

古今東西の古典・音楽・芸術などさまざまな分野への造詣も深く、自然を愛し、人を愛し、酒を愛すという豊かな人生から、われわれ職員はおおいに学ばされるものがあります。

10年の歩み

協会は10年の間に飛躍的な発展をとげ、職員数も6倍以上にもなりました。仕事の種類や運営する施設数も設立当初には予想もできなかったほど、多岐にわたっております。

私たちは10周年を記念する小冊子を編集するにあたって、協会の10年の歴史をまとめたいと念願しておりましたが、編集委員の力が及ばず、必ずしも十分なものとはいえません。

協会のそれぞれの部署や施設ごとの使命や業務内容を、協会の指導室の方のお力を全面的にお借りして、まとめました。

なお、10年間の協会の略年表を収録いたしました。歴史にかえられるとは思いませんが、協会の歩いてきた道筋を探る参考にでもしていただければ幸いです。

Ⅰ．協会設立までの過程

昭和53年3月。札幌グループ・ワーク協会

昭和48年に青少年活動の経験者を中心に設立されたユースワーク協会が、行政機関との協力関係を保ち、活発な活動を展開していたが、このことは社会的にも、青少年活動の重要性が認識される中で、行政機関と専門性を持った民間団体との協力信頼関係を構築できたこととして、その意味は大きかった。

このような状況の中で、更に活動内容を充実するために、札幌市市民局青少年婦人部と札幌市教育委員会の絶大な協力により、グループ・ワーク協会が設立された。

市民局青少年婦人部の事業の企画指導の委託にあわせて、札幌市教育委員所管の滝野自然学園の管理補助業務の委託を受けることになった。

「青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加、個人の主体性の確立を前提としたグループ活動を根幹に据えた活動の掘り起こしをめざす……」ものであった。２年間の短期間であったが輝かしい実績を残し当協会の基礎づくりとなったものである。

財団法人札幌市青少年婦人活動協会の誕生

昭和54年３月、札幌市青少年問題協議会から市長および札幌市教育委員会に対し「青少年育成に関する当面の対策について」の建議がなされた。

民間任意団体であったグループ・ワーク協会を発展的な意味で解散し、札幌市青少年婦人活動協会として法人化することになったものである。

◀設立趣意書▶

札幌市は、明治２年創建以来110余年を経過した現在、先人のたゆまない努力により、目覚しい発展をとげ、昭和54年11月には、人口において神戸市を追い越し、全国第６位の大都市に成長したところである。

この札幌市の将来は、若い行動力を持つ青少年とその青少年をはぐくみ育てる婦人の力に負うところ大であるが、現今の青少年の実態をみると、非行や自殺の多発等必ずしも楽観を許さない状況にある。

このことから、青少年にあっては、心身の鍛練に励み先人に負けない開拓精神を持って、郷土札幌市の発展に寄与するよう、また、婦人にあっては、家庭教育の重要性を十分認識するとともに、ボランティア活動等を通して人情あふれる地域社会の確立に寄与するよう期待するところである。この種の活動を支える最も重要な要素は、グループ活動に関する専門性を具備し、かつ、実践的に活動できる専門指導者（グループ・ワーカー）の確保であるが、この種の指導者が現在本市において絶対的に不足している状況にある。

ついては、この種の指導者を質量ともに安定的に確保するとともに、その身分保障等をも配慮し、もって官民一体となった活動を展開するため、札幌市青少年問題協議会の建議にのっとり、財団法人札幌市青少年婦人活動協会を設立し、青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加の促進を図ろうとするものである。

昭和55年３月11日

財団法人札幌市青少年婦人活動協会
設　立　者
札幌市 代表　板　垣　武　四

II. 財団法人札幌市青少年婦人活動協会の目的と事業について

青少年婦人活動協会の発足

- 昭和55年4月1日　財団として設立され発足する。
- 理事長、副理事長(市民局長兼務)、常務理事、事務局長(市民局派遣)、理事6名(各界代表)、監事2名、評議員12名（各界代表）
- 協会職員15名体制で発足した。
  現在は96名の大世帯である。

目的と事業について

協会設立の目的は、「主として札幌市の青少年婦人を中心とするグループ活動の振興を図り、もって青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加の促進を図ること……」、また、事業としては、

(1) グループ活動の指導業務
(2) 指導者の養成および登録派遣業務
(3) グループ活動プログラムの企画立案について
(4) グループ活動に関する調査研究および資料の発行業務
(5) 福祉事業等に対するボランティア活動業務
(6) 青少年婦人関係諸施設の管理業務
(7) このほか関連する付帯業務

財団化された協会の使命は、グループ活動が青少年婦人活動の「重要な手法」であるということを前提において、その専門性を発揮しながら「青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加を図る」という幅広い活動が期待されているものである。

設立当初の協会の主業務は、グループ活動の中心ともいえる、グループ活動指導者養成やグループ活動に効果的なプログラムとキャンプ活動、レクリェーション活動の指導、他団体、地域子ども会活動の指導等、全市的視野にたって活動の活発化を図っていく事業が主流であった。その後、当協会の設立以来の業績を評価していただき数多くの施設が次々と委託されることになった。

これらの施設の受託にあたっては、当協会の設置目的をふまえながらも、それぞれの施設の設置目的、理念が達成されるように努力しているものである。

事業と受託施設

協会事業活動、施設の管理運営の受託業務、施設の管理運営補助業務、指導員の派遣業務が主たる仕事である。

(1) 協会事業活動
　設立当初の主業務であったグループ活動等の指導事業や受託事業の遂行

(2) 管理運営受託施設
　① 昭和56年12月、札幌市婦人文化センター新設
　② 昭和57年2月、札幌市青少年センター新設
　③ 昭和63年4月、こぐま座(既設施設)受託
　④ 昭和63年8月、やまびこ座新設
　⑤ 児童会館

受託児童会館　（平成2年3月現在）

区	児童会館名	受託年月
中央	宮の森児童会館	昭和61年4月
北	太平児童会館	昭和61年4月
北	麻生児童会館	昭和61年11月
厚別	厚別南児童会館	昭和62年3月
南	南の沢児童会館	昭和63年3月
手稲	あけぼの児童会館	昭和63年3月
豊平	中の島児童会館	昭和63年4月
東	丘珠たから児童会館	平成元年2月
東	栄西児童会館	平成2年1月
厚別	厚別東児童会館	平成2年1月
北	新川中央児童会館	平成2年2月

(3) 管理運営補助業務受託

① 昭和55年4月、札幌市滝野自然学園の業務

② 昭和56年4月、札幌市天文台（札幌市青少年科学館よりの受託）

③ 勤労青少年ホーム等への指導員派遣

派遣箇所　（平成2年3月現在）

ホーム及び会館名	派遣開始年月
札幌市中央勤労青少年ホーム	昭和55年4月
札幌市円山勤労青少年ホーム	昭和56年4月
札幌市アカシア勤労青少年ホーム	昭和55年10月
札幌市ポプラ勤労青少年ホーム	昭和55年7月
札幌市豊平勤労青少年ホーム	昭和55年4月
札幌市発寒勤労青少年ホーム	昭和57年1月
札幌市石山青少年会館	昭和55年4月

以上の施設にかかわる業務について事務局を札幌市青少年センター内に置き現在は96名の職員により、それぞれの施設の特色を生かしながら運営をすすめている。

昭和50年代になると札幌市の人口もますます増大し、他都市にみられるような、青少年問題の「ひずみ」は楽観を許さない状況にあった。青少年の健全育成を進めるうえで青少年婦人の社会参加により、地域―家庭の役割を果すことの重要性が認識され、行政の施策の中にも大きく取り上げられるようになった。

グループ活動の専門性を具備した指導者を確保し、身分を保障し、質量的に安定に確保し、グループ活動指導者養成をはじめ全市的な立場で活動する財団として設立されたものである。当時としては、このような専門指導集団を有している都市は少なく、それだけに注目されるとともに期待も大きいものがあった。

次のIIIで述べる「協会事業活動」は、設立趣旨で求められていた専門性を発揮して取り組んでいる野外活動等における集団活動のことである。

III. 協会事業活動と各施設の運営

協　会　事　業　活　動

設立から10年を経た当協会は、今日までの実績を認めていただき、数多くの施設を委託され、ますます活動範囲も広がりをみせている。しかし、当協会の設置目的の中核をなすものは、全市的視野にたったグループ活動事業の推進である。この10年間、絶えず研修し、実践を重ね、よりよいグループ活動の方向を求めながら、専門性を発揮できるように努力してきたものである。

青少年指導者（グループ・ワーカー）養成講座や、グループ活動に効果的なプログラム開発とキャンプ活動、レクリエーション活動、他団体や地域子ども会への派遣指導等の業務を活発に進めてきた。当協会が、設立以来積み上げてきた活動（施設の管理運営以外の）を、「協会事業活動」と呼んでいるものである。

(1) 協会事業活動のねらい。

協会事業活動は、当協会の主目的達成と具現化に向けての中核的な役割を担っていることについては冒頭にも述べたとおりであるが、広い視野から柔軟な対応により、それぞれの事業の効果が上がるよう取り組みを図っていく。

(2) 協会事業活動の内容

当協会の設置目的(1)～(5)にかかわる事業活動全般にわたっている。

- グループ活動の指導業務。
- 青少年指導者（グループ・ワーカー）養成および登録派遣業務
- グループ活動プログラムの企画立案についての相談業務
- グループ活動に関する調査研究および資料の発行業務。
- 福祉事業等に対するボランティア活動業務

以上、5点が「協会事業活動」として専門性

を発揮しながら、事業展開を図ってきたものである。

- 青少年の健全育成や、青少年婦人の社会参加をめざし、グループ活動に参加する個人の主体性の確立を根幹に据えた活動でなければならない。

- 青少年が成長する上で欠くことのできない「遊び」や、野外での「楽しいキャンプ活動」は、参加者個々が、肌で体験的に学び、社会の一員としてふさわしい資質の向上や創造性・豊かな情操などの啓発が期待されるからである。

- こうした活動を幅広い立場にたって、積極的に掘り起こし、永続的な運動へ展開されなければならない。
  そのためには、活動するメンバーの一人ひとりが深く結びつく、相互信頼が基調になければならない。

- グループ活動や野外活動、レクリエーションを、単なる娯楽的な余暇活動の範囲にとどめるのではなく、参加者個々の連帯を深めながら、明るく豊かな社会づくりの一翼を担う活動であることを自覚し普及、寄与することが、協会事業活動である。

これらの活動をすすめるにあたって指導者は、援助や助言に力点をおき、青少年の自発的活動に期待し、主体性や創造性を誘発する姿勢を常に心がけていかなければならない。

(3) グループ活動の指導業務

事業の多くがこれにあたり、協会が企画立案から運営、実施までのすべてを行う「自主事業」と公共団体、一般企業や、その他民間団体から依頼をうけて指導や運営にあたる「受託事業」に分けられる。

自主事業、受託事業の違いがあっても、その実施においては、グループ活動の理念を中心に据えて、活動の中での相互作用を通じて得られる効果を最大限に生かそうと計画し、実施しているものである。

① 自主事業について

これまでは、グループ活動がしやすく、その効果が発揮できるキャンプ事業が中心で、その対象は、小学生、中学生やファミリーが主体であった。

ア．小・中学生にあっては

夏、冬休みを利用して、野外での生活や遊びを通じて活動し助けあい、仲間づくりをしてお互いに社会の一員としてふさわしい資質について学び合ってほしいと願うものである。

イ．ファミリーについては

自らの家族が自然の中で生活することにより、新たな発見や見直しにより、一層の親子のふれあいを深めていくことをねらうものである。（詳細後述）

② 受託事業について

年間を通じて計画、立案の段階から、かかわって実施しているものと、年間を通じて、その時々に、単発的な派遣依頼のあるレクリエーションや、講座の講師の要請も多く、いずれも誠意をもって応え、実施しているものである。

札幌市や、各区から年間契約として依頼され継続して実施しているものが主流であるが、近年は、関係機関や団体、一般企業や民間に至るまで幅広い依頼があり、その内容もまた、多岐にわたってきている。（詳細後述）

(4) 青少年指導者（グループ・ワーカー）養成および登録派遣業務

① 青少年指導者養成講座（１年目）

グループ活動の指導者の養成については、前項の指導業務においてもリーダーの養成等で実施しているが、これとは別に協会独自で、昭和55年設立当初よりグループ・ワーカー養成講座を実施していた。昭和57年度よりは青少年センターの開設により、青少年センター事業として今日まで続けられている。（青少年センターの項に実施内容は記述）

1年の課程の修了生は、札幌市の登録名簿に記載され、地域の活動要請に応えることがめざされている。

② 青少年指導者養成講座(2年目)

上述の1年目課程は、札幌市市民局青少年婦人部よりの受託事業である。しかし、修了生の多くは、更に深まった講座を求めているので、その要望に応えるために、予算上きびしいものであるが、当協会独自として2年目講座を実施している。

1年目課程が基礎の知識・技術の習得をめざしているのに対して、2年目課程では実際の実践活動の演習・実習等が多く含まれ、自ら考え場面に対応した行動のできるワーカー作りを目指しているものである。

講座開始以来10年、この間の修了生は300名を超え、札幌市内ばかりでなく日本全国各地で、様々な活躍をしている。

(5) グループ活動プログラムの企画立案についての相談業務について

現在では、各機関、団体等においても、グループ活動についての関心が高まり、熱心な活動がなされているところである。

当協会では、これらの活動を積極的に支援や援助をすることが目的達成につながるものであるととらえ前向きにこれらの要請に対応しているものである。

具体的な相談内容は、

- 団体活動自体の運営にかかわるもの
- 行事、イベント等の企画、立案に関するもの
- 具体的なプログラムの進め方
- レクリエーションの内容にかかわるもの等、

さまざまである。

この業務を前向きにとらえて対応することにより、地域の活性化を図ることにつながり、同時に当協会に対する理解を深めていただける機会にもなるので、今後共、努力をしていきたい。

(6) グループ活動に関する調査研究および資料の発行業務

① 調査・研究について

当協会の目的達成のための手法として、グループ活動の指導や、助言活動を様々なかたちで援助をしているが、その実践活動を円滑にすすめるために、データの収集、理論の整備および資料の作成並に発行をしている。現在の青少年婦人の現状の把握並にグループ活動に関するデータについては、各施設からの情報により対象に応じて収集が可能になっている。

また、昭和60年には、海外における青少年、婦人のグループ活動やボランティア活動に関する調査研究について、札幌市より委託をうけ、当時の常務理事を派遣した。

② 資料のまとめと発刊について

グループ活動についての実践の積み重ねにより、記録やまとめを基にして、その都度発刊した小冊子は次の通りである。

- レクリーダーの手引き(ゲームとプログラム)
  編集・発行 ㈶札幌市青少年婦人活動協会
  発行年月 初版 昭和56年3月
  再版 昭和61年3月
- レクリーダーの手引き(キャンプとプログラム)
  編集・発行 ㈶札幌市青少年婦人活動協会
  発行年月 昭和60年3月
- 子どもの冬の遊び
  発行 札幌市市民局青少年婦人部
  編集 ㈶札幌市青少年婦人活動協会
- グループ活動
  編集・発行 ㈶札幌市青少年婦人活動協会
  発行年月 昭和63年2月
- 親子の野外遊び
  編集・発行 ㈶札幌市青少年婦人活動協会
  発行年月 昭和63年6月
- 児童会館の運営
  編集・発行 ㈶札幌市青少年婦人活動協会
  発行年月 平成元年3月

(7) 福祉事業等に対するボランティア活動業務

青少年婦人のボランティアに対する意識を啓発し、その活動を推進しようというものであり、狭義の福祉ではなく人間としての幸福の追求、社会に寄与しようとする意識、人間としての充実した生き方等、幅広いとらえ方により、共に連帯しあい学びあうという、とらえかたをしている。

この業務については、青年・婦人の各ボランティアサークル等の研修を昭和55年から札幌市の委託を受けて実施している婦人ボランティアスクール。婦人ボランティアビューロー研修(昭和57年度からは婦人文化センター事業として実施）などがある。

以上のようにグループ活動を基盤にしながら、様々な形で事業活動を行っており、対象・内容も広範囲にわたっている。この10年の協会事業活動は、活動内容の見直しから廃止されたり、新たに加わえられたり、施設の受託に伴い移管されたりと活動内容も、参加者の欲求や社会の変化に対応しながら変化してきているものである。

(8) 将来に向けて

協会10年のあゆみは、協会事業活動のあゆみと云ってよい程、重視してきた活動である。札幌市長の設立の建議書に述べられているごとく、青少年の健全育成を阻外する多くの条件をうけ、当協会の設立の必要性から期待されての発足であった。

無よりの出発から生み出し、今日の事業活動に定着させた設立当時よりたずさわった多くの方々の労苦と功績は、誠に大きなものがある。しかし、今後は、ますます増大する余暇時間や、これに伴うレクリエーション志向と、生涯教育の高まりの中で、21世紀に向けての今後の10年は、社会の変化に鋭く対応しながらからの使命を果していく当協会の姿勢と活動が求められている。

今日まで、多くの協会事業活動を開発し、大きな実績を残しているが、これに満足することなく、更に研鑽を深めながら、より広い立場から業務をみつめ遂行していくつもりである。

婦人文化センター

この施設は全市的な婦人活動の中心として、札幌市婦人の生活文化向上と婦人活動の推進を図り、婦人の福祉増進に寄与するために設置されたものである。

(1) 設立までの経過

婦人文化センター設立以前は札幌市婦人会館が前身である。この会館の生いたちは、婦人団体等が建設期成会を結成し、募金活動を行うなど婦人たちの強い要望によって建設の足がかりがつくられ、昭和37年に実現したものである。

当初は、札幌市教育委員会の所管であったが、昭和50年度より機構上市民局に移管された。

当時の事業内容や利用方法もどちらかといえば趣味的な講座（茶道、華道、料理、着付け、洋裁、和裁等）で、実生活に即したものが主流で、婦人の生活文化、教養向上の場として考えられていた。

昭和50年の国際婦人年を契機として、婦人の社会参加も進み、施設を取り巻く状況も、また利用者も、変化をみせはじめるようになった。

さらにその頃から、民間の文化教室やカルチャーセンターが数多く誕生し、婦人会館で行っていたと同じような講座を開設するところが多くなってきた。

各都市においても徐々に女性のための新しい施設づくりを模索し始めてきた。昭和50年代には全国的に新しいイメージの施設が次々と誕生する。

- まず名称も堅くるしい婦人会館から開かれたセンターへ。
- 多様な用述に応えられる施設構成で。
- 利用の方法も主催事業への参加に加えて、婦人の柔軟で自由な発想により事業を主催できるために貸館としての利用や情報交換の場を。etc

一方では婦人の社会参加についても多様化し広がりがみられるようになった。

このように、婦人の社会参加の促進や意識の高まりなどから施設への要望も変化し新たな女性の生き方に対応する施設づくりへと変わってきた。

当時本市の人口は急増し、昭和47年の区制施行以来、市民のために各区の区民センターが逐次整備されてきた。

これは各区の区民を対象とする活動の場であり、全市的な婦人活動の拠点としてその機能を十分に果たすことのできる施設の建設が必要となった。

札幌市婦人文化センターは、国際婦人年等を契機にして、婦人活動の高まりと社会変化に鋭く対応する市政の熱い姿勢から生れたものである。

(2) 婦人文化センターの開設

婦人文化センターは女性市民の期待のもとに、昭和56年12月1日開館した。

職員構成は、館長（市民局青少年婦人部課長職派遣）、次長（同青少年婦人部係長職派遣）、協会職員8名、計10名体制で発足した。（施設紹介は後述）

開設当時は〝エプロンがけで気軽にどうぞ〟を合言葉に女性であれば誰でも気軽に参加し活動できるところから出発した。

当時は全国的にも珍らしかった女性学講座や、就労婦人、子育て中の母親等、講座に参加困難の方々への婦人通信講座の開設もすすめた。また、年2回の講演会やコンサートなど幅広い事業を実施して今日に至っている。

当初から人気の高い料理講座も新たに国際交流の立場から外国人講師による家庭料理や、ホテル、専門店によるプロの味の紹介に視点を変えるなど新しい流れに対応するものとなった。また、幼児をもつ若い母親の社会参加の必要性から幼児室を設けるなど、時代を見通した施設づくりは現在でも利用者たちから高く評価されている。

情報資料室は、婦人問題に関する図書資料を集めたほか、新聞雑誌などの切抜きや行政資料などを整理提供し、多くの女性市民に活用されていたが、平成元年6月、隣接して建設された、札幌市社会福祉総合センターの中に、新たに「情報センター」として再出発をした。これによって、スペースも蔵書数も大幅に拡充され、福祉の分野と併せて一層の情報機能の充実が図られている。

(3) 婦人活動の拠点として

当センターは、市の中心部に位置し交通も便利であり施設も充実していることから開設以来順調な利用率で利用者の需要に十分に応えられない状況になっており、早くから施設規模の拡充が求められていた。平成元年度に、札幌市社会福祉総合センターが当センターと隣接して開設されたのを機に、連絡通路を挟んでその中に別館を新設し、本館との一体的利用が進んでいる。

婦人会館時代から引き続いての利用者にも徐々に世代交替がみられるようになり、最近では若い女性の利用も増えてきている。

また、社会福祉総合センターの利用者の往来もさかんになるなど、利用情況にも新しい動きがみられるようになってきている。

(4) 将来に向けて

近年、女性の意識やライフサイクルの変化には著しいものがある。

また、余暇時間の増大にともない、女性の学習活動や地域活動に対するニーズも多様化し、高度化している。

これからも、こうした女性の社会に対する意識の高まりに積極的にアプローチしていくなかで、全市の女性の中心施設としての役割を明確にし、女性の活動ニーズに応えるためにさらに一層の施設機能の充実と事業の推進が求められている。

また、さまざまな分野における男女の共同参加が社会的課題となっているいま、より多くの男性にも理解と参加が得られるような事業の展開に向けても今後は取り組んでいかなければならない。

婦人文化センターが、婦人活動の拠点として

大きく飛躍するためには、その機能が十分に生かされ活用されて、更に広がりのある活動へと発展していくことが望まれる。

ここで生まれた連帯と心のふれあいが、まちづくりの大きな推進力となって拡がっていく、このようなねがいの施設づくりをめざして更に前進させていきたいものである。

札幌市青少年センター

札幌市青少年センターは、昭和57年2月21日に旧札幌市婦人会館を改装して開設されたものである。

> 青少年の健全な育成および青少年活動の促進を図ることを目的として設置されたものである。

- 青少年のグループ活動等のために施設の利用に供する。
- 青少年活動についての指導者の養成
- 青少年活動についての相談並に情報の収集および提供をする。
- その他、青少年活動に必要な事業の展開をすすめる。

以上の目的や事業を円滑にすすめるのが青少年センターの活動である。

青少年センター内には当協会の事務局が置かれ、当協会の設置目的であるグループ活動事業とは一体となり、連携を図りながら運営をすすめることにより、大きな成果をあげているものである。

(1) 設立までの過程

昭和54年3月、札幌市青少年問題協議会の答申についての建議によるところが大である。その中の一点として、青少年育成施設の整備についてが明記されており、強く青少年センターの必要性がうたわれ、このことが開設の運びとなったものである。

青少年センターの設立の以前は、札幌市の青少年向け施設的なものは、勤労青少年ホーム、市民会館、北海道青年会館5階部分、バスセンタービル2号館の青少年連合のオアシス室位しかなく、それだけに青少年センターの開設は、待ちのぞまれての出発であった。

(2) 青少年センターの利用について

この施設は、勤労青少年ホーム、区民センター等の他の類似施設と異なり、より自由な利

用方法により、

- 青少年の自主的な活動の場として提供する。
- 大学生、高校生等の在学青少年をも対象とする。

青少年が自由につどい交流し、その中から健全な社会性を身につけていくことをねらって利用を進めているものである。

当センターは3階建ではあるが、やや手狭である。それだけに有効活用を図るためにくふうをして、青少年の利用しやすい環境づくりをすすめてきた。

しかし、当センターの部屋不足から、申込みの需要に十分に応えられない悩みを抱えている現状である。

(3) 青少年センターの事業活動

①青少年指導者(グループ・ワーカー)養成講座

この講座は、当協会の主目的を達成するうえで看板事業ともいえるものである。

昭和55年度より、協会事業として実施していたが、昭和57年より、青少年センター事業に位置づけして、今日まで継続されているものである。

転勤や就職で講座を離れる者以外は、ほとんど100%の青年たちが継続して参加している。一握りの若者であってもよいから社会の小さな「ともしび」となることを期待しての講座である。

②事業全般について

青少年センターでは、このほか、次の諸事業を実施している。(詳しくは後述)

ア. 広報紙(若い芽)の発行。
イ. 北海道キャンプガイドブックの発行
ウ. トークアンドトーク
エ. 百人一首勉強会
オ. ステージング・クリニック
カ. おもしろタウンラリー
キ. ソリリング大会

以上のような事業も組み、青少年より好評を得ている。このほか、1階オアシスには「情報コーナー」を設け、全国の青少年施設の閲覧が自由にできるようにしている。

(オアシス余談)

オアシスに何げなしに訪れたもの同士が声かけをし、仲間づくりをする。そのうち職員の一言の声かけから、雪だるまコンクールの参加者グループへと発展したり、当センター事業のソリリング大会のグループ参加へと、確かな仲間として育っていく。5時を過ぎる頃には、若者でオアシスが一杯になる。アニメ仲間、演劇の仲間、文集づくり仲間等と、若いエネルギーがみなぎる時間帯である。どの顔もみんな明るい……!　(S記)

(4) 将来に向って

平成3年に、当青少年センターも移転し、8年間でこの建物の歴史が終えると聞いている。少し手狭なセンターであるが約40万人の利用があり、十分に目的を達することができたと思っている。

新青少年センターについては、165万都市札幌にふさわしい施設の誕生を大いに期待しているものである。

利用者の意見の中にも、近年青年の間で盛んなバンド練習室も防音のしっかりした広い部屋であればよいとか、もっと自由に使える、しかも、広いフリースペースや、談話室等や体育室まで備えたらとの希望も聞かれる。

大きく変わりつつある社会的風潮や背景からか、若者気質が自分たちだけで勝手気ままに楽しむことを是とした中に埋没しているとも云われている。このような時代だからこそ、青少年は社会性に目覚め、人との交わりの中で自己実現をしていく姿勢が求められるものである。このような意味から「若者の城」としての青少年センターの役割の大きさを改めてかみしめ、毎日の運営に取り組んでいるものである。

児　童　会　館

(1) 推進目標

――明るく楽しい児童会館――

- 子どもが意欲的に利用する魅力ある児童会館づくり。
- 地域に根ざし、施設の有効活用を図る。
- 地域育成者の発掘と魅力ある事業の展開。

(2) 推進目標誕生までの経過

当協会では、昭和61年４月２館（宮の森・太平）の児童会館を札幌市教育委員会より委託をうけ管理運営することになっのがはじまりである。

受託当初の頃は、札幌市教育委員会や既設の児童会館の方々の暖かいご指導をいただきながら当協会らしい運営をめざして今日に至っている。

現在では、当協会に委託されている児童会館も11館となり、職員数も年々増加し大世帯となってきている。

そこで、昭和63年度には、３年間の運営実績と実践研究の実績をもとに、各館長をはじめ全職員の協力のもとに、運営の基本となるものはなにか、どのような推進目標を設定して運営をはかるかについて論議を重ね、「児童会館の運営」という小冊子にまとめて、現在も更に改善をはかりながら、毎日の運営に生かしているものである。

推進目標の設定にあたっては、札幌市教育委員会より明示されている設置目的や基本理念を十分にふまえ、積極的に具現化をはかることを願っているものである。

札幌市教育委員会では、青少年の健全育成について大きな枠組みの中でとらえ、高い理想を掲げ充実をはかるために努力している。児童会館についても他都市の「児童館」とは違った札幌市独自の考え方とねがいにより設置されており、全国的にみても先進的な意味をもつ施設である。

それだけに、当協会では受託についての重要性を認識し、効果的な運営や活動を図るようにつとめている。

(3) 推進目標の具体化と実践

子どもが意欲的に利用する魅力ある
児童会館づくり

① 児童会館は子どもの遊びの城である

子どもたちの自由利用により、心が開放され、どの子どもも楽しさを味わいながら自由遊びや会館行事やクラブ活動に参加して、さまざまな体験をとおして、社会生活に必要な基礎や一人ひとりの子どもの成長するうえで大切なものを「子ども同士で学びあう場」であるととらえ日常活動をすすめている。

② 異学年、異年齢児の交流を大切にする

核家族化と少子化傾向から、友達同士のつきあいや、友だち同士で遊ぶことが不得手で「遊び下手」という子どもも多くなっている。また、学校と延長線上で学年同士でしか遊べない子どもも多い。このような子どもたちに、異学年、異年齢児との交流がはかれる遊びや、楽しい行事のくふうが大切であるととらえ積極的にすすめている。

③ 多くの子どもが利用する児童会館

日常の子どもの会館利用については、利用する子どもの固定化がみられる。多くの子どもが喜んで利用するよう努力していく。

ア．魅力ある会館事業やクラブ活動をすすめる。

イ．楽しい遊びの開発。

ウ．地域社会に目を向けた活動。

エ．やりぬく喜び（成就感）を味わう活動。

④ 約束やルールを守り楽しく遊ぶ。

公共の場である児童会館は、実際に約束やルールを学ぶ実践の場と考えている。児童会館の約束やルール、自分たちでつくった遊びのルールを楽しく遊ぶ中で学んでいくことは、大切なこととおもっている。家庭と学校と社会の一貫した「しつけ」の対応が求められている今日「ルールを守り、楽しく遊べる」子

どもを育てていきたいと、日常努力している。

以上３点については、重視して取り組みをはかってきたものである。さいわい当協会では、グループ活動についての実践の集積から、小冊子 「レクリーダーの手引Ⅰ、Ⅱ」「親子の野外遊び」「子どもの野外の遊び」など、遊びの輪を広げる資料があり、活用し効果を上げていることは、特筆すべきことである。

地域に根ざし、有効活用と推進をはかる

児童会館は、地域の社会教育センター的役割を果している。したがって、子どもの利用時間の少ない午前の時間、あるいは、夜間利用について、それぞれの会館では、重視して取り組んでいる。また、子どもと地域の方のまじわる事業や、クラブ活動への人材活用、家庭の教育力を高める事業や親子のふれあいの事業など、それぞれの児童会館の地域や環境にあわせた事業の展開など有効活用をはかっている。

地域育成者の発掘と魅力ある教育事業の展開

子どもの健全育成は、子どもだけに目を向けるだけではなく、地域や、家庭とのかかわりがより重要である。地域、町内会、学校やＰＴＡとの連携をはかりながら、地域のもつよさを生かし、大人自身が学びあう、高めあうことのできる環境づくりを進めるべきであると考えている。

地域には、いろいろの立場の方々や、趣味をもつ方々も多い、これらの方々の教育力を生かし、児童会館の運営に生かしていくように努力をしているものである。

①**－実践例－**複合施設では

老人福祉センターとの複合した児童会館は２館ある。核家族化し三世代世帯は少なく、家庭で培う大切なものが失われていると云われる今日、子どもと老人との交流は、大切であるととらえ積極的に進めている。

老人の方々とのスポーツ交流（卓球、ゲートボール）等、附属施設での入浴での背中流し交流、老人の方々と子どもが一緒になってのハイキング、老人福祉センター祭りへの子どもの参加、季節行事の交流、老人の方々から昔遊びや遊び用具の作り方を考えていただく……etc。活発に活動しており定着の方向にある。これには、社会福祉センターの職員の方々の積極的な協力と一体化によるものと心より感謝している。

このように複合館のよさを大切にした活動は老人、子どもが共に社会参加できるよい機会で、一層の広がりのある活動に発展することを期待しているものである。

②**－実践例－**地域の結びつきと家庭の教育力を高めるために。

午前の利用の少ない時間を利用しての父母の活動や講座等の開設にも積極的に取り組んでいる。ある会館では、年度はじめから幼児と母親を対象にした親子教室を週１回の企画で実施した。秋期までの予定であったが好評で冬期も要望により引き続いて実施している。遠い地域からの参加申込みもあり、バスを乗り継いで熱心に参加している姿もみられる。地域の人材による講座、当協会職員のグループ活動によるゲーム遊び、親子のふれあい遊び等が、主な内容であるが、親子35組、70名の会員は、ほとんど欠席者がなく、このような活動は高い関心を呼んでいることが伺える。この実践活動から「地域の教育力を生かし家庭の教育力を高める事業」を今後とも、大切にしてすすめていきたい。

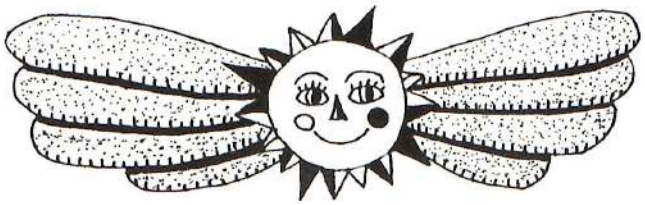
③　将来に向けて

- 児童会館は、札幌市教育委員会の設置目的、基本理念に向けて、その理想を実現するのが管理・運営を委託されている当協会の役割である。社会教育センターとしての役割を果す

ことは当然であるが、子どもにとって「楽しい遊びの城」としての児童会館づくりを中心課題にして魅力ある事業の創造やクラブ活動の展開に向けて一層の努力をしていくつもりである。

- 児童会館では、留守家庭の児童クラブが併設され、昭和63年度より3館が委託されている。のびのびとした雰囲気の中で児童会館のよさが生かされる方向を求めて今後共努力するとともに、定着させていきたいと願っている。

各児童会館の運営、管理、指導にあたっては、町内会を中心に、学校、ＰＴＡや地域ボランティア活動者やときには老人クラブの方々までが会館事業に深い理解をいただき、ご協力、ご援助とご指導をいただいていることに深く感謝をしているものである。



札幌市こどもの劇場

人形劇、児童劇等の製作および発表と製作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もって、その健全な育成、その他の活動に資するために設立されたものである。

(1) 事業内容は、

- 人形劇、腹話術、紙芝居、児童演劇等の製作および発表の場に供する。
- 人形劇等の製作に必要な知識および技術の習得等のための指導および講習会等の開催。
- このほか目的達成のための必要な行事。

こどもの劇場（やまびこ座）とこども人形劇場（こぐま座）が、協会に管理運営が委託されたのは、昭和63年からで新しい分野ということになる。

この２つの施設は、子どもの文化施設で人形劇や、児童演劇、紙芝居などの専門劇場である。

単に演劇等の上演だけでなく、練習や製作など、子どものための演劇等に関心のある人々への活動の場として提供できることもねらった、総合施設ということができるものである。

- こぐま座は昭和51年７月開館
- やまびこ座は昭和63年８月開館

(2) こぐま座の活動から

こぐま座は人形劇場という名称からもわかるように、人形劇、紙芝居、腹話術の専門劇場として開設されたが、当時公立としては最初の日本で２番目の人形劇場（初めては、東京の私立プーク人形劇場）であった。

こぐま座の標準的な年間の上演回数は、上演日にして130日、上演回数230回の多くを数えている。これは、人形劇の創造団体が自分たちこそ劇場の上演維持をしていくのだという使命感に燃えて活動しているからである。

こぐま座は、単に人形劇を上演するための専

門的貸ホールではない。また、単なる貸ホールと専門劇場は大きな違いがある。専門劇場は、利用の内容、観客の反響にも常に責任を持たなければならないと自覚している。

そのような中で、2つ目の専門劇場、やまびこ座をつくることができたことは、本市のこぐま座を通じての試みが成功裡に経過した結果であったと思っている。

(3) やまびこ座設立まで

こども人形劇場（こぐま座）がオープンしたきっかけは、札幌市内の人形劇活動が盛んであったことと、市長が西ドイツ、ミュンヘン市(姉妹都市）を訪問した際、ヨーロッパ型の専門劇場にふれ(人形劇、オペラハウス、音楽ホール、ドラマシアターなど、専門に分かれている。)これらの施設の視察から市長発案の形でこぐま座が建設されたのである。

当時、運営には、札幌人形劇協議会に協力してもらうことができ、土曜日、日曜日、祝日等の劇場の上演に責任をもってくれた。

札幌市は、新しい人形劇の担い手を養成する講座にも力を入れた。これが「こぐま座人形劇教室」である。今では、サークルが数十団体も育ち、札幌市の人形劇活動の中心で活躍している。昭和58年より市職員1名、嘱託1名で行っていたこぐま座の管理運営業務の一部を、札幌市人形劇協議会に委託をした。これは、人形劇を上演するための裏方の仕事(照明、音響など)の専門家を育てるとともに、いろいろな相談に対応していくための専門家を職業的に確立しようというものであった。

こぐま座を拠点にした活発な活動が続くなかで、やまびこ座の建設が決定し、当初第2人形劇場として構想されたのであるが、規模も拡大して、児童劇場を含めた総合的な施設として建設しようということになった。やはり、専門劇場として育てていこうという方針も決り職員も2劇場あわせて10名となった。

職員に要求される資質も人形劇に対するサービス業務のほか、子ども文化全般に広がり、また、規模も大きいことから、管理業務や広報企画活動まで手がけるスタッフが必要となった。

そこまでの業務は、任意団体である札幌人形劇協議会では無理ということになり、子どもの遊びや、文化面に携わりはじめていた当協会に、昭和63年4月に委託されることになり、7月に「子どものための劇場」即ち、「こどもの劇場(やまびこ座)」としてオープンした。

協会にとっては、子どもの文化面を受け持つ劇場の加入は、協会の活動領域を広げる上でも、重要なことであった。

(4) 劇場の運営について

2つの劇場は、札幌市からの派遣職員2名(館長、係長職1名、事務職員1名、市民局青少年婦人部派遣）と協会職員8名でスタートした。

こぐま座は、従来通りの人形劇を中心とした上演活動と上演者を養成する業務、人形劇に関するサービス業務を行い、やまびこ座は、人形劇と児童劇等の上演とその周辺にある子ども文化全般に関する業務とサービス業務をはじめた。

こどもの文化セミナーや手づくり絵本講習会などユニークな活動を実施している。

(5) 将来に向けて

今後は、上演側の絶対数が足りないという現実に対して、どう援助、育成していくか、上演するものの質を高めながら、観客層を拡大し、劇場を札幌に根付かせていく仕事をどう実現していくか、更に札幌の北海道の子ども文化の中心として機能するために、職員の質をどう高めるかなどが、これからの課題として、努力を積み重ねていかなければならない。

この2つの施設は、国内はもとより、海外の人形劇、演劇等の関係者の来訪も多く脚光を浴びているが、札幌市や北海道の児童文化の中心としての役割が期待されるばかりでなく、全国からも、その成果や行方に注目を集めているだけに、誇りとともに責務の重大さを感じているものである。

滝　野　自　然　学　園

(1)　自然学園の宿泊学習目標

- 自然に親しませることにより、自然を理解し、自然を愛する心を養う。
- 野外における直接経験をとおして、日常学習活動を充実させる。
- 野山を歩くことによって、強い心と体力を養う。
- 共同生活によって秩序を守り、義務や責任を重んじ、協力の精神を養う。

札幌市教育委員会では、学校教育の一環として、小学校５年生を対象に一泊二日の宿泊学習の場を提供し、教科、道徳、特別活動の総合学習により、全人教育を図るための施設として、昭和46年８月17日に、滝野小学校の廃校により校舎を利用し開設されたものである。

(2)　受託までの経過と背景

昭和46年度～53年度までは、札幌市教育委員会で管理運営していたが、昭和54年４月１日からは、当協会の前身であるグループ・ワーク協会が教育委員会から管理運営補助業務の委託を受け、その後、昭和55年４月１日当協会設立とともに引き継がれたものである。

滝野地区の住民にとって、厳しい明治の開拓以来、学校は「心のよりどころ」であり、開拓の昔につながる「心のふるさと」である。それだけに、小学校廃校後、子どもの歓声の聞える場として再生されたことは、地区全体の大きな喜びであり、宿泊児童への協力や、当協会10年のあしあとをみても、ご協力とご援助により達成された事業も多く、その功績は誠に大きなものがある。

(3)　自然学園の活動と運営

自然学園の活動は、学校教育の特別活動（学校行事）として実施されるものである。当協会のグループ活動との接点に存在する活動であるので、充実した一泊二日の学習になるように、プログラムの開発や実際の取り組みにより助言、援助活動を進めてきた。

主な活動としては、

ア．４つの滝めぐり。
イ．オリエンテーリング
ウ．星空の観察
エ．野牛山登山
オ．キャンプファイヤー、キャンドルサービスの指導
カ．野外炊事の指導
キ．歩くスキー
ク．雪中レクリエーションの指導

以上のような活動について、教職員の方々と一体となって活動を進めてきている。

(4)　自然学園の活動の成果

①自然学園を利用した小学校５年生児童は、この10年間に、10万人をはるかに超えている。職員に対する思い出や感謝の便りも1,000通を超える程いただき、そのことが支えとなり意欲をもって取り組んだ10年であった。しかし、平成元年９月10日からは、国営すずらん丘陵公園青少年山の家の開設により、自然学園の宿泊学習の役割は終ることになった。

②当協会はグループ活動の指導や事業の専門集団として発足したものである。自然学園の受託により土曜日、日曜日等の小学校の宿泊学習のない日を利用して、青少年指導者養成事業や協会事業の野外活動の拠点として利用することにより、青少年の健全育成や青少年婦人の社会参加につながる大きな成果を上げることができた。

(5)　将来に向けて

平成２年度よりは、主目的であった学校教育の宿泊学習の役割から離れて、滝野自然学園の立地条件や環境条件を生かした新たな運営の対

応が求められるようになった。

したがって、当協会としては、次のような考え方で利用の拡大をはかるように取り組んでいきたい。

幼児から高齢者までの「自然にかかわる生涯学習」の場としての学習や活動を提供することのできる施設として利用の拡大と活性化をはかっていく。

①次年度の計画として

- 市民が、個人、家庭、小集団により自然学習や活動に利用し、そのねらいが達成できるように援助をする。
- 自然入門や自然にかかわる基礎的な講座などを開設する事業を計画する。
- 継続的な学習や活動を奨励し、市民に親しまれるようにする。
- アウトドア活動の基礎的な学習や活動の展開をはかる。
- 宿泊をともなう活動も幅広く展開していく。
- 地域の協力が得られるので、地域の特性を最大限に生かし、地域と一体となった活動も重視してすすめる。
- なお、自然学園は地域コミニュティーセンター的役割を果し、地区会館も組み込んだ一体的な活動をすすめる。

自然学園はバス停留所より５分、また地下鉄真駒内駅より20分と、比較的交通の便利なところである。しかも、営農者も28戸を数え、自然と田園の調和した素晴しい環境を有している。地元住民も滝野自然学園については、大きな期待をかけ、積極的な協力を得られるので、将来展望も明るいものがある。

札幌市天文台（中島公園）

青少年および一般市民の天文科学に関する知識の啓発普及を行うとともに、天文学上の観測並にその記録の収集を行うことを目的としているものである。

(1) 受託までの経過

札幌市天文台は、昭和33年９月１日に中央区中島公園内に当時としては、最新の設備により開設し市民の関心も高い施設であった。

その後の地域天文台構想により昭和56年４月１日から当協会による札幌市天文台の管理運営補助業務がはじまった。さいわい、天文の専門職員１名の採用により、天文台以外での事業展開ができ、大きな成果を上げている。

(2) 天文台の活動

当協会では天文台の設置目的をふまえながら、青年をはじめ、多くの市民が「気軽に天文観測を楽しめる」場を提供し、天体に関する興味と理解を抱かせ、子供たちには、宇宙への夢を与え、豊かな創造力を育てることをねらっているものである。今日まで、多くの市民に親しまれ利用されている。

天文台では、夜間公開事業や、協会事業活動のグループ活動として、星空同好会の年間活動や、滝野すずらん丘陵公園での「流れ星を見よう」などの事業により、天文台の活動ばかりでなく、広がりのある活動に発展させるように努力をしている。

(3) 将来に向けて

宇宙に夢を求め活動する子どもや市民の関心を高め利用の拡大を図っていくために市民の余暇活動への啓蒙をはかる。

夜間利用、ＰＲ活動なども今後は積極的にすすめていきたい。

当協会の将来展望

職員15名でスタートした当協会も「協会事業活動」のほか、17の施設の管理運営と7つの施設へ指導員を日常派遣する大世帯となり、職員数も96名を数えるまでにこの10年間で成長を遂げた。

当協会は今や、主目的であるグループ活動とともに、さまざまな施設を抱え、社会福祉と社会教育の総合的な活動を担っているということができる。

その活動や一つ一つの施設をみても、それぞれ受けもつ分野や特色はあるが、それらのよさを最大限に生かしながら、札幌市民のために寄与する役割と責任を有しているものである。

(1) 創立10年から今後の10年へ

当協会10年のあゆみは、振りかえってみると「協会事業活動」のように設立以来の取り組みにより成果を上げているものと、施設受託の場合のように、委託されてから年月の浅いものが多くみられ、この創立10年の節目は、未だ基礎づくりの階段ということができるとおもう。それだけに若い息吹きを感じさせる各施設であり、今後の10年は、21世紀につなげる橋渡し役として、大きな飛躍を期待しているものである。

(2) 生涯学習とのかかわり

生涯教育の意義については、語り尽され、現在では一種の国民的課題になりつつある。

中教審答申の理念の中にも、余暇を有効利用する際、体育やレクリエーション活動にも目を向け奨励する姿勢がみられる。地域での教養や趣味を重視した活動や市民が気軽に利用できる施設の整備等は、現在すすめている当協会の施設利用の考え方と一致するものであり、これからの10年のあゆみの中では、これらの活動に深く対応できる指導性が求められると思っている。

(3) ネットワークを通じての活動

当協会の活動や施設には、それぞれの分野と特色がある。これらを生かして、有機的に機能させていく。例えば、児童会館で育った子どもたちが、協会事業のキャンプ活動に参加し活動したり、婦人文化センターで、やまびこ座が指導し、上演をやまびこ座でするとか、グループ・ワークで育った青年が児童会館の地域活動に協力するとか、協会内の連携を深めながら、全施設が一体となった活動を是非すすめていきたい。

また、全市的、全国的な視野にたって、関係機関、団体とのネットワークを通じての活動も今後は特に大切にしていきたい。

(4) おわりに

〝遊びに学び、共に育つ〟この言葉は協会の性格を端的に表わしているものである。

近年の日本は、核家族化の進行、少子化、高学歴志向や経済優先志向などとともに、合理的な都市づくり等により、子どもたちの時間と空間をうばってしまい、青少年の非行の増大を生む要因ともなってしまった。

子どもたちが健やかに育つ原点は、遊びであり、仲間づくりであり、自然である。

楽しく遊ぶことから、社会連帯の大切さや、他人を思いやる心が育つものである。

自然の中の活動は、自然との調和した生活の中から、本当の楽しさがわかり、活動の積み上げから、人間尊重や自然を愛する心が育つものである。指導者は、人間の生き方についての理念を持ち、楽しい遊びから心を育てることを根底におきたい。

また、子どもの内面から引き出していける活動になるように心がけるとともに、その指導力を常に磨いていく姿勢でありたい。

当協会のグループ活動は、このような意義ある活動であることに誇りをもち、職員一同は、結束して〝遊びに学び　共に育つ〟活動により、夢と創造の世界を大きく育てていきたい。

㈶札幌市青少年婦人活動協会10年の歩み略年表

昭和55年（1980年）度　設立1年目	
4月	・財団法人札幌市青少年婦人活動協会設立 ・青少年レクリエーションセンター管理補助業務受託（～63年3月まで） ・滝野自然学園管理補助業務受託（～現在） ・中央勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名） ・豊平勤労青少年ホームへ指導員派遣（2名） ・石山青少年会館へ指導員派遣（1名） ・協会職員（指導員）研修スタート（58年からは毎週、それ以前は隔週　～現在）
5月	・主催事業「じゃがいもキャンプ」スタート（年3回、2コース）（～現在） ・主催事業「グループ・ワーカー養成講座」スタート（年30回）（57年5月より青少年センター事業～現在） ・子ども会シニア・リーダー研修（札幌市年間契約事業年4回）スタート（～現在） ・各区子ども会ジュニア・リーダー研修（5区年23回）スタート（～現在） ・子ども会育成者研修（札幌市年間契約事業年6回）スタート（年間契約は57年まで） ・新1年生お母さんのつどい関係事業スタート ・札幌市職員研修（年20回）スタート ・よい子の広場（札幌市年間契約事業年15回）（～現在）
6月	・婦人ボランティア・スクール（札幌市年間契約事業年2コース）スタート（57年度より婦人文化センター事業）（～現在）
7月	・ポプラ勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名） ・豊平勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名追加） ・主催事業「母と子のあそびの学校」（年3コース）スタート（57年2月より婦人文化センター事業）（～現在） ・主催事業「みどりとあそぼう自然学園」スタート（～現在） ・仲よし子ども館母親学習会（札幌市年間契約事業年12会場）スタート（～現在） ・夏季キャンプ（シニア・リーダー、ジュニア・リーダー）（札幌市年間契約事業）スタート（～現在）
8月	・主催事業「肢体不自由児キャンプ」スタート（～現在） ・青少年ジャンボリー（札幌市年間契約事業）スタート（～56年度まで） ・北海道青年婦人海外研修（分団長派遣）
9月	・こどものみの市（札幌市年間契約事業）スタート（～57年まで） ・婦人ボランティアコーナー事業研修（札幌市年間契約事業）スタート（57年度より婦人文化センター事業）
10月	・アカシア勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名） ・青年リーダー研修（札幌市年間契約事業）スタート（～61年まで）
1月	・主催事業「道新冬休み健康村」スタート（～現在） ・冬季キャンプ（札幌市年間契約事業）スタート（～現在）
3月	・国内研修（シニア・リーダー、ジュニア・リーダー）（札幌市年間契約事業）（～現在） ・『レク・リーダーの手引（ゲームとプログラム）』発行

昭和56年（1981年）度　設立2年目	
4月	・札幌市天文台管理補助業務受託 ・中央勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名追加） ・円山勤労青少年ホームへ指導員派遣（1名） ・アカシア勤労青少年ホームへ指導員派遣（2名追加） ・ポプラ勤労青少年ホームへ指導員派遣（2名追加） ・石山青少年会館へ指導員派遣（1名追加） ・婦人文化センターオープン準備開始
6月	・移動天文台（年12回）
7月	・主催事業「道新夏休み健康村」スタート（～現在）
8月	・父と子のキャンプ（札幌市年間契約事業）（～59年度まで） ・ポートランド市派遣団交流会

11月	・札幌市婦人文化センター管理運営受託 ・札幌市子ども文化祭（～現在）
12月	・㊫婦人文化センターオープン、開館記念行事（～現在） ・㊫料理講座スタート（～現在） ・㊫開館記念特別相談（～現在）
1月	・発寒勤労青少年ホームへ指導員派遣（３名） ・㊫婦人ボランティア・ビューロー研修会スタート（～現在） ・㊫ちょっとした知識シリーズスタート
2月	・札幌市青少年センター管理運営受託、事務局移転 ・北海道老人大学札幌校（～現在） ・㊫婦人講演会スタート（～現在）
3月	・主催事業「道新春休み健康村」スタート（～61年度まで） ・㊫ボランティア・ビューローだより〝ぬくもり〟発行（～現在） ・㊫コンサートスタート（～現在） ・㊫婦人健康講座スタート（～59年度）

昭和57年（1982年）度　　設立3年目	
4月	・中央勤労青少年ホームへ指導員派遣（１名追加） ・円山勤労青少年ホームへ指導員派遣（１名追加） ・㊫婦人週間特別相談スタート（～現在） ・㊫婦人文化センターだより〝せんのき〟発行（～現在） ・シニアリーダー修了者研修スタート（札幌市年間契約事業）（～現在） ・㊫利用者意見交換会スタート（～現在）
5月	・野外活動指導員研修（～現在） ・㊫ふるさと見学会スタート（～57年度）
6月	・㊫婦人レクリエーション研修会スタート（～現在） ・天文指導員研修
7月	・㊫婦人法律相談スタート（～現在）
8月	・㊫女性学講座スタート（～現在） ・厚真町・札幌市交歓キャンプ（～現在） ・海洋少年団全国大会
9月	・㊫婦人通信講座スタート（～現在） ・新１年生お母さんのつどい10周年交流会 ・ヤングフェスティバル・イン・サッポロ
10月	・㊫婦人広報担当者研修スタート
1月	・㊥国際交流スタート（～62年度）
3月	・札幌青年グループリーダーセミナー ・㊫婦人リーダー研修会（～現在）

昭和58年（1983年）度　　設立4年目	
6月	・母親学園（～現在） ・㊥「キャンプ場案内」発行（～現在）
7月	・㊥ステージングクリニックスタート（～現在） ・主催事業「中学生キャンプ」スタート（～現在）
9月	・北郷子どもフェスティバル
10月	・㊥利用者懇談会スタート
11月	・児童会館職員・指導員研修 ・㊥おもしろタウンラリースタート（～現在） ・㊥コンサートスタート（～63年度）

12月	・uhb チャリティクリスマス子供大会
2月	・全郵政北海道レクリーダー養成講座

昭和59年（1984年）度　設立5年目	
4月	・札幌市交通局職員研修 ・児童福祉週間記念行事こどものつどい
5月	・道立保育専門学校レク研修
6月	・楽しい天文の夕べ ・㊛女性学講座ティータイムサロンスタート（～現在） ・㊛託児ボランティアスタート（～現在） ・主催事業「遊学塾リトルキャンプ」スタート（～現在）
7月	・「青少年の非行」対策を考えるシンポジウム
10月	・豊平区りんご祭り
11月	・子どもサミットインほっかいどう ・中小企業経営管理者研修
12月	・㊛ティータイムサロン小冊子発行（～現在）
2月	・海外における青少年グループ活動調査研究派遣

昭和60年（1985年）度　設立6年目	
4月	・ガールスカウト札幌地区リーダー研修 ・アサヒビール・ヤングビール会
5月	・札幌市老人クラブ連合会
9月	・道警職員レクリーダー養成研修（～61年）
10月	・㊛婦人ボランティアスクール修了生懇談会（～現在） ・千歳市子供フォーラム ・㊒国際青年年記念事業青少年センター祭
11月	・主催事業「グループ・ワーカー養成講座修了生ティータイムサロン」スタート ・北ガス地連青婦リーダー研修会（～現在）
12月	・主催事業「ハレー慧星と流星群観測ゼミナール」
1月	・㊒青少年センターもちつき大会
2月	・青年グループ・リーダーセミナー
3月	・㊛昭和60年度婦人ボランティアリーダー研修会 ・協会5周年記念誌「5年の歩み」発行 ・『レク・リーダーの手引き（キャンプとプログラム）』発行

昭和61年（1986年）度　設立7年目	
4月	・宮の森児童会館管理運営受託 ・太平児童会館管理運営受託 ・佐々木順常務理事　北海道青年婦人国際交流センター評議員（～63.3） ・田辺菜美子職員　優良映画選定協議会委員（～元.3）
6月	・北海道看護教員養成講習会（～62年）

7月	・札幌市教育委員会婦人ボランティア講座 ・静修短大学生リーダー研修 ・成徳ビジネス・社会福祉専門学校(現札幌社会福祉専門学校)特別講座（～現在）
9月	・子どもサミット・イン・洞爺湖 ・ボランティア愛ランドフォーラム
10月	・麻生児童会館管理運営受託 ・㊫NHK合同「婦人文化講演会」（～現在）
12月	・㊥百人一首勉強会（～現在）
1月	・小樽市青少年活動協会レク・リーダー研修
2月	・厚別南児童会館管理運営受託 ・滝野すずらん丘陵公園スノーフェスティバル（～現在） ・主催事業「遊習塾　冬季リトルキャンプ」スタート（～現在）
3月	・相馬宏哉青少年センター館長、大築覚課長、大規模宿泊野外教育施設(仮称)建設に伴う活動プログラム検討委員

昭和62年（1987年）度　　設立8年目	
4月	・浦田久理事長　北海道青年婦人国際交流センター参与 ・浦田久理事長　札幌市ボランティア活動助成団体審査委員（～平成２．１）
5月	・㊫北一条文化ゾーンフェスティバル（～現在）
6月	・㊥ドイツフィルムフェスティバル
7月	・主催事業「ふくろうキャンプ」スタート（～63年度） ・手話通訳者養成講座
8月	・全国指定都市ジュニア・リーダー大会 ・道新ファミリーキャンプ指導（～現在）
9月	・主催事業「リトルキャンプ　秋のぶどう狩り」 ・青年学園（～現在）
10月	・学校図書館開放事業開放司書、ボランティア養成講座
12月	・交通遺児の会母と子のレクリエーション（～現在） ・『子どもの冬の外遊び』編集（青少年婦人部発行）
2月	・南の沢児童会館管理運営受託 ・あけぼの児童会館管理運営受託
3月	・中の島児童会館管理運営受託（児童クラブの設置） ・㊗受託児童会館合同キャンプ「雪と遊ぼう自然学園」（～63年度まで） ・㊗受託児童会館合同「子育てトーキング」

昭和63年（1988年）度　　設立9年目	
4月	・札幌市こどもの劇場・札幌市こども人形劇場管理運営受託 ・高橋邦臣常務理事　北海道青年婦人国際交流センター評議員（～平成２．３） ・勤労青少年ホームの愛称〝Let's〟決まる ・㊥NHK衛星放送コンサート ・主催事業「星空同好会」スタート（～現在）
6月	・浦田久理事長　札幌市青少年問題協議会委員（～平成２．５） ・佐々木順指導室長　野外活動検討会委員（～平成２．３） ・主催事業「天文映画を見る会」 ・主催事業「望遠鏡操作講習会」 ・札幌市野外活動研究会研修
8月	・主催事業「流れ星を見よう」スタート（～現在） ・㊢こどもの劇場オープン記念フェスティバル（～現在） ・新一年生お母さんのつどい15周年事業

9月	・北海道婦人のつどい ・㊀NHK合同レディス・プラザ
10月	・㊂人形劇講座・劇あそび講座（各12回）（～現在）
11月	・㊂人形劇祭（～現在）
12月	・オートリゾート・ネットワーク研究会 ・ボランティア活動を考えるつどい
1月	・丘珠たから児童会館管理運営受託 ・㊂手づくり絵本展と講習会（～現在）
2月	・札幌市母子寡婦福祉連合会働くお母さんのための講座 ・㊂手づくり絵芝居講座（８回）（～現在）
3月	・㊀ソリリング大会～自作ダンボールソリすべり～スタート ・『児童会館の運営（共通理解をはかるための手引）』発行

平成元年（1989年）度　　設立10年目	
4月	・主催事業「こいのぼりとあそぼう」スタート
5月	・主催事業「父と子のアドベンチャースクール」スタート ・㊂人形劇講座　昼・夜（各12回） ・㊀サンドアート実験（５月、９月）
6月	・㊀婦人文化センター別館オープン ・㊂児童劇　春の親子劇場 ・㊀トークアンドトーク
7月	・全市児童会館まつり ・㊁受託児童会館合同夏季キャンプ
8月	・さけの会主催林間学校 ・主催事業「遊山塾レディース登山」スタート
9月	・㊂影絵講座（３回）（こぐま座） ・各区健康づくりリーダー研修
10月	・主催事業　10周年記念事業「講演会～かこさとしの世界～」 ・㊀話し方講座（～現在） ・㊀本館改修完了
11月	・㊀レディース・ワープロ講座 ・㊂こどもの文化セミナー
12月	・栄西児童会館管理運営受託 ・厚別東児童会館管理運営受託 ・主催事業「遊雪塾」スタート ・㊂森は生きている公演
1月	・新川中央児童会館管理運営受託 ・道教委青少年自然体験指導者養成講習会（４会場）

注．㊀は青少年センター、㊀は婦人文化センター、㊂はこどもの劇場、㊁は児童会館の略です。

協会の事業と施設

協会の多様な事業と施設運営の内容をまとめてみました。それぞれの事業、施設が札幌市にとって重要で、その未来に対する責任の重さがひしひしと感じられます。

私たちが、全力をあげて取り組んでいる仕事の中身について、その一端でもご覧にいれることができれば幸せです。

協会の事業活動

協会の事業活動は、他機関・団体からの依頼を受けて実施しているもの、協会自らの財源をもって独自に企画実施しているもの等からなっており、その内容は多種多様になってきています。この10年間をふり返えると実に多くの方々と様々な形での出会いがありました。協会の名前を知らなくても、その事業に参加したことがある、その事業を知っている…という具合です。係わる内容は違っても、それらの活動の中でグループ活動を中心として、青少年の健全育成並びに青少年婦人の社会参加を目指してきました。

協会はこれら事業活動を専門的立場から指導、助言などを通して実施してきましたが、これは札幌市などの公共団体からの委託の事業が多いことによりまだ一般に協会の活動内容が知られていないため、今後はP.R.も兼ねた事業活動の展開、さらには社会変化に応じた事業対象の拡大など、協会の持つ機能を生かした活動を進めていく必要があるでしょう。

また、各施設を受託したのに伴い、各施設間のネットワークを作りあげ、地域、住民に結びついた形での事業展開も可能になってきています。

協会の事業活動

おおまかに分けて協会の事業活動は次のようになっています。

①グループ活動の指導業務
②指導員の養成および派遣業務
③グループ活動プログラムの企画立案についての相談業務
④グループ活動に関する調査研究および資料の発行業務
⑤福祉事業等に対するボランティア活動業務

上記の中では①のグループ活動の指導業務が具体的にいろいろな事業という形で直接的に対象者にかかわっていく部分であり、様々なグループ活動のリーダーの養成や、遊びやキャンプを通してのグループ活動の促進などがあります。

②についても、現在青少年センターで実施している青少年指導者養成講座修了者を対象として2年目講座を引き続き継続していく形で独自にカリキュラムを立てて実施しています。グループ活動についてのより専門的知識と技術をもったグループ・ワーカーの養成をはかることをねらいに、1年目課程よりさらに具体的な講座を設定し、実践活動できる配慮がなされています。残念ながら派遣という点についてはまだ軌道に乗ってはいませんが地域や団体等からの依頼で活動している人が少しずつ増えている現状です。

③～⑤についても①の実践に基づき、活動を進めていることろです。

〈青少年指導者養成講座(2年目)の主な内容〉

・グループ・ワーク概論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
・子供の基本的理解Ⅰ・Ⅱ
・プログラム理論Ⅰ・Ⅱ
・キャンプ組織論Ⅰ・Ⅱ
・キャンプの効果とその影響
・集いとは
・レクリエーション研修Ⅰ～Ⅴ
・ボランティアⅠ・Ⅱ
・グループ演習
・宿泊研修Ⅰ・Ⅱ
・実習(夏季・冬季) ～課題設定・実習・まとめ～
・プログラム演習 ～計画・準備・演習・まとめ～
・1、2年間のまとめ
・総括研修

・修了に向けて(修了後の活動)

事　業　紹　介

1．地域子ども会リーダー研修

各地域の単位子ども会から選出されたリーダー対象のジュニアリーダー養成研修、さらに上級のシニアリーダー養成研修をそれぞれ区・札幌市市民局青少年婦人部からの委託という形で協会発足時から指導面を担当。リーダーとしての資質の向上及び知識や技術などの習得を目指してその研修を進めているが、未来を担う子どもの活動を中心に、その周囲の地域社会がより豊かになっていくことを願い係わっていくことのできる事業である。このため、これにたずさわる職員は全市的統一と研修内容の充実を計るため打合せ・確認をしあいながら業務を進めている。

2．仲よし子ども館母親学習会

全市合同の特別プログラムとして、札幌市市民局青少年婦人部からの委託を受けて実施。日常の中で〝遊び〟を通して親子のスキンシップを深めその重要性を認識してもらうことをねらいとし、その素材の提供を試み、集団遊びの紹介や、ぬいぐるみ人形劇などを企画上演している。

3．青年学園

札幌市教育委員会からの委託事業でインドアスポーツ講座を担当。参加青年と汗を流しながら、競技スポーツではなくレクリエーションスポーツを楽しみながら仲間づくりを行っている。

4．札幌市子ども文化祭

毎年11月3日文化の日に行われる札幌市教育文化財団からの委託の事業。教育文化会館での恒例のイベントとなっているが、この〝遊びの広場〟を担当し、いくつかのゲームを回って得点を競うゲームトレール方式で手づくりの遊びを企画、実施している。毎年多大な準備に労力を費しているが参加する児童が楽しんでいる姿や、何年も継続して参加し今年も頑張っている様子を見るとやはりうれしいものである。

5．滝野すずらん丘陵公園スノーフェスティバル

公園緑地管理財団からの委託を受け、昭和62年第1回目からチャレンジゲームコーナーを担当。雪の素材を生かしてのゲームトレールを企画実施している。冬季のしかも戸外での遊びの紹介ということで天候と闘いながらの事業であるが、かまくら造り、氷張りなど技術的なトレーニングの場でもある。札幌雪まつり期間とも重なっているが家族単位で訪れ雪まみれになって帰っていく姿はほのぼのと暖い。

6．キャンプ事業

協会イコールキャンプと間違われるほど協会の主催する事業はキャンプが多い。それは集団活動の成果をより効果的に得られ、しかも自然体験の中でこそ得られるものが豊富であるからである。

(1) 健康な身体を育てる。

(2) 自然や友達に触れ、新たな発見、生きた認識を育てる。

(3) 未知の世界への挑戦により、創造性を育てる。

(4) 他の人との協力、自分の役割を通して社会性や協力性を育てる。

(5) 自主的な行動を通して、自信・意欲を育てる。

以上の点を目標にして、対象に応じ、特色のあるキャンプを行っている。

(ア) みどりとあそぼう自然学園（7月）

小学校4～6年対象、3泊4日。自然体験や集団活動を通して新しい自己の発見や仲間づくりを行う。(滝野自然学園で開催) ※写真Ⓐ

(イ) アウトドア・スクール～ラルマナイキャンプ（8月）

中学校1～3年対象、5泊6日。文明の及ばない場所での活動を通し自己の生活を振り返り限界に挑戦すること、自然の大切さ、親しむ喜びを体験する。(恵庭市ラルマナイ川流域及び空沼で開催) ※Ⓑ

Ⓐ

Ⓑ

(ウ) 遊習塾～リトルキャンプ（8月、3月）

小学校1～3年夏・冬2回、集団の中で遊ぶ楽しさを知り、自ら成し遂げたという達成感を体験させる。保護者にもそうしたことの大切さを知り、自らも体験してもらう。このためキャンプを中心に長期の係わりをもち段階を追って集団に結びつける。(滝野自然学園で開催) ※Ⓒ

(エ) じゃがいもキャンプ(5月、7月、9月)

家族対象。植込み、土かけ、収穫の3回。作物を作る苦労と喜びを体験する中で、親子のつながりを見直し、自然と触れあい家族間の交流をはかる。(南区滝野で開催) ※ⒹⒺ

(オ) 肢体不自由児キャンプ（9月）

肢体不自由児とその家族対象、1泊2日。野外活動の楽しさを実体験の中で知ってもらう。また職員自らも家族に対する理解と認識を深める。(滝野自然学園で開催) ※Ⓕ

Ⓒ

Ⓓ

Ⓔ

(カ) 道新健康村（7～8月、1月）

小学校4～6年対象、夏・冬2回。3泊4日。北海道新聞社、道新観光との共催。日常と異なる環境の中で新しい仲間との出会いや共同生活を体験し自ら考え行動できるようにする。また季節に応じた遊びの展開により、視野を広げ創造性を伸ばし豊かな心を養う。(虻田郡真狩村道新羊蹄自然の村で開催) ※ⒼⒽ

上記キャンプに加え、平成元年度は「こいのぼりと遊ぼう」(小学校4年以上対象)や「父と子のアドベンチャースクール」(小学校1年以上の父子対象)、「遊山塾～レディース登山教室」(婦人対象)「遊雪塾」(小学校4～6年対象) などの新しい事業も実施し、今後については他機関、団体等と連携しながらより一層の効果をねらい行っていくものである。

Ⓕ

Ⓖ

Ⓗ

ⒾⒿ：「こいのぼりと遊ぼう」
Ⓚ：「父と子のアドベンチャースクール」
ⓁⒶ：「遊雪塾」
ⓃⓄ：「遊山塾」

Ⓘ

Ⓙ

Ⓚ

Ⓛ

Ⓜ

Ⓝ

Ⓞ

7．天文事業

(ア) 星空同好会

協会の主催で毎月１回年間を通して実施し、天文学をやさしく解説すると共に日頃の疑問に答えている。また天文事業への理解者を増やすと共に個々の同好者同士の横のつながりを促進しようとするものである。

(イ) 流れ星を見よう

公園緑地管理財団との共催で協会が主催している。毎年８月に見られるペルセウス流星群と天の川を見ようと夜から明け方にかけて数日にわたって実施し、そのガイド役をするもので多くの天文ファンに期待されている事業である。

〈主催事業の参加者数〉

—昭和55年度から平成元年度実績—

(人)

事業名	昭和55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元	備考
みどりとあそぼう自然学園	509	486	596	513	406	278	189	146	84	100	※グループ・ワーク協会から引き続き実施
じゃがいもキャンプ	113	451	298	746	735	404	340	338	371	198	
肢体不自由児キャンプ	46	40	45	49	68	40	40	39	33	31	※グループ・ワーク協会から引き続き実施
母と子のあそびの学校～親と子の野外活動～	174	203									57年度より婦人文化センター事業として実施
母と子のあそびの学校～家庭におけるクリスマス～	51	136									57年度より婦人文化センター事業として実施
母と子のあそびの学校～母と子の一泊雪のあそび～	65										56年度より婦人文化センター事業として実施
道新冬休み健康村	81	189	227	189	229	163	133	51	78		
道新夏休み健康村		496	502	507	509	506	575	577	588	583	

（人）

事業名	昭和55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元	備考
道新春休み健康村		94	76	80	83	85	79				
アウトドア・スクール				58	226	129	146	133	100	96	
遊習塾 リトルキャンプ（夏）					469	525	526	530	622	534	
ハレー彗星と流星群 観測ゼミナール						39					
グループ・ワーカー養成講座 修了生ティータイムサロン						18		21	16		
遊習塾 リトルキャンプ（冬）							101	74	85		
ふくろうキャンプ								38	165		
星空同好会									186	117	
天文映画を見る会									20		
望遠鏡操作講習会									10		
流れ星を見よう									92	202	
こいのぼりと遊ぼう										52	
父と子のアドベンチャースクール										114	
遊山塾 ～レディース登山教室～										171	
10周年記念 かこさとし講演会										250	
遊雪塾										48	

札幌市青少年婦人活動協会が運営する施設①

札幌市青少年センター

札幌市中央区北2条西7丁目
☎261-0118

外見は小さくても、中に入れば無限大のスペースを持つ青少年センターは、札幌市の中心に位置し、若い人たちの活動拠点です。

サークル活動、音楽練習、コンサート、会議など気軽に低料金で使用でき、しかも開館時間も長いため若い人に限らず、一般の方々も使用できる開かれた施設です。

施設の概要

【開　　館】昭和57年2月21日
【敷地面積】489.25㎡
【建物面積】921.78㎡
【構　　造】鉄筋コンクリート造地上3階建、一部地下1階。

ご利用案内

開館時間：平日／8：45～22：00
　　日・祝日／8：45～17：00
休 館 日：12月29日～1月3日
申込方法
　ホール／青少年は使用の月の3ヵ月前。
　　一般の人は2ヵ月前から。
　その他／青少年は使用の月の2ヵ月前。
　　一般の人は1ヵ月前から。
　　印鑑持参の上、窓口にて。
受付時間：平日・土曜日の8：45～19：00

部屋のご案内

ホール　150名収容、照明・音響設備は大ホールなみ。コンサートから演劇、そしてダンスまで幅広く使える多目的ホールです。

会議室　4つに区切れ、通して50名まで利用できます。人数にあわせてご利用下さい。

和　室　10名と20名収容の2室。ゆったりと会議や打合せにも使えます。

音楽練習室　ドラムセット、キーボード、各種アンプ、エコーチェンバー、マイクを備えて、十分な練習ができます。

オアシス　とても気軽で開放的なスペース、音楽や読書をとおしてコミュニケーションのはじまりです。喫茶コーナーや印刷コーナーもあります。誰でも自由に使用できる場所です。

青少年連合事務室　より多くの人に、サークル活動の楽しさを知ってもらい、サークル活動を助長することを目的に市内で活動しているサークル、グループが集まって昭和47年に設立された連合の事務室があります。

利　用　状　況

開館以来、年々利用グループが増加し、今後もさらに、利用の促進と、活動の活性化を図っていきます。その当センターの利用状況を紹介します。

●小グループ活動

英語やフランス語などの語学、ボランティア活動、自費出版の編集会議、写真、保育、レクリエーションやゲーム、アニメ、クラス会など様々な会の小グループの勉強会、交流会、研修会が、会議室や和室を中心に行われています。

●音楽活動

若い人たちのバンド熱は高く、高校、大学生の利用を中心にフォークからロック、パンクなど多様なジャンルの音楽活動が盛んです。

100を超える利用バンドの中には、3階ホールでコンサートを催し、チケットの作成からＰＲ、当日の進行と手作りで行うグループもあります。

さらに、交響楽団や吹奏楽団、合唱サークル、フォークダンス、民族舞踊、幻想舞踊などに幅広く定期的な利用がなされています。

また、フルートやキーボードなどの個人の練習の利用も多く周囲に気がねなく練習ができると好評です。

●同人誌活動

同人誌の活動は、年々盛んになっていく傾向にあります。最近は、アニメ、漫画系サークルが活発で、サークル内の打ち合せばかりでなく、日・祝日にはいくつかのサークルが集まる同人誌展示発表交歓会が催され、参加者間の交流が多く生まれています。

●演劇活動

演劇活動も、当ホールや他の劇場での公演に向けて、熱のこもった練習が定期的に繰り返されています。

●映画上映会

よい映画を多くの人に観てほしいと活動を続けている数団体が、流行に左右されず、地道に活動を続け、年数回上映会を行っています。

●その他

当センターでは、青少年の利用ばかりでなく、婦人サークルや一般利用も多くあります。

和裁や書道教室、詩吟や和歌のサークル、育児サークル、消費者関係活動団体など、また、会社や官公庁の研修会も昼間の利用を中心に行われています。

主　催　事　業

青少年の社会参加が叫ばれて久しくなっている現在、青少年センターの存在をＰＲすることはもちろん、様々な社会参加を促進する事業、グループＰＲのできる事業、人と人とのふれあいの場となる事業を実施しています。

１．札幌市青少年指導者養成講座

（グループ・ワーカー養成講座）

人と人とが助け会い、協力し合うことが幸福につながることを私たちに教えてくれていた社会は、今や近代化され合理化される中で、その働きを失おうとしています。このような社会では、自分を含めた人というものをもう一度見直すことによって、豊かな人間性や社会性を育てていくことが極めて重要な課題といえます。

この講座は、その課題に取り組む手法としてグループ・ワークを取り上げ、専門的知識を持ち、実践的活動のできるグループ・ワーカーの養成をしようというものです。

(1)　対象者

高卒以上（もしくは、同等の学力を有する人）25歳未満の人で、ボランティア活動に意欲があり、夏・冬それぞれ３泊～５泊程度の実習に参加できる人。

(2)　講座期間

１年間（５月～翌年３月）

講　　義：毎週木曜日(18：30～21：00)
宿泊研修：年３回（土・日曜日）
グループ演習：年２回（日・祝日）
実　　習：年３泊～５泊（夏・冬休み）
児童会館実習

(3)　主な講座内容

講　　義：グループ・ワーク概論、心理学、キャンプ組織論、児童心理学、プログラム理論、地域社会論、北方文化ほか
宿泊研修：野外活動技術、レクリエーション、カウンセリングほか
グループ演習：課題グループ活動
実　　習：グループ・リーダーの役割と実践等

(4)　修了者数

	55年度	56年度	57年度	58年度	59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	元年度(予定)	合　計
人数	27名	27名	22名	42名	37名	42名	23名	40名	24名	33名	317名

2．会館祭

〈昭和56年度〉（開館式）

・ギター演奏（藤垣秀雄氏）
・リコーダ合奏（西野第２小学校）
・エレクトーン演奏（遠田奈津江氏）
・講演「シーガル号太平洋航海記」
（野村輝之氏）

〈昭和57年度〉『今、青春ふるこ～す』

・河村通夫とフィルムコンサート
・映画上映会「ジョーイ」
・青年交流会
　センターギネスに挑戦
　ディスコタイム
・音楽クリニック

〈昭和58年度〉『秋だというのにうでまくり』

・映画上映会「ゴジラの息子」他
・仮装ディスコ大会
・おもしろタウンラリー
・マラソンコンサート「うでまくりライブ」
・ヘルシートレイル
・早食い競争

〈昭和59年度〉『青年万作秋日和』

・マラソンコンサート「秋日和ライブ」
・おもしろタウンラリー
「最後は胃ぶくろで勝負」

〈昭和60年度〉『青春／something』

・映画上映会「アメリカン・グラフティ」ほか
・国際交流
「ご存じですか、あなたのさっぽろ」
・さっぽろコミックマーケット

『国際青年年記念』

・青年と婦人の語らい
—婦人から見た若者、
若者から見た婦人—
・アグネスと青春を語る
（アグネス・チャン氏）
・弦楽四重奏の夕べ
（アンサンブル・ヴェガ）

〈昭和61年度〉

会館祭とはせず、いくつかの事業を年度内に分散して実施。

・第４回おもしろタウンラリー
「～食欲の秋・アキ・あき～」
・国際交流
・レーザーディスクの集い
「ゴーストバスターズ」ほか

〈昭和62年度〉

青少年センター誕生会として実施

・もちつき大会
・演劇公演「雪の夜の影ぼうし」

〈昭和63年度〉『開館記念行事
～ふゆでもあつい宝島発見!!～』

・講演「夢・航海・人生」（野村輝之氏）
・ひとり語りとギター演奏のひととき
語り（本間ひとし氏）
演奏（藤垣秀雄氏）

〈平成元年度〉

10周年を迎え、年間を通しトーク＆トーク等の事業をもって会館祭とした。

3．ステージング・クリニック

音楽・演劇等の活動を始めて間もない中・高生を中心にP.Aや照明の基礎、ギターやドラムなどの機材の操作方法などを専門家に聞き、学ぶことにより各自の活動を活発にしてもらうために実施しています。

毎年2回、夏と冬に実施し、その成果を発揮するためにライブコンサートもあわせて実施しています。

4．おもしろタウンラリー

昭和58年からはじまったタウンラリーは、青年ばかりでなく、家族の参加も多く毎年の恒例事業です。

タウンラリーとは街の中で行うオリエンテーリングのことで、方向と距離を示すガイドマップと、曲る方向を示すアローマップを持って設問を解きながら歩きます。普段何気なく見ている街角に意外な発見があります。

5．交流事業

センターの誕生を祝う「もちつき」や、外国の方々と集う「国際交流」、利用者の意見交換会の「利用者懇談会」などの交流事業を実施してます。

6．百人一首勉強会

昭和61年度から初まったこの事業は、北海道独特の下の句かるたを使い、勉強会や腕だめし会などを実施しています。

また、子ども会育成者の方の参加もあり、広く地域にも広めていかれることを期待しています。

7．トークアンドトーク
～ほっとなおしゃべりタイム～

毎回多彩なゲストを迎え、ゲストの生き方、考え方を聞いてもらうことにより、余裕のある考え方を身につけてもらおうとするものです。

（第1回～第6回の講師）

・ビル・クリアリー氏（北大法学部研究留学生）・坂元正徳氏（スタジオ YOU オーナー）・高田祐子氏（漫画家）・岡村雄二氏（北海道フィルムアート㈱・札幌映画サークル副会長）・伊藤ちひろ氏（NHK アシスタントレポーター）・伊藤重孝氏（劇団さっぽろ）

8．ソリリング大会

～自作ダンボールソリすべり～

昭和63年度より滝野すずらん丘陵公園で3月に行っているこの大会は、家にこもりがちになる冬に、誰もが簡単に作れるダンボール製のソリで競技会を開催し、青年ばかりでなく広く市民に親まれる札幌の冬の風物詩として、楽しく交流ができる事業にすることを目指しています。

参加チームは、小学生から青年、会社の同僚、家族、PTAと様々で、ソリ・仮装とも、手のこんだチームも多く、歓声と笑いに会場は包まれます。

9．情報コーナー

毎回いろいろな特集を載せている情報紙「若い芽」（年6回発行）や全道のキャンプ場を紹介している「キャンプ場案内」（昭和58年より）の発行、全国の青少年施設を紹介しているコーナーなど、青少年活動のお手伝いを目指しています。

※ 資料　青少年センター利用状況

	56年度	57年度	58年度	59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	元年度	合　計
ホ　ー　ル	3,366	27,622	33,723	42,625	35,785	30,699	27,197	26,427	21,882	249,326
和　室　A	415	6,004	7,173	6,507	6,342	6,910	5,990	5,068	4,008	48,417
和　室　B	492	3,453	4,287	4,728	4,424	4,600	4,076	3,156	2,328	31,544
会　議　室	1,146	12,489	12,447	13,406	13,224	15,476	13,770	11,398	10,019	103,375
音楽練習室	383	3,833	3,799	3,607	3,755	3,260	3,065	2,953	2,330	26,985
オ　ア　シ　ス	1,471	15,329	16,773	17,354	14,454	16,122	14,681	10,128	10,520	116,832
合　　計	7,273	68,730	78,202	20,961	18,209	19,382	68,779	59,130	51,082	391,748

＊ 56年度は2、3月の2か月分、元年度は4月～1月分まで。

札幌市青少年婦人活動協会が運営している施設②

札幌市婦人文化センター

札幌市中央区大通西19丁目
Tel 621-5177

札幌市婦人文化センターは昭和56年12月に当時の婦人会館が手狭になったこと等を理由に、女性のより一層の生活文化の向上、婦人活動の推進、福祉の増進のために建設された全市的な女性のための中心施設です。

女性の自主的活動の場の提供を始めとして、婦人問題、婦人のための情報を取り入れた事業展開、また女性の利用ばかりでなく幅広い男女の共同参加を目標により多くの男性の参加も呼びかけています。

また開館以来利用も活発で、少しでも多くの女性に利用してもらえるように、平成元年6月に隣に市社会福祉総合センターが建設されたのを機に、その中に別館をオープン、併せて本館を改築し利用者のニーズに応えています。

施　設　の　概　要

【開設年月日】　昭和56年12月1日
・別館オープン　平成元年6月1日

【敷地面積】　2,326.2㎡
【建築面積】　1,645.9㎡
【建物延面積】　3,047.6㎡
【別館専用面積】　322.0㎡
【構　　造】　鉄筋コンクリート造
地下一部1階、地上2階建

【交通機関】
・地下鉄東西線　西18丁目駅下車1番出口
(徒歩1分)
・市バス西58番　北5条線　長生園行
長生園下車

ご利用方法

申込方法……①使用日の属する月の2ヶ月前の初日から申し込みできるもの
下記②以外で、ホール及び研修室等を使用するもの。
②使用日の属する月の3ヶ月前の初日から申し込みできるもの。
婦人のために行う催し物で、次に掲げるものを原則とし、かつ、ホール及びこれに付随して必要な研修室などを利用する場合。
・公共団体及び公共団体的団体が主催するもの。
・市が共催または後援するもの。

受付時間……平日は午前8時45分から午後5時15分まで、土曜日は午前8時45分から午後1時まで、窓口で直接お申し込み下さい。
・電話での予約は、初日は午後1時から、予約日を含めて3日以内に、申込書に使用料を添えて手続きをして下さい。(印鑑持参)
＊申込受付の初日が、日曜日、祝日及び休館日の場合は翌日。

使用時間……午前9時から午後9時まで。(日曜日、祝日も利用できます。)

休 館 日……12月29日から1月3日まで

【主要施設】

ホール（500人収容）、第１～４研修室、第１～４和室、フィットネスルーム、音楽室兼視聴覚室、料理実習室、小集会コーナー、ボランテイア・ビューロー、幼児室、印刷コーナー、シャワー室

＜別館＞工芸室、洋和裁室、サークル活動室ＡＢ、ＬＬ研修室

事　業　紹　介

１．センターだより〝せんのき〟の発行

（年４回　各5,000部）

２．各種講座

●婦人通信講座

種々の事情から、外出が困難な人、昼間は働いていて講座の受講が無理な人にも、家庭に居ながらにして、時間的に制約されず気軽に学習できる機会を通信という形で実施しています。毎年女性の関心の高いテーマを設定、専門分野の講師による通信文の郵送と、講座が一方通行にならないためのスクーリングを開講しています。

●女性学講座

婦人の学習、知識の向上を図るために、様々な内容（ティータイムサロン、見学会、レディースワープロ等）を行っています。

特に昭和59年度から行っているティータイムサロンは、毎年異なるテーマを取り上げ、

色々な角度から女性の生き方、婦人問題について考える機会を提供し、今までの講演会形式から、お茶を傾けながら質疑応答を行うサロン形式を取り入れ、参加者と共につくる講座を目指し好評を得ています。また、残念ながら参加できなかった人に内容を伝えるための小冊子を作成、これまでに６冊を発行しています。

●料理講座

単に料理を作るだけでなく、「食文化」について多面的に取り上げ、これまでに国際交流の立場から外国の家庭料理を様々な国の方に紹介してもらったり、ホテル料理長、専門店主によるプロの味の紹介等を行っています。家庭生活の中から切り離すことのできない「食」については常に関心が高く、毎回多くの婦人の参加でにぎわっています。

●講演会

各界で活躍中の講師を道内外から招き、女性にかかわる問題を中心に、毎回新鮮な話題を幅広く提供しています。

●スポーツ講座

健康の増進のため、運動が苦手の人、運動不足気味と日頃感じている方々を対象に、気軽に参加し汗を流してもらえるように様々なスポーツを取り上げ、全10回コースで実施しています。

●母と子のあそびの学校

昭和54年グループ・ワーク協会の時から開始した講座をセンターオープンに伴い、昭和57年２月から行っています。現代社会の中で忘れられかけている「あそび」について今一度ふり返ることで、親と子のふれあいを見つめ直すと共に、望ましい親子関係について学ぶ講座であり、体験研修を通じて子どもの集団性及び協調性を養っていくことを目的とした、母親に対する研修会です。(季節にあわせ、母と子の一泊雪のあそび、野外キャンプ、クリスマスを開講)

●レディース・ワープロ講座

当初女性学講座の一環として実施していましたが、ＯＡ機器の普及に伴いワープロに対する関心が高まってきたこと、別館の共有室としてＯＡ研修室が平成元年度オープンしたことにより、女性のためのワープロ講座を年２回行うことになりました。毎回定員を上回る参加希望者のため抽選にて受付をしています。

●ＬＬ研修会

昭和47年の冬季オリンピックを契機として、わが街札幌では国際化に拍車がかかり、多くの外国人が居住、往来する国際都市として成長しました。その一方で女性の語学学習に対する関心が広がりつつあると共に、再就職、社会参加への積極的な働きかけから「話し方」についても見直されるようになりました。これらのニーズに応えるべく、平成元年度のＬＬ研修室の完成と同時に講座が始められました。

３．ふれあい

●コンサート

クラシックコンサートは、ちょっと苦手という方や、小さな子どもにも音楽に親しんでもらえるようにと年２回実施しています。毎回数多くの親子連れが参加し、わかりやすい曲目の解説や直接楽器に触れるなど楽しい雰囲気に包まれています。

●開館記念行事

12月１日の開館記念日に併せて、例年講演会、コンサート、映画鑑賞会等を実施しています。

4 .婦人相談

●定例相談

毎週２回、婦人の悩みごと一般に関する相談を電話・面接にて婦人相談員が受けています。

●特別相談

婦人週間、開館記念に併せて婦人の悩みごと法律に関する相談を電話・面接にて婦人相談員、弁護士が受けています。

5．婦人団体リーダー研修

婦人団体、サークル、ＰＴＡ、町内会婦人部等に属して活動を続けている方々を対象に、内容別に年３回研修会を行っています。

●レクリエーション研修会

「レクリエーション」が地域社会、職場、学校等集団活動の場において、欠くことのできない実技になりつつある今日、単なる「気晴らし」「暇つぶし」的なとらえ方ではなく、本来的意味を知るとともに、実践に即した実技指導についても学べるようなプログラムで行っています。

●広報担当者研修会

広報活動のあり方、情報の利用法等の理論を学ぶとともに、チラシ、ポスター、広報紙の作り方等の実技についてプロから指導してもらっています。

●婦人リーダー研修会

婦人団体、サークル等のリーダー及びグループ活動を望む方々に視野を広くもっていただけるように、国内外の動きをいち早く、生きた情報として提供すると共に、お互いの情報交換の場として活用いただける内容で行っています。

6．ボランティア

●ボランティア・スクール

このスクールは地域、施設等でボランティア活動を実践してみたいと考えている婦人のための研修の場として、昭和50年に開講しました。56年のセンターオープンに伴い、この事業が当協会に委託され満15年、通算30期を終えました。

この15年間に延べ838名の方が修了しましたが、各期の修了生が自主的にサークルを結成し、それぞれが地域、施設等の様々な分野で活動しています。

スクール方式は、受講生の主体的な参加意

識を喚起するため、グループ討議、グループ研究を大きな柱とし、基礎講義のほかに宿泊研修、街頭演習など変化に富む内容で、全9回にわたり実施しています。

●ボランティア機関紙〝ぬくもり〟の発行

（年4回、各5,000部発行）

●ボランティア・ビューロー研修会

現在ボランティア活動をしている婦人はもちろんのこと、これから活動を始めたいと思っている婦人まで幅広く対象を広げ、内容は高齢化社会、地域問題、健康問題等社会的に関心の高いテーマを取り上げ研修すると共に、車イスの操作方法、老人介護方法等の実技研修も行っています。

また今後のボランティア活動の参考とするため、ボランティアの情報あるいは個人、サークルの方が活動していく上での問題点を出し、活動の方向性等について話し合うための意見交換会を開催しています。

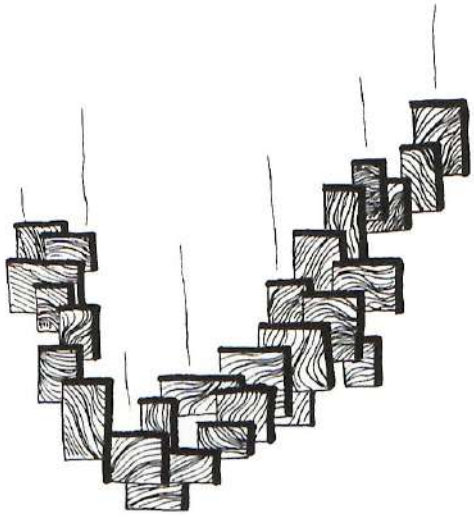
●登録啓発及び調整

札幌市青少年婦人部に設置されていた婦人ボランティアコーナーをボランティアビューローと改称し、婦人ボランティアの窓口として当センターへ移設しました。

その中で個人ボランティアの登録を行い、施設、公的事業、個人のボランティア要請に対する連絡調整を行っているほか、センター主催事業の託児ボランティアの登録も実施しています。

7．北1条文化ゾーンフェスティバル参加

（昭和62年度より参加）



札幌市婦人文化センター資料

〈貸室状況〉

室名＼年度	昭和56年	昭和57年	昭和58年	昭和59年	昭和60年	昭和61年	昭和62年	昭和63年	平成元年	計
ホール	16,297	68,613	60,799	64,257	66,846	63,783	64,649	56,120	39,581	500,945
第1研修室	7,769	34,255	36,030	33,284	34,331	36,132	35,593	33,629	21,713	272,736
第2研修室	6,157	22,469	20,327	22,366	22,641	21,582	20,042	17,562	12,631	165,777
第3研修室	3,067	11,824	11,113	13,576	11,782	12,208	11,439	11,743	7,529	94,281
第4研修室									2,193	2,193
第1和室	3,171	11,858	11,301	10,667	10,764	10,233	10,017	9,192	6,036	83,239
第2和室	3,253	12,253	11,794	12,071	12,667	10,446	10,620	10,292	7,680	91,076
第3和室									1,740	1,740
第4和室									1,579	1,579
サークル活動室A									4,322	4,322
サークル活動室B									2,816	2,816
洋和裁室	1,402	6,813	6,058	5,729	6,792	7,975	7,823	7,000	4,590	54,182
実技研修室	2,435	9,845	9,474	9,525	10,023	10,789	9,796	9,681	6,633	78,201
フィットネス・ルーム									1,360	1,360
音楽室兼視聴覚室	3,430	18,134	19,961	17,352	19,729	19,189	17,595	16,796	11,775	143,961
L.L研修室									639	639
料理実習室	1,848	9,368	10,277	14,439	13,235	12,974	12,456	12,518	9,227	96,342
総計	48,829	205,432	197,134	203,266	208,810	205,311	200,030	184,533	142,044	1,595,389
幼児室	820	3,428	2,628	2,786	2,955	3,074	3,316	3,264	2,365	24,636

〈事業の内容及び参加者数〉

(1) 婦人通信講座

年度	内容	参加者
S57	健康で楽しい小学校生活を送るために	66
58	健康で楽しい中学校生活を送るために	65
59	健康で楽しい小学校生活を送るために	54
60	すてきな夫婦をめざすあなたに	124
61	すてきな夫婦をめざすあなたに	63
62	ほどよく"自分色"に生きたいあなたへ	経済41 医学85
63	素敵なライフプランを考えるあなたに	136
H1	21世紀に向けた女性のライフスタイル	109

(2) 料理講座

年度	参加者	年度	参加者
56	384	60	1,027
57	1,117	61	1,047
58	1,128	62	1,125
59	1,132	63	1,122
		H1	765

〈主な内容〉

・材料シリーズ（魚貝編、山菜編）
・外国の家庭料理(ドイツ、イタリア、ロシア etc)

(3) 女性学講座「ティータイムサロン」

年度	内容	参加者
S59	「札幌に暮らした女」PART1～3	127
60	「男のこころの内と外」PART1～3	183
61	「男から女へのひとこと」PART1～3	186
62	「あなた夫婦してますか」PART1～3	179
63	「今さっぽろに暮らして」	
	・中国と日本の女性について	63
	・私の目で見た、日本の子供	57
	・私の感じた、家庭生活の違い	55
	・私の見た、家族関係	60
	・日本人社会のつきあい方	63
H1	「あなた自立してますか」	
	・男からみた女の自立	57
	・女が働くとき	57
	・諸外国に見る女の自立	57

・郷土料理の紹介（北海道、秋田）
・料理長が贈る、ちょっと豪華なおもてなし
・春に贈る、おもてなし～壊石料理～
・クリスマスケーキを手作りで
・家庭でできる、パンづくり
・手作りデザートに親子で挑戦！
・ホームカクテルのつどい　　ほか

(4) 講演会

年度	テーマ	講師	参加者
S56	くらしの中の詩心	NHKチーフアナウンサー 中西 龍氏	208
	童話とわたくしたち	童話作家 長野 京子氏	47
57	婦人が見た、カナダ・アメリカ滞在記	川島 利子氏	139
	生きがいについて	脚本家 倉本 聡氏	309
	主婦の持つそろばん	生活評論家 青木 淑子氏	220
58	私の職業～テレビ・人・ふれあい～	アナウンサー 小川 宏氏	300
	これからの女性の生き方	アナウンサー・評論家 木元 教子氏	497
59	素敵な暮らしをあなたに	家事評論家 吉沢 久子氏	441
	現代への挑戦	経済評論家 邱 永漢氏	300
60	明日に生きる女性たち	日本経済新聞社記者 藤原 房子氏	300
	逢えて、よかった	女優 浜 美枝氏	800
61	本音でトーク	文筆家 神津カンナ氏	589
	くらしの中のことば	作家 平岩 弓枝氏	650
	人生をどん欲に生きよう	女優・声優 大山のぶ代氏	730
62	風は女から吹く	エッセイスト 下重 暁子氏	520
	出逢い、めぐり逢い	プロデューサー 石井ふく子氏	700
	落語の中の子育て論	落語家 三遊亭金馬氏	150
63	私たちの長いいのちのために	作家 重兼 芳子氏	430
	ふれあい	エッセイスト 藤本統紀子氏	600
	科学のこころと女性のこころ	NHKチーフアナウンサー 山川 静夫氏	500
H1	人間さまざま出会い旅	NHKチーフアナウンサー 吉川 精一	420
	テレビドラマと私	脚本家 寺内 小春氏	350

※開館記念行事事業含む。

(5) スポーツ講座

年度	参加者	年度	参加者	年度	参加者
56	110	59	215	62	188
57	210	60	215	63	162
58	210	61	203	H1	196

(56～58年度までは名称が健康講座)

〈主な内容〉

・エアロビクス・ジャズダンス・インドアテニス
・ストレッチ・バドミントン・太極拳・ヨガ

(6) コンサート

年度	参加者	年度	参加者	年度	参加者
56	92	59	824	62	400
57	209	60	1,100	63	780
58	520	61	660	H1	640

※開館記念行事事業含む

(7) 母と子のあそびの学校（年3回）

年度	野外キャンプ	クリスマス	一泊雪のあそび
S56			55
57	92	73	49
58	88	64	74
59	88	66	79
60	85	79	78
61	77	71	85
62	92	69	48
63	92	68	83
H1	82	68	55

(8) 婦人団体リーダー研修（延参加人数）

年度	レクリエーション研修	リーダー研修	広報担当者研修
S57	115名	43名	94名
58	123名	50名	75名
59	139名	45名	84名
60	146名	46名	127名
61	141名	43名	110名
62	100名	50名	144名
63	85名	33名	104名
H1	169名	41名	

(9) ボランティアスクール修了生人数（年2回）

（協会委託分のみ）

年度	期	参加者	年度	期	参加者	年度	期	参加者
S54	I		58	I	22	62	I	27
	II	19		II	22		II	13
55	I	27	59	I	29	63	I	39
	II	13		II	29		II	25
56	I	26	60	I	37	H1	I	38
	II	27		II	28		II	23
57	I	28	61	I	36			
	II	38		II	30			

(10) ボランティア・ビューロー研修会

年度	参加者	年度	参加者	年度	参加者
56	297	59	432	62	253
57	184	60	291	63	126
58	244	61	258	H1	33

〈主な内容〉

・地域社会と婦人ボランティア活動
・共同募金を学ぶ　・子供の問題を考える
・高齢化社会とボランティア活動
・社会福祉施設とわたしたち
・ホスピス・ケアを考える
・婦人ボランティア・スクール修了生のつどい

（いずれも昭和56年度は12月～3月、平成元年度は12月までの数字です）

札幌市青少年婦人活動協会が運営する施設③

札幌市こどもの劇場

やまびこ座

札幌市東区北27条東15丁目　Tel 723－5911

札幌市こども人形劇場

こぐま座

札幌市中央区中島公園1番1号　Tel 512－6886

札幌市こどもの劇場やまびこ座とこども人形劇場こぐま座は、全国的にも珍しい、「子どものための」人形劇や児童演劇などを上演するための専用施設です。毎週土曜日、日曜日や祝祭日のほか、小学校などの夏、冬、春休みなどにも人形劇や児童演劇、紙芝居、腹話術などの上演を行い、たくさんの子どもたちや親子連れの観客に楽しまれています。

また、上演をしてくれる「子どものためのお芝居」をつくっている団体などを育成、援助することも大きな目的の１つです。

全国的にも例のない専門劇場を２つも持つ札幌市は、日本中から注目されており、その運営を受け持つ協会への期待と責任は大きいものがあります。

施設の概要：やまびこ座

【開設年月日】昭和63年８月６日
【敷地面積】4,500㎡
【建築面積】1,495㎡
【構　　造】鉄筋コンクリート造
地下１階、地上一部２階建

【交通機関】
・地下鉄東豊線　元町駅下車２番出口350㍍（徒歩５分）
・市バス東70番　元町駅前下車500㍍（徒歩８分）

【主要施設】
ホール（300人収容）、楽屋２、美術工作室、研修室、会議室、図書展示コーナー、テラスルーム、ロビー、野外円形ステージ、駐車場（40台収容）

施設の概要：こぐま座

【開設年月日】昭和51年７月24日
【建築面積】137.17㎡
【構　　造】木造モルタル造１階建
【交通機関】
・地下鉄南北線　中島公園駅下車200㍍（徒歩３分）

【主要施設】
ホール（90人収容）、楽屋

主な事業紹介

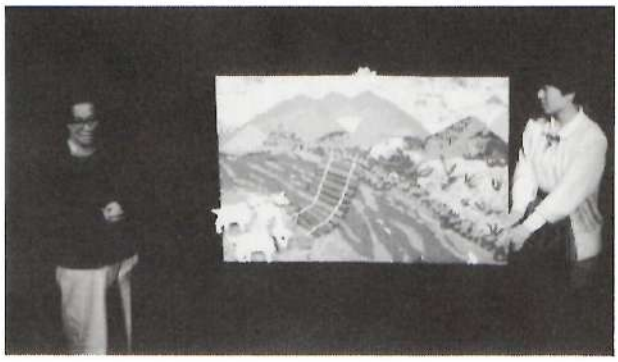
1．公　演

●一般公演

ここでいうところの一般公演は劇場が主催しているわけではありませんが、上演団体と協力して、原則的に毎週土・日曜日、祝祭日の公演を企画・実施しているものです。上演団体の希望によってはウィークディーにも実施することもあります。

夏・冬・春休み特別公演時には曜日に関わらず公演を行っています。(ただし、仕込、舞台準備の時を除く)

やまびこ座では人形劇、児童演劇、紙芝居、腹話術の公演を、こぐま座では人形劇、紙芝居、腹話術の公演を行います。



① 公演を行う主な人形劇団体……札幌人形劇協議会に加盟している社会人・母親・学生人形劇団、道内外のアマチュア人形劇団体、道外の職業的な人形劇団、海外からの人形劇団、小中学生による人形劇団体、ほか

② 公演を行う主な児童演劇団体……北海道演劇集団札幌ブロックに加盟している演劇団体、市内のアマチュア演劇団体、市内の職業的児童劇団体、道外の職業的演劇団体、小中学生による演劇団体、ほか

③ 公演を行うその他の団体……腹話術愛好者、紙芝居愛好者、手品・奇術愛好者、猿まわし、など

●札幌人形劇祭

札幌人形劇協議会と共催で、毎年秋に人形劇のコンクールを行っています。この催しは、札幌市内を中心に活動している人形劇団体の交流と、質の向上を目指して毎年続けられているもので、厳しい批評や自己研鑽の場となっています。

●オープン記念フェスティバル

毎年夏休みは、こぐま座とやまびこ座のオープンを記念して、人形劇を中心にした記念フェスティバルがおこなわれます。道内外の人形劇団も参加をし、海外からも人形劇のお客様を招いて、多彩な上演活動がくり広げられます。また、やまびこ座前広場を利用した出店や盆踊りなど、お祭りムードいっぱいの催しです。

●児童演劇〝親子劇場〟

北海道演劇集団札幌ブロック加盟の劇団との共催で、行う催しで、4～5劇団が参加して、児童演劇を競演します。昨年度まではこぐま座とやまびこ座の両方で開催していましたが、平成2年度からは、会場をやまびこ座に絞って開催します。

2．講座、セミナーなど

●初心者のための人形劇講座

毎年春に昼の部と夜の部の2部制にわけた人形劇の講座を開催しています。この講座は初心者を対象に、増大しつつあるさまざまなところでの人形劇を学びたいという方々に応えるだけでなく、人形劇の基礎から上演までを学び、これからの人形劇の担い手を発掘することがねらいの1つです。

●お母さんのための劇あそび講座

劇あそびは演劇の手法の1つで、日常性の中のドラマ的要素を出発点に、身近なところに非日常の世界をつくりあげようとするもので、演劇を経験したことがない方でも抵抗感なく取り組めます。

●手づくり紙芝居講座（講習会）

紙芝居はすそ野が広い素材で、幼児が初めて体験するドラマとして重要です。その紙芝居を手づくりで創作したり、演じ方などを学べます。

●手づくり影絵講座

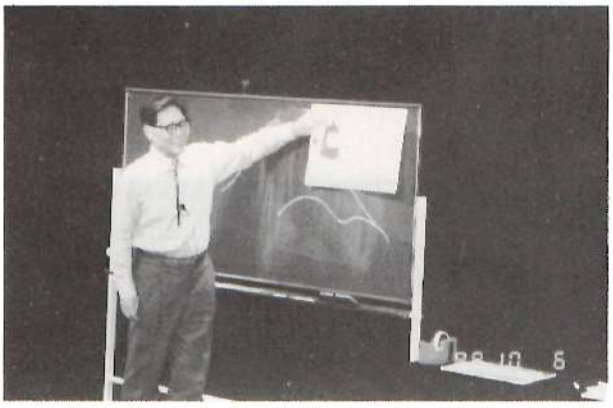
影絵は人形劇の中でも特殊な技法や素材を使いますので、今までは、その普及が遅れていましたが、ＯＨＰなどの機器が身近にあるようになったことで、その可能性が広がりつつあります。

●手づくり絵本講習会

絵本は一見つくるのが難しく感じられますが、製本と絵の描き方の基本を学ぶことによって、誰にでも楽しくつくることができます。

●こどもの文化セミナー

子どものための文化はさまざまで、それぞれが分野別に分かれており、その全体像や、最近の動きを捕まえることが難しいものです。その全体像を捕まえてもらい、今後の活動に役立ててもらおうとする、講義中心のセミナーです。



●展　示

常設展示として、文楽人形や、海外の姉妹都市から贈られた人形等を展示しているほかに、企画展示としては、人形劇の人形や、歴史的に貴重な紙芝居、手づくり絵本などの展示を行っています。

3　子ども向け事業

●風雲やまびこ城

子どもにとって集団遊びの必要性は言を待たないところですが、その機会は年々少なくなる一方です。この事業では、ごっこ遊びや劇あそびの手法を導入して、集団で遊ぶ楽しさを知ってもらうと同時に、演劇的表現の楽しさも味わってもらおうとするものです。

●わいわい劇場

やまびこ座のホールを利用して子どもたちによる劇を劇あそびの手法でつくっています。

●工作会

簡単につくれる人形や、道具を使って、劇への導入としています。「あっというまに人形劇」など。

●読み聞かせの会

毎週火・金曜日の午後3時30分から絵本や紙芝居の読み聞かせを行っています。月1回のスライドお話会も始めました。

●図書・紙芝居等の貸出

毎週火・金曜日にはやまびこ座にある2,500冊の図書と500冊の紙芝居の貸出をしています。

4　広報・宣伝活動

●こどもの劇場通信

毎月１回、大人向けで、8,000部発行：劇場の事業案内や参考記事など。

●公演スケジュール

毎月１回、12,000部発行：やまびこ座とこぐま座の公演スケジュール表と内容説明。

●ヤッホー通信

毎月１回、4,000部発行。小学生向け：子ども向け行事の案内。

●講義録などの編集

セミナーや講座の講義をまとめた年報風のもの。年１回、500部発行。

5　サービス業務

札幌市内にとどまらず全道的に、子どもの文化関係の情報や指導者は不足しており、サービスの一環として次のような業務も行っています。

- 人形劇、児童演劇活動などに対する相談業務
- 人形劇活動に対する指導業務
- 子どもの文化全般にわたる情報の提供
- 子どものための公演の紹介および仲介業務

ご利用方法

＜やまびこ座＞

申込方法……ホールは使用月の３ヶ月前。その他の施設は２ヶ月前から受付ます。劇場窓口にある申請書で申し込み下さい。

（印鑑が必要です。）

受付時間……午前８時45分から午後５時15分まで

使用時間……午前９時から午後10時まで

休 館 日……毎週月曜日（祝日の場合は翌日）と年末年始。学校等の長期休暇の場合は、開館する場合もございます。

＜こぐま座＞

申込が２ヶ月前のほかはやまびこ座と同じです。

こどもの劇場やまびこ座・こども人形劇場こぐま座資料

こどもの劇場やまびこ座　ホール利用状況

(昭和63年8月6日～平成2年1月31日)

区分 / 年度	上演回数	上演日数	仕込・リハ 研修日等	出演者等 利用総数	観客数	総利用者数	観客数/st	備考
昭和63	134st	77日	68日	1,084人	17,467人	18,551人	130.4人	8/6～
平成元	149	97	88	2,707	16,598	19,305	111.4	～1月末

〈室別利用率〉

区分 / 年度	ホール	美術・工作室	研修室	会議室	平均
昭和63	45.0%	26.4%	29.7%	22.8%	31.0%
平成元	49.7%	32.7%	35.6%	22.7%	35.2%

※　やまびこ座は開館して日が浅いために、1年間を通しての利用統計は出すことができません。ご了承下さい。

〈活動内容別利用状況〉

区分 / 年度	人形劇	児童劇	講座	その他	合計
昭和63	437件	65件	41件	170件	713件
(率)	62.3%	9.1%	5.8%	23.8%	
平成元	650件	168件	73件	157件	1,048件
(率)	62.0%	16.0%	7.0%	15.0%	

※その他には子ども向け行事や各種団体による利用を含みます。

〈各種講座行事の参加者数調べ〉

講座の名称	回数	昭和63年度		平成元年度	
		定員	参加者	定員	参加者
初心者のための人形劇講座	12回　(午前)	30人	春 19人 秋 20人	40人	44名
お母さんのための劇あそび講座	12回　(午前)	20人	8人	20人	12人
手づくり紙芝居教室	8回　(夜間)	40人	35人	3月実施予定	
手づくり絵本講習会	1回　(祝日)	50人	48人	50人	47人
こどもの文化セミナー	4回　(夜間)			60人	60人
風雲やまびこ城	63年度1回 元年度3回 (午後)	50人	50人	計 150人	150人
人形劇講座夜間コース(こぐま座)	12回　(夜間)	20人	13人	20人	17人
手づくり影絵講座(こぐま座)	3回　(夜間)			30人	29人
人形劇セミナー(手遣い人形)	1回　(日中)			12人	12人

※　こぐま座としてあるもの以外は、こどもの劇場やまびこ座で実施しているものです。

こども人形劇場こぐま座 利用状況

（昭和51年7月24日～平成元年12月31日）

区分 年度	上演回数	上演日数	仕込・リハ 研修日等	出演者等 利用総数	観客数	総利用者数	観客数/st	備考
昭和51	161st	103日	76日	4,795人	17,141人	21,936人	106.5人	7/24～
52	226	132	122	6,885	19,357	26,242	85.7	
53	225	136	215	7,880	18,467	26,347	82.1	
54	226	136	192	7,243	17,004	24,247	75.2	
55	228	129	228	7,547	16,496	24,043	72.4	
56	215	125	230	6,773	17,528	24,301	81.4	
57	228	134	232	6,325	16,299	22,624	71.5	
58	219	134	270	7,325	18,464	25,789	84.3	
59	239	144	242	6,069	17,577	23,646	73.5	
60	233	139	335	6,518	18,636	25,154	80.0	
61	239	139	324	7,138	17,510	24,648	73.3	
62	239	140	344	8,105	16,510	24,615	69.1	
63	195	123	313	5,164	12,275	17,439	62.9	
平成元	166	93	236	3,884	10,853	14,737	65.4	～12月末

※　昭和62年度以前は札幌市の運営、63年度以降は活動協会の運営。
　　こぐま座は上演及び仕込、練習やそれに伴う会議等以外には使用していません。

札幌市青少年婦人活動協会が運営している施設④

児　童　会　館

市内各地に11館あります

札幌市の児童会館は、幼児から高校生までの子どもたちのために建てられた遊びのお城です。文化や体育などの集団による活動を通じて、豊かな情操と個性を培い、社会人としての基礎を身につけられることを願って、札幌市が地域に建設しています。そこでは、施設(建物)、職員、地域住民が協力をして子どもたちに対し有効な援助活動を行うことをねらいとしています。札幌市内には60ヵ所近くの児童会館が建てられており、その数は今後も増え続けていきます。

当協会では、札幌市の児童会館の設置目的や理念を踏まえ、「明るく楽しい児童会館」を目指して職員一同努力しています。宮の森と太平児童会館を皮切りにして、昭和61年度以降、協会への委託館は増えてきており、現在11館が協会の手で運営されています。

施　設　の　概　要

＜宮の森児童会館＞

【住　　所】札幌市中央区宮の森２条５丁目
【電　　話】641－9710
【開館年月日】昭和60年３月25日
【建築面積】332.44㎡
【会館おすすめ行事】ドッジボール大会、杉の子（お母さんたちによる読み聞かせ）映画会、行くぞ花見、ベーゴマ大会、ごきげんタイム、お泊まり会、元気っ子のつどい、ジャンボ雪遊びランドなど。
【会館の紹介】市内で初めて町内会館と併設で建てられた会館です。その目的は、世代間交流を目指す複合施設として位置づけられます。そうした中、地域で遊ぶ子どもたちが会館利用を通して望ましい交流関係を育てながら、集団の中で自発的で自主的な活動の芽を伸ばすことを一番の目的としているところです。

＜太平児童会館＞

【住　　所】札幌市北区太平８条７丁目
【電　　話】771－6324
【開館年月日】昭和61年２月28日
【建築面積】420.0㎡
【会館おすすめ行事】一輪車の免許をとろう、バドミントン大会、お泊まり会、野外映画会、すもう大会、ドッジボールクラブ、親子タウンラリー、など
【会館の紹介】太平連絡所と併設になっている複合館で、他の単独館に比べると多少小さめです。しかし、玄関から体育室へ続

く通路と遊戯室、そして図書室がワンフロアーになっていて、子どもたちは遊びやすいようです。また、その様子を事務室から見渡すことができるので、子どもたちの動きが把握しやすいのです。良いか悪いか論議を呼びそうなのが図書室で、ブロック式の本棚が設置されているので、おのずと遊び場の雰囲気があり、静かに本を読むには向かないようです。

＜麻生児童会館＞

【住　　所】札幌市北区北39条西５丁目
【電　　話】757－1000
【開館年月日】昭和61年11月１日
【建 築 面 積】384.2㎡
【会館おすすめ行事】どきどきくえっしょん、子ども新聞づくり、あけてびっくり裁縫箱、勤労感謝工作会、クリスマス会、ひなまつり工作会、夏・冬休み工作ランドとスポーツランド、など
【会館の紹介】市内で39番目の児童施設としてオープン。麻生総合センター内にあり、その名のとおり、子どもから大人までの世代を越えた交流ができる施設であり、最近では、子どもとお年寄りの方が一緒に将棋やオセロをしたり、卓球をするなど、ふれあいの輪が広がっています。

＜厚別南児童会館＞

【住　　所】札幌市厚別区厚別南１丁目
【電　　話】894－1710
【開館年月日】昭和62年３月14日
【建 築 面 積】453.0㎡
【会館おすすめ行事】友遊タイム、クッキングメイト、お話広場、天気予想、なわとび記録会、七宝焼、など
【会館の紹介】たぶん、市内一太陽光の降り注ぐ会館。特に遊戯室と図書室は壁が全部ガラス窓。自然の光が人間に一番いいよね。

＜南の沢児童会館＞

【住　　所】札幌市南区南沢４条２丁目
【電　　話】571－2909
【開館年月日】昭和63年３月５日
【建 築 面 積】331.29㎡
【会館おすすめ行事】もちもちパーティー、おかあさんとあそぼう、ガキ大将クラブ、敬老の日もちつき大会とゲートボール大会、親子ハイキング、じゃがいも隊、など
【会館の紹介】緑の自然の中に立つ、おしゃ

れな山小屋風の建物です。事務室と遊戯室の天井にはプロペラファンがついています。夏は扇風機がわりとして子どもたちに愛用されています。

南の沢は文教地区で、幼稚園から大学までが単一町内会にあり、社会教育施設としての児童会館も開設され、恵まれた環境であります。来館される方はお母さんをはじめ、町内会の方々、老人クラブの会員の皆さんとさまざまなコミュニケーションを生んでいます。そんな中で、地域の皆様の暖かい援助をいただきながら、日々、明るく楽しい会館づくりに頑張っています。

＜あけぼの児童会館＞

【住　　所】札幌市手稲区曙９条１丁目
【電　　話】685－4821
【開館年月日】昭和63年３月５日
【建 築 面 積】479.89㎡
【会館おすすめ行事】あけぼの農園づくり～収穫祭、親子ピクニック、ともだち祭り、お泊り会、おもちつき会、トントン工作会、スポーツＧＯＧＯ、お話なーに、人形劇クラブ、パラダイスクラブ、など
【会館の紹介】市内で一番海に近い児童会館で、48番目にオープン。壁の色はマリンブルー、廊下の吹抜けの天井にはカモメのデザインされた窓があります。また、体育室の壁には、オープン行事で子どもたちと一緒に作成したジャンボカモメが張ってあります。あけぼのでは１年生から６年生、あるいは中学生も混じって楽しく遊べ、一人で来た子もすぐ仲良くなれます。

特に〝忍者ごっこ〟は、みんなが夢中になって宝物を見つけたり、お姫様を助け出したり、毎日がにぎやかです。

＜中の島児童会館＞

【住　　所】札幌市豊平区中の島2条3丁目
【電　　話】811－5215
【開館年月日】昭和63年４月６日
【建 築 面 積】466.79㎡
【会館おすすめ行事】手焼せんべい、滝野炊事遠足(福祉センターと合同)、ふれあいはだかんぼう、オリジナル体力測定、など
【会館の紹介】中の島は、精進川と豊平川の中州であり、明治時代には〝中河原〟、大正時代には〝中島〟と呼ばれていたそうです。児童会館は、豊平老人福祉センターとの複合館としてオープンしました。お年寄りと子どもの施設ということもあり、年に５、６回の合同行事を行っています。特に６月には、炊事遠足ということで、お年寄りと一緒にカレーライスを作り楽しい一日を過ごします。また９月には敬老の日にちなみ、一緒にお風呂に入り互いに背中を流し合ったりもします。当館ではオープンと同時に、中の島小学校内に設置されていた育成会(留守家庭児童会）が、児童クラブとして移設となり、多数の子どもたちが在籍しています。

＜丘珠たから児童会館＞

【住　　所】札幌市東区北35条東23丁目
【電　　話】784－8095
【開館年月日】平成元年２月18日
【建 築 面 積】475.25㎡
【会館おすすめ行事】わくわく工作ばたけ、クッキングあらかると、たからっ子集まれ、お話の時間ですよ、たから場所すもう大会、ドッジボール・バスケットボールタイム、なわとび個人記録会、など
【会館の紹介】市内で56番目の会館としてオープン。とても明るく広い児童会館で、事務室から全ての部屋が見え、子どもたちの様子がよくわかるようになっています。特に遊戯室は体育室の３分の２の広さがあり、多目的に使うことができます。また、玄関前に大きな松の木があり、玄関上の太陽をイメージしたマークと合わせ、自然がいっぱいの会館になっています。

＜栄西児童会館＞

【住　　所】札幌市東区北46条東５丁目
【電　　話】752－8363
【開館年月日】平成２年１月19日
【建 築 面 積】483.16㎡
【会館おすすめ行事】この指とまれ、えほんの森、うきうきわんぱく隊、スポーツラリー、みてみてビデオタイム、おもしろクッキング、スポーツ広場、など
【会館の紹介】市内で57番目の会館としてオープン。緑色の三角屋根で、扉や窓枠、内装などパステル調の色が使われた、メルヘンチックな、子どもたちの小さなお城です。

＜厚別東児童会館＞

【住　　所】札幌市厚別区厚別東3条4丁目
【電　　話】897－4425
【開館年月日】平成２年１月20日
【建 築 面 積】484.0㎡
【会館おすすめ行事】作ろう遊ぼう、どんどんチャレンジ、じゃがいも作り～収穫祭、親子で体験、ワクワクおもしろタイム（ごっこ遊びタイム）、低学年お泊り会、など
【会館の紹介】百年記念塔がそびえ立つ野幌森林公園の近くにあり、館内は木の感触あふれる、暖かい感じのする子どものお城です。

＜新川中央児童会館＞

【住　　所】札幌市北区新川３条３丁目
【電　　話】762－8433
【開館年月日】平成２年２月17日
【建 築 面 積】490.93㎡
【会館おすすめ行事】あそびっ子タイム、ワクワクシアター、君もチャレンジ大記録に挑戦、など
【会館の紹介】閑静な住宅街にある真新しい新川中央児童会館は、外観上２階建てを思わせる子どもの大きなお城です。この会館の特徴は、明るく広いプレイルームや体育室などの部屋のほかに、ベランダが設けられていることです。このベランダは紙芝居を読んだり、七夕行事などにも利用できそうで、他の会館に例を見ないチョッピリおしゃれな会館です。

以上が平成元年２月末日現在の、協会受託児童会館です。それぞれに個性的な雰囲気の施設ですので、ぜひ一度お立ち寄り下さい。

次世代を担う子どもたちと、意欲にあふれた主任・指導員が楽しい笑いにみちた会館をご案内いたします。

勤労青少年ホームへの指導員の派遣

〈勤労青少年ホームとは〉

市内に在勤する満15歳から満29歳までの働く青少年の憩いの場です。市内に6つのホームと1つの会館があり、スポーツ、講座やそれぞれの館の特徴を生かした行事などを青少年の手により計画・推進し仲間の輪を広げる場で、〝Let's〟の愛称で親しまれています。

協会の職員がこの7館に2ないし3名派遣され青年の指導に当っています。

- 札幌市中央勤労青少年ホーム
- 札幌市円山勤労青少年ホーム
- 札幌市アカシア勤労青少年ホーム
- 札幌市ポプラ勤労青少年ホーム
- 札幌市豊平勤労青少年ホーム
- 札幌市発寒勤労青少年ホーム
- 札幌市石山青少年会館(平成元年度まで)

〈業務内容〉

職員は各館において、札幌市職員の館長・職員の方のもと次のような業務を行っています。

(1) 利用者の指導及び相談に関すること。
(2) 事業計画のプログラムに関すること。
(3) クラブ・サークルの育成指導に関すること。
(4) 教養講座等事業の進行に関すること。
(5) 新規利用者の育成に関すること。
(6) 利用者連絡会の指導・助言に関すること。
(7) 利用者に関する資料及び研修の資料作成。
(8) ホームだより及び利用者行事に関すること。
(9) ホーム・会館の利用者の指導、育成に必要と思われること。

各ホームにおいてこれら業務を遂行する上では各職員が研修や打ち合せを重ね、青年のニーズを把握しながら、親しみやすく気軽に利用できるホームづくりを目指しています。

〈Let's での事業風景〉

札幌市滝野自然学園

野山の木々、清らかな川のせせらぎ、澄んだ空気…自然の中で動植物の観察や野外スポーツ、レクリエーションなどを通して共同生活のすばらしさを体験することのできる施設で、そうしたものを子供たちに与えたいという人々の願いによってできたものです。

小学校の外、幼稚園、保育園や社会教育団体など多くの子供たちの歓声が一年中響いています。

〈施設の概要〉

【所在地】 札幌市南区滝野106番地 TEL.591-8780

【開設年月日】 昭和46年8月17日

【建築面積】 敷地34,937㎡　建物802.0㎡、木造平屋建

【主要施設】 宿泊室3室、学習室、食堂兼集会室、乾燥室、指導者控室、屋外炊事施設、視聴覚機器、双眼鏡、トランシーバー、歩くスキー、給食設備

【閉園期間】 年末年始（12月29日～1月3日）

【収容人員】 130人

【利用手続】 詳しくは教育委員会青少年教育課野外教育係（TEE.214-4585）へ

〈利用状況〉

年度		55	56	57	58	59	60	61	62	63	元（12月末まで）
学校	学校数（校）	98	97	92	83	78	63	68	59	59	54
	利用者数（人）	12,324	12,039	11,128	10,742	9,360	7,691	6,933	6,060	6,172	5,465
一般	団体数（件）	27	33	18	30	34	37	35	39	50	54
	利用者数（人）	2,661	2,803	2,632	3,728	3,921	3,403	3,882	4,021	4,598	3,468
計（人）		14,985	14,842	13,760	14,470	13,281	11,094	10,815	10,081	10,770	8,933

札幌市天文台

青少年をはじめ多くの市民が気軽に天体観測を楽しめる場を提供し、天体に関する興味と理解を抱かせ、子供たちに宇宙への夢を与え、豊かな創造力を育成することを目的に開設されました。

昼間は訪れた人たちにドームを案内し太陽観望をしたり、また電話での問い合せに応じています。年50日の夜間公開では、星の世界へ来台者を誘う案内役を務めています。

〈施設の概要〉

【所在地】 札幌市中央区南11条西4丁目
中島公園内　TEL.511-9624

【開設年月日】 昭和33年9月1日

【建築面積】 鉄筋コンクリート造　51.26㎡＋

【設　備】 口径20cm屈折赤道儀式望遠鏡（使用倍率40～500倍）を5mドーム内に設置

【開館時間】 午前9時～午後5時（太陽観望は午前10時～12時、午後2時～4時）

【休館日】 毎週月曜日の午後、毎週火曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）

〈利用状況〉

年度	56	57	58	59	60	61	62	63	元（12月末まで）
昼間利用数（人）	4,991	4,003	3,384	2,677	4,166	3,137	4,510	3,552	3,669
夜間利用数（人）	1,141	1,509	994	1,805	1,633	1,013	990	2,773	1,155
電話問合数（件）	1,930	1,408	1,304	1,076	1,226	706	735	949	699

協会によせられた たくさんのメッセージ

はげましの 声
おしかりの 声
そして期待の 声…

協会の10年間の発展は、職員が札幌市民や札幌市の期待に応えようとがんばっただけでなく、協会を導いてくださった役員の方々、札幌市、また協会で人生の一時期を過ごされた旧職員の方々のおかげでもあります。

10周年にあたり、そうした皆様から記念の文章をいただきました。昔の思い出話、苦労話、協会に対する期待や激励など、たくさんの方々の思いが集まりました。

新たな第一歩を踏み出そうとしている私たちにとりまして、その一つひとつが大切な財産です。きっとこれからへの指針となっていくでしょう。一人ひとりが協会に寄せてくださった思いを噛みしめ、新しい歴史をつくっていかなければと、決意を新たにしております。

なお、文中の敬称は略させていただきました。紹介させていただく順番は、年代順になっております。また、現在のご職業はご本人記入のままお載せしました。

協会を応援してくれる方々からのメッセージ

（役員・講師など）

昭和55年11月から１年間理事長を仰せつかりましたが、暗中模索のうちに諸般の論議の上、どうやら舵とり役を勤めさせて頂きました。今10年を迎えるというご連絡を頂き感無量のものがあります。

これからも社会情勢の変化に応じて、協会もその対応に色々とご苦労も多いかと思いますが、その設立の趣旨にのっとり、更に躍進されますよう念じております。

（昭和55年11月～56年10月・理事長）当時札幌市助役

（会社役員）**河崎和夫**

MASSAGE

協会設立以来もう10年になりますか、月日の経つのは早いものです。

設立に向けて、また設立以降協会のためにいささかのお力添えができたことを誇らしく、またなつかしく思い起こしております。

燃える思いを失わずに、協会がますます発展し、そして多くの札幌市民と共に21世紀に向けて歩んで下さい。

（昭和55年4月～56年8月・副理事長）当時札幌市民局長

（昭和56年11～57年10月・理事長）　**加藤利昭**

MASSAGE

協会の10周年まことにおめでとうございます。私が市民局長として同協会の副理事長をさせて戴きましたのは、昭和57年と58年の２ヶ年に過ぎませんが、今更ながら当時のスタッフの皆さんが大変意欲的に仕事に取り組まれていたことを印象深く想い出します。既にメンバーも90名余となり活動範囲も飛躍的に増大したことと思いますが、どうかこの10周年を機に初心忘れるべからずと言うことでますますの御発展をお祈り致します。また皆様の御健勝と御多幸も併せてお祈りします。

（昭和57年5月～59年1月・副理事長）当時札幌市民局長

（札幌市スポーツ振興事業団理事長）**金子　力**

会の魅力は「若さ」です。いつまでも柔軟であってほしいと願っています。

（昭和60年7月～62年6月・副理事長）当時札幌市民局長

朝倉　賢

MASSAGE

日ごろの努力の積み重ねにより、10周年を発展の中で迎えられましたこと、心からお祝い申し上げます。

私は短期間でしたが当協会との係わりの中で、女性の地位向上や社会進出などの婦人問題は、今後に期待されるものがあるにしろ、当協会の皆様方の努力により着実に推進されていると思っております。

しかし、青少年の非行は、最近、身近に例があって、これは古くて新しい問題と痛感させられました。

今後、当協会のますますの幅広き活動とご発展を期待いたしますと共に、青少年センターの新築が早期に出来ますよう祈念いたしております。

（昭和62年7月～平成元年5月・副理事長）当時札幌市民局長

（団体職員）**森　清**

MASSAGE

長いこと本協会の役員をしている私は職員の皆さんのひたむきなものの考え方（青少年や婦人の倖せ増進という理想に燃えた）や真剣な日常活動に、いつも感心させられている。

私も近くの市直営の新設児童会館の世話をしているが、公務員の規則通りの運営は利用者との接点において、とかくぎごちなさが生じたり、トラブルの原因になったりすることが多い。

10年後における本協会事業の拡大は、このような協会職員の心構えと活動がもたらした結果であると思われる。これからも公務員の直営にふさわしくない事業は、どしどし協会の手に移し事業の効果を挙げていくことが望ましいと考

えている。

（昭和55年4月～現在・理事）

（元札幌商工会議所専務理事）石林　清

MASSAGE

設立10周年おめでとうございます。

貴協会がスタートをいたしましたのは、「国連婦人の十年」の中間年の時期にあたり、国の内外で、女性の社会参加が大きく進展してきた時の流れを思い起こしますと、感慨深いものがあります。年々、婦人文化センターが、本市婦人活動の拠点として、時代の変化に即応した事業の展開と施設の充実が図られておられますことは、大きな喜びです。

次代を担う青少年の健やかな育成と女性の社会活動が一層促進されるために、貴協会の21世紀を見据えた展望にご期待申し上げます。

（昭和56年8月～57年4月・評議員、昭和57年4月～現在・理事）

（札幌市婦人団体連絡協議会会長）上田叔子

MASSAGE

10周年おめでとうございます。わたしはたまーに青少年のグループワーカー養成講座におじゃましますが、そのつど若い男女の皆さんが熱心に受講なさっている姿に打たれます。そしてテレビや街で見かける若者に日本がどうなる事かと、吐息していた私の前に、子どもと共にキャンプやレクや、いもほり等々、健全育成につとめている皆さんを見聞きして、21世紀の日本に安らぎを覚えました。これからも頑張って下さい。

（昭和55年4月～57年3月・評議員、昭和57年4月～現在・理事）

（児童文学者）坪谷京子

MASSAGE

青少年婦人関係の仕事は、その時々にいつも大きな問題と課題があるものです。

関係者はいつの時も、それと真剣に取り組んできました。私は、青少年婦人の行事で興がのりすぎ、左足のアキレス腱を切断しました。その手術あとが、今も残っております。それをみるたびに青少年婦人との懐かしい思い出が次から次へと浮かんでまいります。いずれもさわやかで楽しい思い出ばかりです。当時の若者は殆どリーダーとして、現在活躍をしております。

活動協会の皆さん、これからも頑張って下さい。

（昭和58年6月～60年7月・理事）当時札幌市教育長

（札幌市教育文化財団理事長）遠藤高志

MASSAGE

設立10年おめでとうございます。みなさまのこの間における御苦労は大変なものであったと思います。

21世紀にむけて人間疎外の風潮が強まることが心配されますが、そのようなとき、協会の活動はいっそうその重要性を増すものと考えます。

次の10年におけるさらなる発展のためいっそうの御努力をと願っております。

（昭和55年4月～63年3月・評議員）

（昭和63年4月～現在・理事）

（北海道大学教授）三宅和夫

MASSAGE

生涯学習社会の実現や、青少年の健全育成が私共にとって重要で大きな課題ですが、札幌市青少年婦人活動協会がこの10年に果たして来られた役割は極めて大きなものがあると思います。教育委員会としても、児童会館をはじめ各施設の管理運営業務を委託し、子供たちにとって楽しい場として、友達が出来、夢のふくらむ場としての運営に努力いただいていることに感謝しています。事業の充実と協会のますますの御発展を祈念いたしております。

（昭和63年6月～現在・理事）

（札幌市教育委員会次長）国島峯夫

MASSAGE

10周年おめでとうございます。生き生きとした街づくりのため、貴協会の果たすべき役割はますます重大となりましょう。期待します。

（平成元年6月～現在・監事）

（札幌市財政局長）田中良明

MASSAGE

私は当時市青少年婦人部に在籍していて協会の法人化の掌に当たったものとして、極めて感慨深いものがあります。衷心よりお祝いの拍手をおくります。青少年活動にかける情熱で活動していた佐々木氏を中心に活動していたグループを核に結成され、今日まで札幌の青少年と婦人の活動の発展向上に果たした功績と役割は大きいものです。今後益々、この活動のために協会のいよいよの発展をお祈りいたします。

（昭和55年4月～56年8月・評議員）

当時札幌市民局青少年婦人部長

（札幌市議）関口英一

MASSAGE

私が協会の相馬さん、大築さんと初めてお目にかかったのは、52年、中央区のメダカ会と共に、ドンガバ村に一泊したときでした。その後社会教育部においても、滝野自然学園での生活指導などでお世話になり、そのころ法人化の構想が打ち上げられ、社会教育の分野で、どのくらい委託できるか検討した記憶があります。

当時のご両人をはじめとするスタッフの指導ぶりは、人とのふれあいを基調として、柔軟で、キャラクター、体ごとぶつけていく姿勢であり、圧倒されるとともに、新鮮さを感じたものでした。かまどがいかに大きくなっても、初心を忘れず、世のため人のために頑張って下さい。

（昭和55年4月～11月・評議員）

当時札幌市教育委員会社会教育部長

（会社員）後藤秀郎

MASSAGE

私が関わっていた昭和50年代後半を思い、今日の協会の充実ぶりに感慨一入のものがあります。

時代の要請に応え、協会並びに職員の皆様の更なるご活躍を期待します。

（昭和56年8月～60年3月・評議員）

当時札幌市民局青少年婦人部長

（札幌市職員）村瀬浩氣

MASSAGE

10周年おめでとうございます。10年前私は、青少年連合の副常任委員長をやっていた時かも知れません。いまも北区の代表はやっていますが、青年サークルの現状は20年前あたりから比較すると、かなりきびしいものになっています。ただ、私にとっては、浦田さん、佐々木さん、大築さんなどと知り合えた事は大変良かったと思います。

私も38歳、これからは違った形で皆さんと付き合っていきたいと思います。常に気持ちは青春。

（昭和56年8月～57年5月・評議員）

当時さっぽろ青少年連合副常任委員長

（自営業）竹内幸広

MASSAGE

やさしい心と強い体の子どもに育って欲しい、包容力豊かな婦人に。札幌市の発展にとって一番大切な願いではないでしょうか。

青少年婦人活動協会はそんな願いを実らせる努力を10年間積み重ねて来ました。もうすぐ21Cに向けてラスト・テン・イヤーに入ります。どんどん新しい課題にチャレンジしましょう。私も微力ながらお手伝いさせていただきます。

（昭和57年4月～現在・評議員）

（北星学園女子短期大学教授・札幌市消費者協会会長）

山本順子

MASSAGE

とかく、市政団体活動の、末端に置かれがちであった、青少年、婦人グループに対して、この10年間の細やかであたたかなご配慮、そして苦心の創意、いつもご苦労をお察しいたしておりました。

特に婦人文化センター、児童会館の動きには、目覚ましいものがあったと思います。ただこれらの活動が、一部のみの行事で終わることなく、根を深くすると同時に、幅広く市民すべてに普及し、多数の力で育てていく方向へ伸展させたいものと願っております。終わりに関係者のみなさまに心からお礼を申し上げ、私の微力をお詫びいたします。

（昭和57年4月～現在・評議員）

（児童文学者）長野京子

10周年おめでとうございます。数年前、新1年の母と子の宿泊研修に参加させて頂き、協会の職員の方々の懸命な指導ぶりに驚嘆したことが思い出されます。

こんな素晴らしい職員の方々の結集が協会の発展に大きな力となったことでしょう。

婦人文化センターの開館、こどもの劇場の新設、児童会館の増設等、札幌の発展とともにある協会が、今後とも青少年や婦人のために更に更に大きく活動されますよう心から祈念いたします。

（昭和57年4月～現在・評議員）

江原　摂

MASSAGE

10周年おめでとうございます。青少年が健全に成長するための前途をとりまく困難な問題が山積している今日、貴協会の果たす役割はますます重要となっております。ご活躍を祈念いたします。

（昭和57年5月～59年1月・評議員）当時北区総務部長

（札幌市職員）飯原春夫

MASSAGE

設立10周年の記念誌の出版おめでとうございます。

アウトドア・スポーツに先鞭をつけての青少年育成等々、子供達へ愛と良い想い出を残す活動をされ、また、顧みるに今日「女性の時代」来たるを予期しての、札幌市婦人文化センター・S56年竣工は、女性たちの広場として、名実共に大いに利用。

協会の果たしてきた役割は、貴重な存在です。ますますのご発展をお祈り申し上げお慶び申し上げます。

（昭和57年4月～62年6月・評議員）

当時札幌市母子寡婦福祉連合会会長

高田悦子

MASSAGE

10年たつとは早いものです。札幌市における青少年と婦人のための社会教育活動のメッカとしての豊富な経験をもとに、21世紀に通用する、時代を先取りした市民のための活動を展開していくことを期待しています。弥栄(イヤサカ)！！

（昭和57年4月～現在・評議員）

（北海道工業大学教授）岩井泰夫

MASSAGE

10年一昔と云うが、わずかの間に5倍強に増えたスタッフ、歴代の理事長の努力のおかげです。山や海で一緒に遊んだ子供たちはいつまで経っても想い出を忘れることはないと思います。

今までは基礎固めの時期、今後は充実の時期、活躍を期待します。

（昭和60年7月～62年6月・評議員）

当時教育委員会社会教育部長

（地方公務員）木村隆一

MASSAGE

もう10年もたちましたか……。早いものですね。協会の設立認可やら、何やら生みの仕事をさせていただいた一人として本当に嬉しく思います。

スタッフも大幅に増強され、力強く成長されている協会に心から拍手を送ります。

これを機会に、更にいい仕事を続けてください。

（昭和60年7月～62年6月・評議員）当時白石区総務部長

（札幌市白石区長）稲童丸　修

貴会が創立10周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

10年一昔といいますが、当初10年後の今日を予測された方はおられなかったのではないでしょうか。

当初の仕事の継続に加え、児童会館の運営受託、婦人文化センターの拡充等、事業の拡大充実には目をみはるものがあります。

これからも多様化する時代に直面されることと思いますが、会設立の趣旨を旨とされ、市民のため一層のご努力をいただくよう切望します。貴会の今後ますますのご発展を祈念いたします。

（昭和61年5月～63年5月・評議員）

当時市民局青少年婦人部長

（会社員）金久昌弘

MASSAGE

設立10周年、まことにおめでとうございます。「まちづくり」―それは「人づくり」でもあります。住みやすいまちにするためには、都市基盤の整備は勿論欠かせない要件ですが、まちはそこに住む人びと、一人ひとりが創りあげて行くものでありましょう。

貴協会は、この10年間、グループワークによる人づくりにひたすら取り組まれ、成果を上げて来られました。

特に実践面ばかりではなく、理論面の整理にも努めておられることに深く敬意を表するものであります。

札幌市教育委員会は貴協会に、児童会館数館の運営をお願いしておりますが、この度、その実践と理論を「児童会館の運営」としてまとめられました。

児童会館は児童館と異なり、他都市にない本市独自の施設でありますだけに、この冊子は高く評価されて然るべきものであります。

今後とも、たずさわっておられる業務を通じて、「人づくり」の実践と理論を世に問うて行かれるよう念じて止みません。

ますますの御発展を心からお祈り申し上げます。

（平成元年6月～現在・評議員）

（教育委員会社会教育部長）中辻清矩

青少年の悩みを、豊かな成長に結びつけえない社会は活力を失う。

自発性を尊重し、連帯を培う協会の活動は、学校教育の中で失われつつある感性・友情そして社会性を育ててきた。ゆがみをみせる学校教育に対して、協会の存在と活動は青少年の成長に大きい役割をもつ。

本当の教育とは何か、これからも問題を提起し、考える材料を与えてもらいたい。

青少年指導者養成講座講師

（北星学園大学教授）忍　博次

MASSAGE

青年たちに会っていると、こちらも、同じ年と思っていましたが、私も10歳年を取ったのですネ！

講演に行く楽しみは、目を輝かせる青年たちがいることです。人間、いつも好奇心を持っていたいものです。

青少年指導者養成講座講師

（建築家）倉本龍彦

MASSAGE

10年ひとむかし、昭和から平成に時代は移り、女性の活動はますます活発化していきます。反面青少年の無関心層が厚くなっているともいわれますが、そんな中での協会の今後に熱い声援を送ります。長い道程の一過程としての10周年、真剣に子育てをすることが超高齢化社会をクリヤーすることにつながると思います。協会の活動発展を祈念して。

青少年指導者養成講座講師

（団体役員）高橋謙四郎

MASSAGE

10年と云えば10歳の子供が20歳になったわけですネ。グループワーク協会時代がなつかしく思います。

人間のもっている基本的な、幸福のために、ますますの活動を期待しています。

青少年指導者養成講座講師

（団体職員）中津川欣一

「祖国が諸君のために何ができるかを問うなかれ。諸君こそが祖国のために何ができるかを問いたまえ」―故ジョン・F・ケネデイ米大統領のこの就任演説を、私は青年のころ感銘をもって聞いた。そして、自らの生き方として、この言葉を絶えず念頭にしてきた。いま、私は、21世紀を背負う青少年にこの言葉を贈りたい。未来は君たちのものだ。良くも悪くも若い諸君しだいで決まる。

青少年指導者養成講座講師
（北海道新聞専門委員）**村松良彦**

MASSAGE

『10年ひと昔』というと「昔の人ね」といわれそう。『積もり積もって山となす』といったら「あら借金人生ね」と見られそう。

『石の上にも３年』と話すと「そんな大きな石どこにある」と笑われそう。

しかし、でも、やはり、『継続は力なり』と、あのゲーテさんはいっている。

お芽出とう満10歳！

職員研修講師
（株式会社電通北海道支社・
札幌コピーライターズクラブ会長）**石井　仟**

MASSAGE

札幌市青少年婦人活動協会が設立10周年を迎えられ、青少年、特に幼児の社会性を育てる社会参加の教育に活動なさった協会役職員各位の日頃の御苦労に心から感謝とお祝いを申し上げます。

常盤では幼稚園や保育園に行かない子供たちのため他に例のない「よい子の広場」を開設して戴き、活動協会発足以来御指導戴いて参りました。

子供の年齢を規定せず、親と子が共に多くの仲間と遊び、ふれあいを通じて幼児期から社会性を育てる体験、団体活動と、さまざまなことを学んで居ります。

小学校でもよい子の広場で遊びを体験した子供はすぐ友達が出来ると言われます。自然と親子が共にある幼児教育は将来最も期待される方法と思います。入学前の幼児期に団体活動の体験、遊び仲間との交流、親と子が自然を重視した、この教育活動は、地域でも関心が高くこれからも一層充実して戴きたいと切望して居ります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

札幌青少年婦人活動協会のますますの御発展を御祈念申し上げます。

（石山・常盤地区連合町内会会長）**東　正治**

MASSAGE

10周年おめでとうございます。うちの会員たちが随分とお世話になりまして心から感謝致して居ります。滝野キャンプは勿論のこと、会の行事、療育キャンプ、海水浴のお手伝いをいただき、ダンゼン内容を盛り上げていただく事が出来ました。ニックネームのあの人この人のその後は？と時折想い出されます。社会の一員として素晴らしい活躍をして居られる事と思いますが、今後ともますますの御活躍御発展を祈念いたします。子供たちが頼りにするお兄さんお姉さんです。

（札幌市肢体不自由児者父母の会事務局長）**中野和子**

MASSAGE

札幌市青少年婦人活動協会ならびに職員のみなさま、設立以来10周年のご活躍にお礼とお喜びを申し上げます。

札幌市・全北海道の野外教育活動に果たされた活躍を考えますとき、野外活動に人間教育の道を見い出そうとする私にとって羅針盤としての存在であった皆様に心からの感謝を申し上げる次第です。

（青少年山の家館長）**水上豊後**

MASSAGE

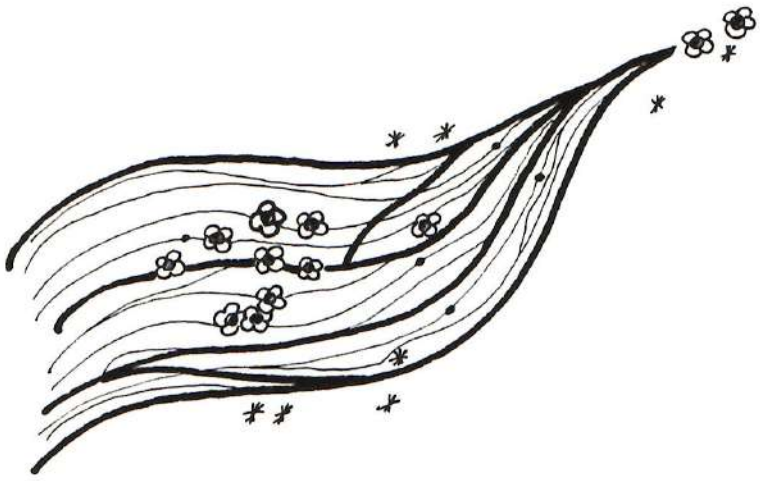
8月実施の「母と子の一泊旅行」では、ニセコ高原で母子家庭の母と子が、日頃少ないふれあいの時間を充実させるためのプログラムを暖かなご配慮で進行して頂き、素晴らしい効果をあげることができましてありがとうございました。

今後は母子寡婦福祉センターの「児童の健全育成」の行事の中で、より一層のご指導を頂きたいと考えております。

来るべき21世紀に向けて「愛ある心」を育むことを中心に活動の輪を広げられますようご祈念申し上げ、貴会の設立10周年のお祝いの言葉にかえさせていただきます。

（札幌市母子寡婦福祉連合会常務理事）**米田直江**

MASSAGE



協会を支えてくれた人たちからのメッセージ（旧職員からのことば）

青少年婦人活動協会の設立、婦人文化センター及び青少年センターの開館準備のお手伝いをさせていただいたことが懐かしく思い出されます。

私にとって協会にいた４年間は、いろいろなことを経験し、多くの人々と心を触れ合うことができ、私の人生経験に非常に有意義な４年間でした。

今後とも、札幌市の青少年婦人のために御活躍されることを祈念しております。

（昭和55年４月～59年５月初代事務局長・
札幌市青少年センター館長・市派遣）
（札幌総合情報センター総務部長）　関堂安司

MASSAGE

活動協会10周年おめでとうございます。私は当協会が発足３ヶ月後に嘱託職員として入会させていただきました。私の職場は札幌市青少年レクリエーションセンターとなり、昭和62年３月31日センターが廃館になるまで約７年間皆様の御指導のもとに務めさせていただきました。

その間センターの事は勿論、いろいろと学ぶことが出来ましたことを厚くお礼申し上げます。現在の協会は80余名の方々が各分野で毎日奮闘努力されております姿は誠に当協会の発展の賜と深く感銘いたすものであります。今後益々のご発展と皆様のご健康をお祈り申し上げます。

（昭和55年７月～63年３月
札幌市青少年レクリエーションセンター勤務）
菅原　清

MASSAGE

協会設立10周年おめでとうございます。ホームでの４年半の生活は一言で言えないですね。あの小さなホームに毎日利用者が繰り広げる人生のドラマが展開されていたものです。多くの人生経験を利用者からも、当時の職員からも受けた私でした。

自分を忘れずに仕事に取り組んで欲しいですね。

（昭和55年10月～57年３月アカシア勤労青少年ホーム勤務）
（事務員）　布施孝枝

MASSAGE

手をつないで溢れる意気と燃える情熱でまぶしい顔が並んでいた発足祝賀パーティーの夜を思い出します。

７年間もご一緒させていただき、豊かな体験に恵まれたこと、心から感謝しています。変化するところと変化しないところとを今後も学ばせていただきたいと願っております。節目を越えた大きな発展に期待しています。

（昭和56年4月～63年3月札幌市婦人文化センター専門員）
（教員）　川島利子

MASSAGE

私が勤務していた頃は、Ｓ53・５～57・２までで、場所はポプラ勤労青少年ホームでした。そのころ協会はまだ出来たてのほやほや。専門職の地位をこれから確立しようと一生懸命でした。あれから10年、このように大きく成長できたことをたいへん嬉しく思い、益々の発展を心より祈ります。

現場の皆さん、日々の交流を大切に一生懸命頑張って下さい。

（昭和56年４月～57年２月ポプラ勤労青少年ホーム勤務）
（会社員）　渡辺（浅野）泰子

協会を辞めてからはや５年、その間、結婚、第一子、第二子の出産を経て、私をとりまく世界もすっかり変わってしまったが、改めて、今尚、協会が私の身近にあることに驚かされます。料理の講習会から親業の勉強、子供が係わるグループ活動まで、様々な場面で協会に行き着きます。その名の通り多岐にわたる活動は、またどんな場所で出会えるかと楽しみでもあります。これから私も子供の成長と共に社会的活動をして行きたいと思います。よろしくご指導お願い致します。

（昭和56年５月～59年３月石山青少年会館勤務）

（主婦）　岸本(松坂)朱美

MASSAGE

協会設立10周年おめでとうございます。この春社会人になった長女が、小学校に入学したときから協会と係わってきました。じゃがいもキャンプに参加したり、ＰＴＡ活動の助言を求めにいったり、また、婦人文化センター開館からは職員として・・・。もう16年にもなるのですね。退職してからはや１年、たまに電話をしても聞こえる声は耳に覚えのない方ばかり。職員が増え組織が大きくなっても、その昔、私が一市民としてお世話になったあの当時の情熱と心のつながりを持ち続けて、ますます発展されることをお祈りいたします。

（昭和56年９月～64年３月札幌市婦人文化センター勤務）

（団体職員）　植田和子

MASSAGE

早いものですね、10年というのは。私が活動協会にお世話になったのが、大学時代の時です。順先生も若く（当時からハゲでした）今よりもっと飛（？）んで歩いていたと思います。私めも卒業、就職、退職と経験し、またまた協会にお世話になり、現在の職につき結婚し、子供が二人出来ました。

この間協会も人数が増え、多方面に仕事を広げて行ったように思います。新聞・ニュースなどで名前が出るときなど、とてもなつかしく思い出されます。

（昭和56年10月～58年９月石山青少年会館勤務）

（郵政職員）　岸本和弘

MASSAGE

協会の設立10周年を心からお祝い申しあげます。

バスセンタービルの１階に産声をあげたのが、つい昨日のような気がいたしますが、この10年間札幌市の青少年、婦人行政の一翼を担って、職員の方々が一体となって頑張ってこられたことに心から敬意を表します。

今後、ますますの御発展を祈って止みません。

（昭和56年11月～62年6月

札幌市婦人文化センター館長・市派遣）

（団体職員）　小野寺奈緒美

MASSAGE

10周年おめでとうございます。在職中、滝野で人の輪の中心になってゲームを始めるまでの、胸のあのドッキンドッキンは一生忘れられません。何回くらい経験したらドキドキしなくなるのだろうと、いつも諸先輩のを拝見しておりました。本当にいろいろな勉強をさせていただきました。

協会のますますのご発展を心からお祈りいたしております。

（昭和56年11月～60年２月札幌市婦人文化センター勤務）

（主婦）　萩原(神山)佐知子

MASSAGE

まもなく10周年を迎えられるとのこと、本当におめでとうございます。婦人文化センターに勤めさせていただいた３年間は、たいへんお世話になりました。開館と同時でしたから、新しい施設で、新しい仲間ととても気持ちよく、楽しく仕事をすることが出来ました。またここで得た出会いや、体験は、今でも私の大切な財産になっています。現在２人の息子の母親ですが、これからは、婦人文化センターや児童会館など、親子で大いに利用させていただこうと思っています。今後のますますのご発展、ご活躍を心からお祈りいたしております。

（昭和56年11月～59年12月札幌市婦人文化センター勤務）

（主婦）　酒井(粟原)潤子

協会設立満10周年を迎えられ、心からお喜び申し上げます。私は発寒勤労青少年ホームに昭和56年から3年間にわたり勤務し、多くの青少年達との交流が私自身にとって、極めて貴重なものであったことを今さらながら痛感しています。また青少年たちも青春時代のかけがえのない体験の場としてホームと共に成長することを願い、自らを大切にし、人間として美しく生きていってもらいたいと思います。こういう厳しい時代ですけれども協会が20年目、30年目と、これからいっそう多彩な活動を展開して下さることを心からお祈りいたします。

（昭和56年12月～59年3月発寒勤労青少年ホーム勤務）

（主婦）　新岡恵子

MASSAGE

協会設立10周年おめでとうございます。きっと、協会は毎日毎日めまぐるしく過ごしているので、10年はアッという間だったに違いないと思います。

私も自分が勤労青少年ホーム（今ではハイカラにLet's ですか？）で働いていたのが遠い昔（確かにもう6～7年も前だから）のことのように感じます。今も時々思い出しますが、たいへん貴重な体験だったと思います。次から次へと若いエネルギーは絶えることなく、20年30年といわず、永遠に続くことと思います。協会もリフレッシュを忘れず、いつまでも頑張って下さい。

（昭和57年2月～59年3月ポプラ勤労青少年ホーム勤務）

（事務員）　斎藤亮子

MASSAGE

この度は協会10周年おめでとうございます。社会に役立つ施設として年々大きく羽ばたかれている様子を拝見し、たいへん嬉しく思います。

私は昭和57年4月より翌年3月までの1年間、勤労青少年ホーム（Let's）の指導員として勤務させていただきました。そのころにはもう新しい友人を求めての利用という方よりも、自分たちの趣味や体育館等の施設利用のためにいらっしゃる方が多かったように思えます。そうした中でも、季節に応じた行事、活動の中で、友達の輪が広がり、本来の目的に向かって進んで行くことが出来たのではないかと思います。

私個人といたしましては、1年間の勤務の中でたくさんの方とお会いする機会をいただき、現在も親しく接しさせていただいている方もおり、感謝しております。

素晴らしい出会いの場として、これからの益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。それぞれの立場で頑張らせていただきましょう。ありがとうございました。

（昭和57年4月～58年3月豊平勤労青少年ホーム勤務）

（会社員）　永尾総枝

MASSAGE

おめでとうございます。私が協会にお世話になりましたのは、その10年間の間の瞬き一つくらいの期間でしたのに、何かこうして行事等々がある毎にいつもお知らせいただきうれしく、且つありがたく思っております。

そのような心配りが10年の歩みとなり、今後もますます飛躍されることを願っております。

最後に皆様の笑顔の裏には多大なる苦悩、苦痛があったことをほんの少しだけ垣間みることが出来ました。それだけに10年の歩みの重さを感じております。

（昭和57年5月～58年2月協会事務局勤務）

（主婦）　大津（菊田）洋子

MASSAGE

私は24歳で札幌へと嫁ぐ際、「かの地でライフワークを求めたい」と思って来ました。憧れはグループワーカーです。子供や自然にかかわり続けるのが若き日からの夢だったのです。そんな職場があるんだろうか？でも希望は捨てずに・・・。そしたら、めぐりあえたんですねえ、この協会と！季節が春を迎えるころ、滝野勤務をしていて、胸底からこみ上げてきた元気一杯の嬉しい気持ち、今でも忘れられません。そんなわけで、このメッセージ、私から協会へのラブレターになってしまいます。

「これからもずっとステキでいて欲しいの！」

（昭和58年2月～59年2月、63年4月～平成元年3月協会事務局勤務）

（主婦）　千葉未知子

㈶札幌市青少年婦人活動協会設立満10周年おめでとうございます。私が協会に指導員として奉職したのは、昭和58年 4月、以後２年間という短い期間でしたが、円山勤労青少年ホームに勤務しておりました。

協会といえば、指導員としての２年間も去ることながら、学生時代の確か昭和55、６年ころ、まだ協会の事務局がバスセンターのところにあったころ、狭く薄暗い事務所に初めて訪れたときのことを思い出します。

以後、指導員としての２年間を含め、協会の中で経験したことは私の貴重な財産として生き続け、協会の皆さんには迷惑の掛け続けでしたが、私にとって有意義な協会との出会いでした。佐々木順先生をはじめ当時の協会職員の方々には、深く感謝しております。

今後共、札幌市の青少年活動の拠点として、また青少年を対象とした事業を試みるものの渇望の的としての協会のご発展と、職員の方々のご健勝とご活躍を祈念し、設立満10周年のメッセージと致します。

（昭和58年４月～60年３月円山勤労青少年ホーム勤務）

（地方公務員）　**本間伸之**

MASSAGE

活動協会10周年おめでとうございます。私は協会に約１年間勤めさせていただきました。何かを求めてくる多くの利用者との出会いの連続であり、とても楽しく、また、勉強させていただきました。ここで学んだことを呼び水とし、これからも一期一会を大切に、接していきたいと思います。協会のご発展を心よりお祈り申し上げます。

（昭和58年４月～59年３月発寒勤労青少年ホーム勤務）

（会社員）　**越井孝幸**

MASSAGE

協会創立10周年おめでとうございます。現代人は病んでいます。人間としての本来の姿を見失いつつあると思います。自分を取り巻く人々や自然との調和が崩壊され始めています。何故、このような現象が生まれてきたのかは、言うまでもなく明らかなことです。現在のこの営利追求、弱肉強食の社会において、まさしくオアシスとしての位置づけにふさわしい協会になられることを期待しています。最後になりましたが、協会のますますのご発展と皆様方のご健勝をお祈りいたします。

（昭和58年６月～61年３月

石山青少年会館・ポプラ勤労青少年ホーム勤務）

（会社員）　**中島克恵**

MASSAGE

10周年おめでとうございます。私は婦人の地位向上を目指し、婦人文化センターで微力ながら１年７カ月経験させてもらいました。男の立場で婦人の動向を見てきましたが、そのエネルギーは地域の文化活動等を進めるため、重要な役割を担っていることを痛感したわけであります。今後とも婦人が気軽に社会参加ができる拠点として、その役割を果たすことを期待しております。

（昭和58年12月～60年７月

札幌市婦人文化センター次長・市派遣）

（北海道市長会次長）　**堂前　功**

MASSAGE

貴協会が10周年をお迎えとのこと、本当におめでとうございます。

私にとって協会に勤務していた４年間は本当に楽しく、そしていろいろな意味でたいへん充実したものでした。今後も貴協会のますますのご発展をお祈り申しあげます。

（昭和60年４月～平成元年３月

円山勤労青少年ホーム、中の島児童会館勤務）

（主婦）　**竹田あけみ**

MASSAGE

活動協会での３年間は毎日変化があって、ドキドキしながら過ごしていました。たくさんの人を見つめながら、自分も人から見られている緊張感は、協会を離れてから、なかなか良いものだったなあと感じていました。

私が働いていたころよりもずっと大きくなった活動協会をこれからも注目してゆきます！

（昭和60年４月～63年３月中央勤労青少年ホーム勤務）

（主婦）　小野（山本）繁美

MASSAGE

10周年おめでとうございます。協会の活躍は、いつも耳にしますが、その度に誇りを持てることをうれしく感じており、お世話になった3年間は、私にとって素晴らしくまた貴重なものとなっております。

今後も人間ひとりひとりの、生き生きとした魂を奮い立たせる活動協会であって欲しいと強く願い、10年というとても重みのある記念誌ができることをお喜び申し上げます。

（昭和60年4月～63年3月発寒勤労青少年ホーム勤務）

（西区民センター活動推進員）　山川由加里

MASSAGE

協会設立10周年おめでとうございます。世の為、人の為、ほとんど自分の為をモットーに10分の3を協会で過ごさせていただき、私はあふれるほどの知識を身につけ、あふれるほどの人間と出逢いました。あふれたハズの知識は3歩も歩けば忘れてしまったが、あふれんばかりの出逢った人間は決して忘れることのない宝となりました。これからも益々大きくなる協会ですが、水で量を増やすのではなく、酒、みりんなどを入れてコクのある協会に育って下さい。より一層のご活躍を期待しています。頑張って下さい。

（昭和60年4月～63年3月アカシア勤労青少年ホーム勤務）

（網走市総合体育館指導員）　石田かおり

MASSAGE

このたび協会10周年を迎えられ記念誌が編纂発行されますことを心からお祝い申し上げます。一口で10年と言っても設立時は大変ご苦労があったことと思います。

しかし、その中で着実に業績を残され、今日まで、このような立派な協会を築かれましたことは、若いエネルギーを結集し、職員一丸となって、それぞれの役割を果たした結果であると思われます。

どうかこの10年を一つの節目として、創造性にあふれ、無限の可能性を秘めた職員の皆さんの、ますますのご活躍と、大きな連帯の輪を広げ、ご発展されますことをご期待申し上げます。

（昭和60年7月～62年9月

札幌市婦人文化センター次長・市派遣）

（北区国保年金課）　藤倉勝士

MASSAGE

設立10周年、心よりお祝い申し上げます。微力ではありましたが、私も協会の活動に協力できたことを、たいへん誇りに思っております。

これからも協会の末永いご発展をお祈り申し上げております。

（昭和62年4月～63年3月

事務局・アカシア勤労青少年ホーム勤務）

（公務員）　石倉かおり

MASSAGE

10周年おめでとうございます。石山青少年会館で「油ののった仕事」をさせてもらい、よい勉強をさせてもらいました。子供好きな自分にとっては貴重な期間でした。子供たちと過ごせたことで今の仕事にとってたいへんプラスになっています。今後もこの経験を生かして、キャンプ等の活動のお手伝いをしたいです。最後に10周年を機にますますのご活躍を期待いたします。

（昭和63年2月～平成元年8月石山青少年会館勤務）

（遠軽家政高等学校教諭）　佐藤真一

コラム

小野寺奈緒美さん（前婦人文化センター館長）
川 島 利 子さん（前婦人文化センター専門員）の思い出
佐々木　　順さん（元協会常務理事）

〈小野寺さんの思い出〉

ある日、職員の動きがあわただしかったことがありました。ある女子職員は目を潤ませているほどでした。原因は「館長が異動する」というもの。私の記憶に間違いがなければ、部長に昇進するという話を異動と受け取ったためで、誤報だったわけなのですが。

組織人であれば異動は避けられないことは重々承知していた皆なのですが……。頭で理解していても、心では納得が出来なかったのです。あの涙は一体なんだったのでしょう。

きっとそれは上司対部下という立場を越えて小野寺奈緒美という人間を愛していたからだと思い感じるのです。

・館長はお菓子が好きである。食べながらヤセル本を読むことも好きである。
・館長はスキーが好きである。ニセコへ1泊旅行に行ったとき、〝歩くスキー〟を持っていくと真剣に話をしていたくらいですから。
・館長は川島利子先生を母親と感じたことがある。「かあさん！」と呼んだからである。

いろいろあるけど、そんな小野寺館長がとても大好きです。　（Y）

〈川島さんの思い出〉

「あんた、何言ってるの」と川島先生に一喝された職員も数知れず。付いたあだ名が〝べらんめえ利子〟言われてもイヤ味にならず、むしろハッキリ言うところが小気味良い。話し方がそうならば、歩き方もしかりで、常に風を切って歩いている。先生がその勢いで狸小路を歩いている時に、日本人離れした顔立ちと体格、白髪のためか外国人と間違われて、英語で話しかけられたこともあるとか。

サッパリとした性格の反面、面倒みがよく、先生の講演を聞いて魅了された婦人が訪ねて来ることもしばしばだった。その度に「あら、よく来てくれたね」と決して気どらない暖かい人格にふれて、再び感激する人も多かった。

オープン以来、先生のバイタリティあふれる生き方に若い職員は刺激されたはず。長い間婦人文化センターに行けば小野寺館長、川島先生が居るということはセンターの二枚看板だったような気がする今日この頃である。　（T）

〈佐々木さんの思い出〉

「おーい」先生の声がする。（残雪も少ない5月のニセコ高原。スキーが好きで、足前に多少の自信がなくては、この時期にこんなところで会う人は……）

以前先生とスキーをご一緒した時は、暖かい春スキーで、その時の先生は、オーバーパンツをはき、毛糸の帽子をかぶっていた。

呼ぶ声は確かに先生だが、姿がない。キョロキョロしていると、再び「おーい」と手を振って合図している。「先生がそのウェアーを着てるなんて思わなかったので、どこにいるのかと思いましたよ。でも、そのウェアー似合ってますよ」というと、「お前にそういわれると照れるなあ」と子どもが誉められたように喜んでいたのが印象的であった。

以前に私がアドバイスしたことを今でも覚えていて、「やっとお前に言われたことができたよ」ことスキーに関しては、まことに素直で私の言うことを良く聞いてくれるので、やさしいおじいちゃんといった感じである。仕事の顔と遊びの顔、同じ笑い顔でも一味違う。　（I）

職員の夢

協会には現在100名近くの職員が働いています。

青少年センター、婦人文化センターやこどもの劇場のように、全市的視野を要求される施設で働く職員。

児童会館のように、地域と密接に結びつきながら子どもたちの世話をしている職員。

Let's（勤労青少年ホーム）で若者たちの相談相手になり、共に悩みながら働いている職員。

事務局で事務をとったり全体を把握している職員。キャンプや野外活動の指導に走り回っている職員もいます。

その一人ひとりが懸命になって仕事をしながら、協会を支えているのです。一人でも多くの子どもたちが、青少年が、婦人が、札幌をいい街だと思ってくれるように。社会の中で活動していくことのすばらしさを感じてくれるように。

職員には夢があります。それぞれの現場で考えています。協会が市民の皆さんのお役にもっとたてるようにするためには……。

そのいくつかを紹介します。みんな現場の声です。一面的であったり、極端であったりもします。しかし、みんな10年やってきた人ばかりです。真剣に協会の将来について考えています。

そんな職員の生の声に耳を傾けてみてください。協会が見えてくるはずですから。

私（協会）の夢

街のなかのどこかに
ぼんやりとしている子どもがいたら
そっと笑顔を届けたい

暮れていく街のなかを
さすらっている若者がいたら
握り合う手を差しのべたい

日々のくらしのなかで
空しさを感じるお母さんがいたら
おしゃべりの声を聞かせたい

この街のなかで生きていこうとする人々に……

たとえば、今これを読んでいる〝あなた〟が、あなたの生きたいように生きようとすることは、贅沢なことだと思いますか？

たとえば、あなたの大切な人々が、生まれてからこの世を去るまで、日々幸せに暮らすことは、無理なことだと思いますか？

たとえば、地球が持っている様々なエネルギーは、地球上に生きている人々全てが、人間らしく生活しうるには、たらないものだと思いますか？

合理化社会、人間疎外、個人主義、核家族、価値観の多様化、没個性、ステレオ・タイプ etc. 一見相反するようなことばを、今の日本の社会の特徴として並べることができます。そしてまた、男と女、日本人と外国人、健常者と障害者、大人と子ども・老人……様々な差別が、今もなお現存しています。

こんな中で、〝あなた〟は、あなたの人生を生きているのです。多くの人々が、その人の人生を生きているのです。「何か変だな」「どうしてこうでなければいけないのだろう」「もっとこんなふうになったらいいのに」人々は色々な思いを、考えを持って生きているのです。

当り前のことだけれど、大切なこと。一人ひとりの〝あなた〟が、自分のこと、家族のこと、友人のこと、仲間のこと、近所の人のこと、人生の中で出会う人々のこと、そして、今世界中で生活している自分以外の人々のことやこれから生まれてくる人々のことを、どんなふうに考えているのか。そのことが、この社会がどうなっていくのかを決めていくのだと思います。

社会を変えるには、色々な方法があります。たとえば、国が法律を定め、罰則規定を決めて人々を変えていく方法もあります。反対に、一人の人間の声が志を同じくする人々を集め、長い時間をかけながら周りの人々の意識や、法律を変えていくこともあります。たくさんの方法があり、色々な立場の人がいるから、今も様々な試みがなされ続けているのです。

そんな中で私（協会）の夢は、……。

この世の中に生きている〝あなた〟が、自分の意志で自分の生き方を選び、出会うであろう様々な困難に対し、共に生きる人々と立ち向かっていきながら、〝あなた〟だけではなく、あなたが住んでいる地域や、直接・間接的にかかわっている多くの人々も、共に幸せになれるように、あなたが出来ることを積み重ねていってくれること。そして、そういう〝あなた〟が、たくさんたくさん、色々なところでがんばって生きていて、たとえ一人ひとりはお互いに知らなくても、そんな仲間がいっぱいいるってことを信じていけるような社会になることなのです。

だから、そんな〝あなた〟が一人でも増えていけるように、私（協会）はこれからも出来ることを続けていきます。たくさんの〝あなた〟が、色々な人々に出会い、悩み合い、共に生きられるように。色々な出来事を経験し、挫折し、再びチャレンジ出来るように。

そして、うれしいこと、悲しいこと、つらいこと、悔しいこと……。いろんな思いを、誰でもない〝あなた〟自身の胸にしっかりと抱きしめ、その思いを〝あなた〟の大切な人々へ伝えていけるように……。

札幌市婦人文化センター勤務　**田辺 菜美子**

協会のこれから・私見

協会の前身であるグループワーク協会に就職して以来10年がすぎ、「あなたの仕事はなに？」と人に聞かれると「ウーン……、いろいろな人の集団活動をお手伝いすることかな」と漠然と答え、就職後初の国勢調査の際にはグループ・ワーカーと記入したものの、２回目には団体職員と記入し、今だ自分自身のアイデンティティが確立していないのが現状です。

ただ、私がかかわっている仕事は、人々が皆仲よく楽しく幸せな生活ができるようになれば消滅する、いわば自分で自分の仕事をなくしていく方向で取り組んでいるのだと信じ、ちょっぴり誇りも感じてやってきました。

しかしながら、国民的に週休二日制の実施に伴う余暇時間の増大等により、われわれの仕事がなくなるどころか現段階ではますますその需要が高まり、質・量（？）共に問われはじめたといわざるをえない時期に来ていると思います。

協会の「これから」を考える上で重要と思われるのは、「地域」と「子どもたち」への対応をどうしていくかということです。

生活の中で〝しあわせ〟と感じるためには、個人の願望の達成とそれをある意味で支える地域の連帯意識ともいえるものが必要であり、これはもはや行政サイドのサービスだけに頼っていてはいけない状況にあると考えます。行政と協力しながら、地域の問題は地域で考えていく体勢づくりが必要でしょう。

また、地域の中で育つ子どもたちが、より豊かな環境の中でいろいろなものを取り込んでいけるような条件整備もしていかなければなりません。これは大人の責任でもあります。

このために協会が地域の中でのよろずコンサルタントとしての機能を果たせないかと考えます。そして、この基地として協会が管理運営をさせてもらっている児童会館を活用するのです。

地域の問題を全市的視点ではなく、地域の中に入り込んでいって、そこでいろいろな風を送り込んだり、逆にいろいろなニーズをひろう……。そうこうする中で大人への対応、そして子どもたちへの働きかけによる協会の考え方の浸透をはかっていくことができるのではないでしょうか。もちろん、町内会への具体的なかかわりをもって実施していくことはいうまでもありません。

子どものための児童会館を基地として、これを取り巻く大人社会へいろいろな電波を発信したり受信したりすることができれば、いずれ大人になる子どもたちに少なからず影響を与えることができるばかりでなく、子どもを仲だちとしてその周りの大人たちへ働きかけることができると考えます。

全市的なかかわりを大切にすると同時に各地域へ上記のような形で根をおろしていくことがこれから必要であると考えます。

協会事務局業務課　**岩尾　智子**

青少年のための活動センター構想

どうせ夢なのだから、とてつもないことを考えてみたいが、いやまてまて、近い将来に出来るのではないか、いや絶対につくりたい施設について考えてみることにしたい。

仮称「札幌市青少年活動センター」

この名称は、もちろん財団法人札幌市青少年婦人活動協会の「活動」から引用した。

青少年が安心して、自由に使える場所を具体的に考えてみる。

1、スポーツ的な施設
(1) トレーニングルーム
(2) 体育館
(3) テニスコート
(4) 更衣室・シャワールーム
2、文化的な施設
(1) 小ホール
(2) 音楽練習室
(3) 会議室
(4) 談話室（円卓テーブルはぜひほしい）
3、情報室
(1) 全国・全道・札幌市内の青少年活動のデーターバンク
(2) サークル情報
(3) 印刷コーナー
4、宿泊研修施設(100名程度収容できれば十分である)
(1) 食堂・軽食コーナー
(2) 自動販売機
5、サークル専用室
ある一定の条件を満たしたサークルには、専用室の使用を認める。(壁ではなくともパーテイション的なもので仕切られていてもよい)
6、相談室
仕事やさまざまな悩みについて、専門家の方にアドバイスをしてもらう。
7、その他必要と思われる条件について
(1) 交通の便がよい
(2) 駐車場の確保（若者の集まる施設では必需品である）

以上のようなことが考えられるが、ここで重視しなければならないことは、単に青少年に使ってもらおうということにとどまらずに、青少年の活動を援助していけるような施設づくりを考えることである。

青年たちが気軽に集まれる空間と情報提供、サークルの活動等の拠点として、これから活動を始めようとしているメンバーへ、長年活動しているメンバーから、アドバイスをもらったり、さまざまなサークル活動の様子が一目でわかる。また、他都市との情報交換もできる施設。

この施設を利用してもらうことによって、自分たちの活動のみにとどまらず、横のつながりや社会参加の足がかりとなればと思う。子どもたちの城が児童会館だとすれば、青年のための城ともいえる施設があってもいいのではないか。

この施設の管理運営は、その分野での経験があり、ソフトを持っている強みで、当然、活動協会が行うことになろう。

中の島児童会館勤務　**大川　泰尚**

2000年……協会は今

最近都会ではほとんど耳にすることのない鳥の声でふと目が覚めた。大気汚染の空にはない、まぶしいばかりの太陽の光。いつの時代であっただろうか、このような体験をしたのは……。滝野にまだ自然学園があり、子どもたちと土まみれになってキャンプをしたあのなつかしい日々が、走馬燈のように脳裏をよぎる。

今私が目覚めた所は、日高にある協会所有のキャンプ場。すでに札幌近郊にはキャンプ場に適した地はなく、札幌から離れたこの場所に町と一体になって一大キャンプ場を建設した次第である。しかし、リニアモーターカーが道内を網羅している今日では、札幌からの移動にはさほど時間を要しない。そしてリニアの駅からは昔なつかしいＳＬ、ＧＷ（ガウー）号で現地へ到着。時間にすると昔真狩へ出かけた時よりも短時間なのだ。ここはキャンプ場と言っても、道の自然保護指定地域に位置するため、自然を生かした山あり、湖ありの好立地条件である。その中をのぞくと、大研修や大会も可能なコンベンションホールをメインロッジに、天候に左右されずにキャンプを楽しむことのできるドーム内テント村、年間を通じて手作り体験が可能な農園ドーム、鳥、虫、動物の生態観察や飼育もできる生物ドームなど自然空間に満ちあふれている。また、宇宙ドームにおいては、未来体験ができると共に、悪天候でも天体観測可能な天体望遠鏡を備えている。このほかに、協会では奥尻島の沖に海底キャンプ場を所有し、事前の健康チェックに合格した人だけが利用できるシステムとなっている。これらの施設を優先的に使用できるように維持会員登録制を導入し、家族、企業単位での登録を実施している。また現在では、昔児童クラブ、学童保育と呼ばれていた制度は姿を消し、新たにチャイルドハウスとして、母親が就労中の家庭の小学６年生までの子どもを対象に、遊びや学習の場を提供している。出生率の低下による労働力不足が深刻化している今日では、専業主婦は存在せず、すでにその言葉自体が死語となってしまった。

実はこのチャイルドハウスも市だけで建設したものではなく、企業が〝親たちに安心して働いてもらえるための子どもの環境をつくろう〟という協会の呼びかけに、共同出資という形でつくった施設である。これは医療設備、食堂なども完備したところで、親が帰宅するまでの時間を有意義にかつ快適に子どもが過ごせるようにと細かな配慮がなされている。希望者にはここでの子どもの生活ぶりをビデオで撮影し、貸し出しもしている。　次にここを卒業した子どもや母親の施設はどうなったかというと、青少年、女性センターとして旧婦人文化センター跡地に建てられ、当時はなかった男性センター、シルバーセンターも隣接して建てられている。人口の半数が60歳以上となった現在では、子ども対象の事業だけでは時代の要求に応えることは難しくなってきた。むしろシルバー対象の企画が年々増えてきていることは否めない事実である。

では、このような事業に参加するにはどうすればよいのだろうか。協会が行う全ての催しは、キャプテンシステムが導入されていて、家庭にいながらにしてボタン１つで申し込むことができる。また参加費も申し込みと同時に金融機関より引き落とされ、詳細についてはファックスで家庭に要項が届くしくみになっている。昔、窓口先着順で列をなして受付をしていた時代がなつかしく思える。このほかに、協会の指導をソフトで提供するＡＶセンターを開設、キャンプの進め方、家庭行事、グループ活動の進め方等のビデオを作成し、レンタルから販売まで行っている。また、希望があれば、学校、家庭、企業、地域等へのテープの宅配、実技指導も併せて実施しているという具合い。

では、協会の事業に関するＰＲは現在はどのようにしているのであろうか。

ＮＴＴとの契約によるキャプテンシステムの利用はもちろんのこと、民間放送を利用してＰ

R番組を作成し全家庭に送り込んでいる。また、各デパート、スーパーなどにPRコーナーを開設し、単なる事業のPRだけでなく、社会教育、家庭問題に関する相談も無料で実施。協会を退職したシルバー職員が長い経験を生かして相談にあたっており、大いに活用されている。

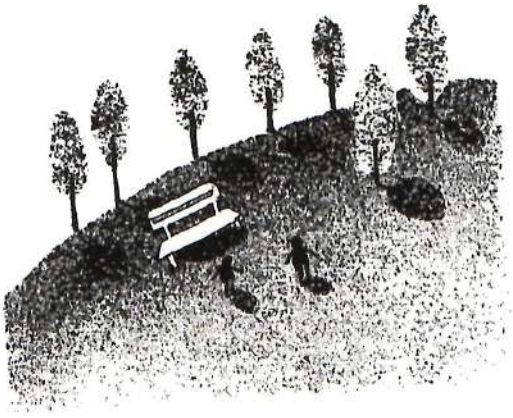
一方では事業が年々拡大していく中で、人材の確保、職員の養成にも力を注いでいる。過去に5名程だった女性プロパーも今や男性を上回る勢いで、主に力仕事などはロボットが行うようになった現在では、特に職種による男女差別は見られない。また、就労後2年を経て論文を提出した者について、合格すると1年間の海外への留学の道が開かれている。女性の労働条件についても非常に整備され、3年以内の育児休暇と希望者に対しては家庭にいながら、協会のソフト（プログラム）開発の仕事につく道もある。どの企業も労働力不足のおり、働く人たちの職場での労働条件の整備は最も力を入れていることなのだ。

では、過去に実施していたGW（グループ・ワーカー）の研修、婦人ボランティアスクールはどうなっているのか。昔は対象者を市内居住の人に限定していたが、全ての人々に平等な学習の機会をという点から、また仕事をしていてもボランティア活動を行うことが珍しくない今では、対象者に対して有線放送を利用したテレビ講座を1年間のプログラムで開始。年に何回かの実習とレポート提出を行って、講座修了時には札幌市のグループ・ワーカーとして登録され、自動的に要請に応えられるようになっている。このほかに修了生には新しい情報として、協会本部から年2回のテキストが送付される。市外に転出した際は、その地域のボランティアとして登録されるシステムとなっている。

しかし、現在に至るまでには、幾多の問題が存在したことを忘れてはならない。と同時に情報化社会、スピード社会のひずみがいたる所で表面化している今日こそ、社会教育が社会の中でになう役割は図り知れない程である。

今後も事業拡大に伴う職員の増加が予想される中で、労働条件の改善、整備、職員間のグループ・ワークの必要性が唱えられていることは、昔も今も変わらぬ協会の永遠の課題ではなかろうか。

札幌市婦人文化センター勤務　**寺田　陽子**



あとがき

㈶札幌市青少年婦人活動協会
事務局長　髙　橋　邦　臣

当協会が設立されてから、10年の歳月が流れました。現在まで、ご指導、ご支援、ご協力を賜りました札幌市、札幌市教育委員会並びに関係各位に対しまして、衷心より感謝の意を表し、心から厚くお礼申し上げます。

当協会が昭和55年４月１日設立後、５年を経過した昭和60年６月に一つの節目として、その実績を総括した記念誌を発行しましたが、それからさらに５年の年月が流れました。

その間、昭和から平成へと歴史の動きを、目の当りにしたところであります。

このたびも、10年を大きな節目として、記念誌を発刊しようと、記念誌発刊のためのプロジェクトが構成され、資料のとりまとめ、関係者への執筆依頼、原稿作成と作業を進めてきました。

何分にも、限られた紙面故、十分にご満足頂けないむきもあろうかとは存じますが、それなりの努力に免じ、ご容赦下されば幸であります。

発足当時、職員15人、５年では50人、現在は90人を超える世帯となりました。

その間、青少年婦人に関する諸事業、リーダー養成、施設管理運営等事業実施にあたっては、より向上した実績をあげるべく、職員一同取組んでいます。当協会の事業に参加した方々から、おほめの言葉をいただいた時は職員の大きな励みになっております。

青少年の健全育成と青少年婦人の社会参加の促進を目的とする当財団の基本理念をふまえ、新しいスタートラインにたったという心構えで業務遂行にあたる所存です。

今後とも各位におかれましては、よろしくご支援ご協力賜りますよう、お願い申し上げます。